Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
001a	あり	課題を提示し、解答できたものからマンツーマンで解説を行う。課題は難度の異なるものを設定し、学生が、自分のレベルに応じた課題を選択する。	学部専門	講義	意図02，意図03，意図04，意図06，意図07，意図10
001b	あり	小テストを行う。レポートを添削返却する。		実験・実習	意図07
001c	あり	文系向けの理系科目で、焦点を絞った説明･トピックスをとりあげたり、理科ネットワーク等のメディアの利用を行っている。 題材は理系であるが、考え方（哲学）･社会問題を提示することを心がけている。板書を中心とし、PowerPointは数枚しか使わない。	学部専門		
002a	あり	映像をほどよく使うこと。			意図14
003a	あり	課題を課したグループワークを行っている。課題を興味ひくものにした。自由な発想にしたところ学生から楽しく興味深く、学習効果も感じられたと意見が多くあった。	学部専門	講義	意図05，意図06，意図07，意図08
008a	あり	最初の講義でその学問の重要性、勉強の仕方についてみっちり話をする。	学部専門	講義	
008b	あり	授業中に多くの演習問題を解かせる。今、学んだことの復習、知識の使い方を修得させるのに役立つ。	大学院		
008c	あり	授業の始めに毎回小テストを行う。その直後に解説を行う。また適宜小テストの成績を学生に知らせる。これは学生が毎回復習を行うモーティベーションとなり、知識の定着に役立つ。	全学共通		意図13
009a	あり	学生による企業でのフィールドワークを行う。			意図10，意図11，意図12
009b	あり	学生による共同論文執筆を行う。	学部専門	講義	
009c	あり	自分で取材した企業の事例紹介を行う。	学部専門	講義	意図08
010a	あり	毎回、授業の概括、感想、意見などを書かせている。	学部専門	講義	意図14，意図15，意図16
010b	あり	毎回、小レポートを課し、事前に予習をさせた上で授業に臨ませるようにしている。	学部専門	実験・実習	意図07
010c	あり	毎回、ビデオや映像を用いて、学生にわかりやすく理解させる取り組みを行っている			
011a	あり	課題を見つけ、相互にディスカッションすることで新しい視点を得させた。またディスカッション後、論点を整理させ、レポートを作成させた。	全学共通，学部専門	講義	意図01，意図03，意図17

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
015a	あり	古典的なテキストを読んでもらって、学生と、何度も討論、質疑を重ね、法の基本的な思考方法を定着させた。この基本的な思考方法が現在は疑問視されているけれども、基本を理解しないと基本に対する疑問も理解できないので。読んでもらうテクストは、量的にかなり限定し、くり返し読み、精読の訓練をかねた。出席者数は少なかったが、教師も学生も満足度が高かったように思う。			
017a	あり	その時々の社会的トピックスを授業に取り入れる。	学部専門	演習・ゼミ	意図07
018a	あり	講義前あるいは講義後に小テストを行う。講義前に行うときには、前回の講義の復習になる。講義後に行うときには、その日の授業内容を把握できているか確認できる。必ず、前後のどちらかで小テストを行っている。学生からの評判がよく、自宅で復習をする学生が増えた。	学部専門	講義	
019a	あり	ある種の管理手法について講義していたが、その内容について理解を促すために学生を班分けし、各々に会社の管理担当部門として講義内容に基づく作業工程を検討させ、フローチャート化して発表させた。	学部専門	講義	意図01
019b	あり	学生実験ではTAと院生のボランティアによって学生7～8名に1名の院生が付き添えるようにしたところ、好評であった。	学部専門	講義	意図04，意図09
019c	あり	著作権の関係でプリントにしにくい最新の専門書籍の図等を、パスワードを受けた者だけが閲覧印刷できるようにしたPDFファイルとしてTIESのサイトに置き、授業中のPowerPointファイルの図表を入手できるようにした。	大学院	講義	意図06
021a	あり	双方向の小テスト、小レポートをほぼ毎日実施し、授業の理解度をはかる。	学部専門	演習・ゼミ	意図07
023a	あり	講義内容に関連する最先端研究施設へ見学に行き、最先端研究に触れる。動機づけに効果的であった。	学部専門	講義	意図01，意図02
023b	あり	大学教育研究センター教員に授業に参加してもらい、グループディスカッションを実施した。学生の思考力を高めたり、他人への説明（プレゼン）能力を高める点で効果的であった。	学部専門，大学院	講義	意図05
023c	あり	毎回講義内容の章末問題をレポートとして課し、復習を実施させる。	学部専門	演習・ゼミ	意図01，意図04，意図05，意図06
026a	あり	質問に答えさせる。	学部専門		意図08，意図20
026b	あり	症例提示を行うことで、効果が見られた。	全学共通，学部専門，大学院	講義	
026c	あり	動画提示を行うことで、効果が見られた。	学部専門	講義	意図04，意図07

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
027a	あり	学問性を重視することが大事である。また、学生扱いしないことも大事である。	学部専門		意図18
028a	あり	I try to use outside speakers for zemi, but the rules make it very difficult. All these items are important but hard to actually do them.			
029a	あり	学生コンテストへの参加、他大学ゼミとの交流を行うことで、効果が見られた。	大学院	講義	意図08
029b	あり	企業訪問や工場見学を行うことで、効果が見られた。	学部専門	講義	意図01
029c	あり	講義に関する、独自のアンケート調査を行った。		講義	意図01，意図04，意図14，意図15，意図17
030a	あり	英語でカレッジ・イングリッシュの授業をした。	学部専門	講義	意図07，意図09，意図12
030b	あり	語学演習室で視聴覚機器を使った。	学部専門	講義	
030c	あり	小テスト、レポートを利用した。	学部専門	講義	意図17
034a	あり	工学なので実体と結びつけて説明する事、その際板書が効果的であろう。	全学共通，学部専門，大学院	講義	意図07
034b	あり	大学院生に学部生の基礎ゼミを行わせた。	全学共通，学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	
035c	あり	当該科目の応用例として、実用的な話などをすると学生の食いつき方が違う。	全学共通	講義，演習・ゼミ	意図01，意図02，意図05，意図09
036a	あり	学部の実験授業で教科書と配布物を作成した。学生が実験の流れや使用する機器について事前に把握しておき当日スムーズに行えるようにすることが目的である。そのために教科書の内容をまとめて「事前レポート」を実験前に作成させるようにしている。	学部専門	講義	意図07
037a	あり	施設でのオリエンテーションを十分に実習前に行い、動機づけや事前学習を行うことを強調することによって、主体的に学べるようになった。	学部専門	演習・ゼミ	意図01，意図03，意図07
037b	あり	PowerPointの使用を写真を示す程度にとどめ、学生にノートを取るように講義を展開している。→学生が授業に真剣にとりくむようになった。	学部専門	講義	意図02，意図05
038a	あり	講義は4時限にお願いしている。そのため、講義後、次の講義を気にかけることなく、学生の質問に答えることができる。その次の講義では、前回の講義後の学生の質問内容と、それへの解答を全て学生に紹介している。	全学共通	講義	意図07

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
038b	あり	関連する内容の新聞記事を講義中紹介している。学生の興味、関心を喚起すると思われる。講義後感想を述べる学生もいる。	全学共通	講義	意図01，意図02，意図03
038c	あり	講義の前にどの項目を学生に質問するかを前もって用意している。講義中、学生に質問するよう心がけている。その結果、学生の参加意識が高まると思う。	学部専門	講義	意図09
040a	あり	ミニテストを行うことで、効果が見られた。	学部専門	実験・実習	意図06，意図07
041a	あり	TAの配置、ガイダンスの充実を行うことで効果が見られた。	全学共通，学部専門	実験・実習	意図10
041b	あり	インターネット上にホームページを開設し、講義資料や過去問をオープンにしている。	学部専門	講義	意図08
041c	あり	教育ビデオを利用している。			意図07
042a	あり	全部英語により専門教育で毎回英語による課題を出し、それを添削して返した。学習状況の把握及び、モチベーションの増大につながった。結論“英語は読み書きである”	全学共通		意図07
042b	あり	初学年授業にて、ディベートと発表を前提としたものを行い、グループ分けをして討議を行った。是非を問うのではなく、ある種の意見を前提にOral Defenceを行った。ケーススタディによる精緻な議論を行えた。	学部専門		意図14
042c	あり	英語による講義を行った。約15年続け、次の人にバトンタッチを行った。講義者にとってもプラスになる。	学部専門	講義	
044a	あり	解析計算課題と結論のみを伝え、自習させることで解析能力が向上した。	学部専門	講義	
044b	あり	理論式を説明した後に、それを適用する設計計算の例を示して演習させる。	全学共通，学部専門	講義	意図16
045a	あり	子どもを病気で失った母親に講演をしてもらい、医師の患者や家族に対する説明の仕方や接し方について患者側からの気持ちを学ぶようにした。	学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	意図02，意図11，意図12
045b	あり	蘇生の実習。1分以内に気管内挿管し、蘇生を完了させた。10点満点で評価を行い、挿管終了までの時間を競わせた。	学部専門	講義	
045c	あり	世界最先端の医療や科学について、映画のシーンをとりいれて重要性を印象づけた。			意図13，意図17，意図20
046a	あり	自分の立場で考えさせるテーマ、事例を呈示し、文章で書かせてメールで教員に送らせた。それを次の講義で用いるようにした。			

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
048a	あり	スライドを分かりやすく作ること。 授業後の個人的質問について、次の授業で答えを紹介した。	学部専門	講義	意図03，意図05，意図07，意図09
049a	あり	クイズ形式で質問する。その結果学生自身が集中して考えるようになった。	大学院	講義	意図04，意図14
050a	あり	Facebookを通じた情報提供、ディスカッションを行った。	大学院	演習・ゼミ	意図09
050b	あり	缶コーヒーの試飲によるポジショニング・マップの作成を行った。	全学共通	講義	意図07
050c	あり	ケーススタディでの発言ポイント制を行い、成績に反映するようにした。			意図08
051a	あり	事例研究、記録に基づく観察を用い、記述力の育成を試みた。	学部専門	講義	意図02
051b	あり	グループによる1つのテーマを決めた「課題研究」を行った。	全学共通	講義， 演習・ゼミ	意図11，意図12
052a	あり	小テストをほぼ毎回実施し、毎回解答を板書したことは有効であった。	全学共通	講義	
052b	あり	専門の研究の経験を話して聞かせた。			意図01
053a	あり	担当してもらう患者の病態について自己学習にて理解してもらい、実際の治療経過とあわせて日々の変化について説明してもらう。	全学共通， 学部専門	講義	意図12
053b	あり	授業後に時間をとり質問をうけつけるようにした。	学部専門， 大学院	講義	
053c	あり	学会に参加し最前線の知識を習得しておき授業にいかすようにした。	全学共通		意図08
054a	あり	病棟での実習の時、患者の説明をまず先にしてもらい、その後適時修正した内容を説明するような方法を取り入れた。	全学共通		意図07
056a	あり	優れた臨床医になるという、最終目標を明確にした上でのBSL（臨床実習）を行った。	全学共通	演習・ゼミ	意図05，意図06，意図07，意図08
056b	あり	実地症例を用いた症候学、診断学講義を行った。	全学共通	講義	意図05
059a	あり	PowerPointを使うだけではなく、実物の標本を見せて説明するようにした。	学部専門	講義	
061a	あり	学生同士での指導評価を行わせた。	全学共通	講義， 実験・実習	意図01，意図02，意図07
061b	あり	患者を非常勤講師に招いて、患者自ら学生と対話的に双方的指導を行っている。			
062a	あり	教科書的な知識のみの提供では、学生は興味を持たない。その知識が確固たるものになるまでのいきさつ、つまり「歴史」を話すと学生は興味をもってくれた。			

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
062b	あり	授業の合間に、あるいは学生が退屈してきたときなど、自分の学生時代の勉強法、大学教員になった動機や活動など、実体験を紹介すると、非常に関心をもってくれた。			意図14
062c	あり	できるだけ多分野からの情報も取りいれ、授業用PowerPointや資料をつくっている。	全学共通	講義	意図05，意図06，意図08
063a	あり	小テストを実施している。	全学共通	講義	意図05，意図06，意図08，意図20
064a	あり	学生自身にやってもらうフィールドワーク内で、自分の足で、自分の目で都市の形成を確かめ文書化することを求めた。	学部専門		
064b	あり	チーム編成し、学部生とペアで院生によるフィールドワークの実施、調査レポートの作成を行わせた。			意図01，意図02，意図07，意図08，意図09
064c	あり	半分はゲストスピーカーを招き、具体的な現場の取り組みを学んでもらった。ときにはフィールドワークも入れている。	学部専門，大学院	講義	意図01
065a	あり	学生間で小グループを作成し、グループ内で意見をまとめ発表しあう事で、取り組む姿勢が向上しただけでなく、伝える体験を通じて一層の理解が深まった。	学部専門		意図07
067a	あり	視聴覚機器を利用した最新の知識の紹介を行った。	学部専門，大学院	実験・実習	意図10，意図17
068a	あり	漢方を扱う授業では、漢方薬を実際に服用してもらっている。また原材料を手で触って見てもらっている。研究会への参加もうながしている。			意図04，意図05
068b	あり	作成したDVD教材を見せている。	学部専門	講義	意図07
068c	あり	授業評価をさせており、また授業を10分前には終了し、授業毎に質問時間を取っている。試験数日前にも質問時間を設けている。	全学共通		
069a	あり	英語論文を作成させる。	学部専門	講義	
069b	あり	実臨床にできるだけ多く接する機会を持つ	学部専門	演習・ゼミ	意図08
069c	あり	積極的に学会で研究成果を発表させる。	全学共通	講義	意図02
071a	あり	最新のトピックスを盛り込む。			意図01，意図02，意図03
072a	あり	実例を示して、解決までグループ内で討論を行わせている。	学部専門	演習・ゼミ	意図08

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
074a	あり	1回生対象の授業（コミュニケーションの授業、3日分）のうち、最終日に最上回生に授業をしてもらう。90名の1回生に対し、約10名の上回生ボランティアが学生を10グループに分け、グループ作業、全体の授業をしてもらう。	学部専門	演習・ゼミ	意図02
074b	あり	小グループに学生を分け、各グループに名前を伏せた薬物を渡し、実験動物に投与させ、得られた反応から薬物の種類と見られた反応の機序を学生同士で考察させた。	学部専門	講義	
075a	あり	授業の際に利用した資料をよみ分けてもらい、質問をして順番に回答してもらった。講義を聴くだけでなく、実際に質問に考える力を習得してもらうように工夫した。	学部専門	講義	意図17
076a	あり	文章だけでなく、実際の写真や動画をPowerPointで提示する。	学部専門，大学院	講義	意図13
077a	あり	古典の読解を2人1組でさせることがあるが、1人でやるのに比べて、人間同士の間の意見調整が必要となり、コミュニケーションスキルの向上やプレゼンの工夫につながっていると思われる。	全学共通	講義	
077b	あり	提出物（授業内容に関連するもの）の義務付けは学生の理解度や疑問点を知る上で有効であり、現在も続けているものである。学生にしても自分は見てもらっている感覚が生まれて関係を良好に保つことにつながると思う。	学部専門，大学院	演習・ゼミ	
080a	あり	実習初日に小テストを課し、最低限必要な知識の確認と定着をはかった。	全学共通，学部専門	講義	
081a	あり	画像を多く取り入れたPowerPointで授業する。	学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ，実験・実習	意図01
084a	あり	試験（過去の）問題などをスライド（PC)に出してその場で学生に解答してもらう。			意図11
085a	あり	研修医に症例検討発表を行ってもらうにあたり、論文を紹介、読んでもらい発表に役立ててもらったこと。		講義	意図17
086a	あり	扱うトピックに関わるドラマのDVDを用いた。研究手段を理解させるのに役立った。	全学共通	実験・実習	意図10，意図17
086b	あり	研究力を意識し、国の研究班をリーダーとして組織。研究班会議を傍聴させた。日常の学問（授業）レベルを越えた、高度なレベルの知識を吸収させるのに役立った。	学部専門	実験・実習	意図05，意図06，意図08

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
086c	あり	全ての講義で学習内容、キーワードを記したレジメを配布した。復習に役立っている。	全学共通	講義	意図01，意図17
087a	あり	質問形式で個別学生に当て、答えてもらう。	学部専門	講義	意図13
087b	あり	前勉強を20分くらいしてもらい、実習を行い、まとめをする方法。	学部専門	演習・ゼミ	意図08
089a	あり	実習時点で忘れていた知識を再確認するための小テストを実施している。これで1年前の系統講義の内容を思い出させた。	学部専門，大学院	演習・ゼミ	意図14，意図15
091a	あり	扱うトピックに関わる成果が、実際何に使われているのかを紹介している。インターネットやスマートフォンの話題を基礎的な学問の中に入れる。	学部専門	講義	意図05
091b	あり	PowerPoint、動画を使って最新の研究を紹介する。	学部専門		意図02，意図17
092a	あり	Youtubeにアップされている映像の元をもらい、講義中に見せた。昨今の学生は教科書を読んで、文章を頭の中で整理する（つまり、内容を理解する）ことがほとんどできない。そこで、アニメーション化された教材を見せることで書いてあることを視覚的に理解させることを目標とした。これにより理解できたとアンケートで答える学生が多かった。	学部専門	講義	意図02，意図17
092b	あり	学生実験にTAをつれていく。学生は実際の研究とはどういうものか知らない。TAを連れていくことにより、実験指導の補助を行ってもらうが、時間には余裕があるので、雑談させることにより、近い将来の自分を想像させている。但し、先生の噂話に終始しているようにも思う。が、研究室の雰囲気を知るには良いようだ。	学部専門	演習・ゼミ	
092c	あり	最新の研究では、とか、逆に皆さんが食べているもので・・と言った身近なものを取り上げて関連付けた雑談のように話す。私の講義アンケートで一番多いのが、「雑談がおもしろかた。」と言うもので興味をもって聞いてもらえる様である。しかし、これが本当に「学び」につながっているのは疑問である。学生は「笑いに」来ている風にも見える。	全学共通	講義	
095a	あり	手術手段などは動画を用いて、具体的なイメージがわくように工夫した。また、学生の集中力がつづくように、こま切れに余談をはさむようにした。	学部専門	講義	意図07
095b	あり	適当に指名して、自分で考える間を与えた。	全学共通	講義，演習・ゼミ	意図05，意図08
098a	あり	具体的事例を提示している。写真、実物（臓器等）、患者症例などを用いた。	学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	意図13，意図17
098b	あり	分かりやすい実習マニュアルを作成している。	学部専門	講義	意図11，意図12

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
100a	あり	学内、学外において、実際の現場に出てインストレーションを行わせることで、地域住民の他、様々な人々との交流などコミュニケーション能力を高めるのに役立った。			意図02，意図07
100b	あり	授業の成果を発表会という形で学内で公開した。公開のための特別練習や準備など、チームワークについて多く学びかつ、人前で発表するという、あまり得られない体験をすることによって、達成感がより大きくなった。			
101a	あり	PowerPointで資料作成し実際に1時間30分他の教員（上司）に授業を行い意見をもらった。学生がより興味を持てる様な観点でアドバイスをもらい少し修正した。			意図17
101b	あり	職業のキャリアパス形成（研修、留学、専門業務、研究）の話はほとんど学生が興味を持つ。			意図17
101c	あり	講義を少人数単位（4～5人）で行っており、自由に質問できるようにしている。授業前に予備知識、理解度をチェックしてわずかだが授業レベルを変更している。	全学共通		意図11
102a	あり	学会に行って知識をつける。			
102b	あり	研究の話をする。	学部専門	演習・ゼミ	意図02
102c	あり	問題を与え、考えさせる。	大学院	演習・ゼミ	
103a	あり	意図的な3Dを使ったインタラクティブPowerPointを使用している。	学部専門	演習・ゼミ	意図07，意図08
104a	あり	PowerPoint中心に講義を行い、その印刷物を事前に配布しておく。	全学共通		意図17
104b	あり	無記名の授業評価アンケートを授業終了後に実施することで、次回の講義に向けて改善が必要な点が明確になる。	全学共通	講義， 演習・ゼミ	意図07，意図08，意図09
105a	あり	患者説明用パンフレットを作製している。それを学生に提示することで、わかりやすいと評判だった。	学部専門	講義	意図01，意図04，意図05
105b	あり	医学系の実習において、自分の細胞をもとに診断を付けるという実習を行ったところ、学生の興味を引くことが出来た。	全学共通	実験・実習	意図04
106a	あり	学生に質問をできるだけ多くしている。			意図15
106b	あり	グループでの実習ではできるだけ参考となる教科書を持参し、学生が自主的に調べるツールとしている。	学部専門	実験・実習	
106c	あり	PowerPointで動画をくみ入れ、視覚的に授業を行っている。		講義， 演習・ゼミ	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
109a	あり	医学部であり、まず症例提示を行うことで、効果があった。	学部専門，大学院	講義	意図01
109b	あり	学会などで発表させ、ディベートさせることで、効果があった。			意図08
109c	あり	重要なことはくり返すことで、効果があった。	全学共通，学部専門	講義，演習・ゼミ	意図01，意図02，意図03，意図04，意図05
110a	あり	動画の使用を行うことで、効果があった。	大学院		
115a	あり	病院実習前の学部生に対し、病院手術室や外来での診療をスライドや動画を用いることで、身近に感じ興味を抱かせる。	学部専門		意図07
116a	あり	複数教員やTAを交えた授業は学生とのコミュニケーションが生まれやすい。	学部専門	講義	
117a	あり	新しい情報や社会問題を提示することで、効果があった。	全学共通	講義，演習・ゼミ	意図16，意図17
117b	あり	学生の身近な問題の取りあげを行うことで、効果があった。	学部専門	講義	
117c	あり	図表の効果的利用を行うことで、効果があった。	学部専門	講義	意図17
118a	あり	PowerPointで視覚的に理解しやすい図の提示を行う、講義にストーリー性をもたせることに留意した。言葉だけではイメージしにくい自然現象を視覚的にとらえることで、具体的に理解できる効果がある。	学部専門	講義	意図17
118b	あり	毎回必ず（必須）質問を書かせる。またそれについてコミュニケーションペーパーで回答を書く。これは講義に集中する、批判的に聞くなどの効果があると、学生が書いている。自分の質問が取り上げられることが動機づけになるらしい。	全学共通		
119a	あり	読書リストを示し、その中から読書レポートを中間レポートとして書かせる。また、講義で十分話が出来なかった点を、学生がそれぞれの関心に応じて、自主的に学習する機会を設けることになる。	学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	意図01，意図04，意図11
119b	あり	コミュニケーションカードを毎時間書かせる。次回にそのなかで特徴のあるものを読みあげる（これを行うと学生は熱心に記述するようになる）。それらの反応をみて、授業内容を充実させる。	学部専門	講義	意図01，意図02
121a	あり	実践的な内容のスライドを用いることで効果があった。	学部専門	講義	意図08
121b	あり	PowerPointを利用し、また、スライドのレジメを作成して配布する。			意図17
122a	あり	グループワークを通じて学生同士の理解の相互確認が出来、ひいては各自の理解度の自覚が可能になる。	学部専門	講義	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
122b	あり	小テストを行っている。各学生の習熟度の測定に効果的である。	全学共通	講義	
122c	あり	メールによる意見交換を行っている。各自の理解を深化させることが出来る。思わぬ穴の発見にもつながる。	学部専門	実験・実習	意図10
123a	あり	学生への質問をすることで、自覚性を高めることができる。	学部専門	講義	
123b	あり	PowerPoint及びその内容のプリントを配布することで、円滑に講義がすすめられる。	学部専門	講義	意図17
125a	あり	関連文献の呈示を行うことで効果が見られた。	全学共通	講義	
125b	あり	サブゼミの実施により効果が見られた。			意図02，意図03
125c	あり	授業アンケートの実施により効果が見られた。	学部専門		
126a	あり	「小レポート」を添削し、問題点を書きなおすように指導した。レポートを具体的に直されたことがない学生が多かったので、指摘に初めて気がついた学生も多かった。	学部専門	実験・実習	意図04，意図06
126b	あり	専門の論文や書籍の検索方法に関する実習をおこなった。学部2回生対象だったので、基本的にインターネットを活用し、情報を検索することに慣れていることを期待した。しかし、「科学情報」を引き出すこと、論文等のダウンロードの方法も知らない学生が多数いた。今回の実習で、その後の実験、実習レポートに役立つ情報の見つけ方が少しは理解されたと思う。	学部専門，大学院	講義	意図17
126c	あり	単元ごと（講義4回分）に小テストをおこなった。学生なりに復習をおこなっていた。また、学習意欲の低い学生を把握し、指導することにも役立った。	学部専門	講義，実験・実習	意図01
128a	あり	コミュニケーションカードに毎時間の講義終了時に学生に記入してもらう。次回の授業の始めに、それらを整理したプリントを配布して、前回内容の確認を行う。こうした作業を通じて、どこが学生にとって分かりにくかったかなどを把握でき、教員、受講生双方に非常に意義があった。	全学共通，学部専門，大学院	講義	意図04，意図07，意図09
131a	あり	NHKなどマスコミでとりあげられている問題を活用した。それにより、実習グループ内で活発な意見交換を行うことができた。	学部専門	講義，実験・実習	意図01
131b	あり	実際の症例（患者）の経過から学生に診断、治療を自分で考えるように工夫した。それにより、教科書などから得た断片的組織を整理活用する力を養うことができた。	学部専門	演習・ゼミ	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
133a	あり	外国語の原書講読演習に予定以上の受講生が来たので、コミュニケーションや学生の状態把握がおろそかにならないように出席・自己評価（予習など）とコミュニケーションカードを兼ねたシートをやりとりした。（毎回提出させ、コメントをつけて返すのを14回分1シートに印刷）学生とのコミュニケーションだけでなく、彼ら自身が自分の取組の変化を把握するのにも役立ったようである。	学部専門	演習・ゼミ	
133b	あり	語学の授業で50人を超える受講生がいるので、出席の把握を兼ねて、小テストを2回に1度の割合で実施した。（提出または返却による出欠がわかる。小テストができない時は課題を提出させてそれに代えた。）その際、学生には習った内容の定着と、平常点を上げることで期末試験だけではない評価軸も入れる旨を何度か説明した。その結果、学生からはテストに関して肯定的かつ積極的（もっと実施してほしい）との声が増えた。	大学院	講義, 演習・ゼミ	意図09，意図14，意図15
133c	あり	レポートのコピペ問題に関して、近年ではカンニングと同様の処罰対象になることと共に、なぜそれが問題とされるのかを小グループで討議させた。その結果、学生はこちらの予想以上に著作権の問題としてのみ考えているらしいことが把握できた。色々と考えさせた後で、自分で思考するという努力を怠っていることを教員はとがめるのだと説明すると、（最初から説教口調で言うよりは）納得したようであった。		演習・ゼミ	意図01，意図02，意図03，意図04， 意図05，意図08，意図09
137a	あり	インパクトのある症例写真を提示して学問への興味をひいた。	学部専門	講義	意図13，意図17
137b	あり	学生自身が主治医となったつもりで診断、治療方針を発表させた。	学部専門		意図01
138a	あり	PowerPointの使用で効果が見られた。	学部専門	実験・実習	
138a	あり	海外研修を行うことで効果が見られた。	学部専門	講義	
138b	あり	国内実習を行うことで効果が見られた。	学部専門	講義, 実験・実習	意図07
139a	あり	Webの活用（問題の提示、解答の提示）など。演習問題は全てWebで見れるようにしてある。			意図02
13a	あり	自分が会社に勤めていたときに関わったプロジェクトにおいて、大学で学んでいる事がどのように現場で使われているかを話すことによって、学習することの意義が伝わったのではないかと思われる。			意図17
13b	あり	大学の学生は、単に講義がうまい先生を期待するのではなく、いい研究成果を出すことを求めていると思うので、研究者としての資質をブラッシュアップすることが、最も大事なことに思われる。			意図07

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
141a	あり	適宜、IT機器（PowerPoint、インターネット閲覧、モバイル式端末）を利用する。	学部専門	演習・ゼミ	意図08，意図10，意図18
141b	あり	適宜、グループディスカッション等、学生間の相互交流を促す。（特に1回生授業において）	学部専門	講義	意図11
141c	あり	メール等による授業外でのフォローを行った。	学部専門	実験・実習	意図04，意図10
142a	あり	死生観についての講義で様々な事例を提示し、自分で考える方向にもっていった。	大学院	講義	意図06，意図07
142b	あり	写真や動画を積極的に活用した。	大学院	演習・ゼミ	意図20
144a	あり	演習で同一の問題を全員に答えさせること。答えが同じにならないことが通常なので、それぞれに答えが何故違うかを考える。手掛かりになり、また答えが一つでないことが納得できて、安心して発言できるようになる。	大学院	演習・ゼミ	意図01
144b	あり	質問に対してネット掲示板で答えること。単に口頭で答えるのとは違い、正確にまた文献の根拠を示してまとまった文章を作るため、学生の深い理解を導くとともに、自分の研究能力が高められることになる。	全学共通，学部専門	講義	意図17
145a	あり	スライドの工夫を行うことで効果が見られた。	学部専門	演習・ゼミ	意図05，意図08
147a	あり	学生参加型・双方向授業に向けた取り組みとして、クラスメンバーを5～6人ずつの小グループに分けて、学生間で意見交換・討議をして小グループごとに発表してもらった。学生の思考、体験、価値観、疑問、授業等を相互に知ることに意義が予測できる社会問題などのテーマについて有益と思われたため、10年以上実施してきている。この場合、自由座席にすると普段からの仲良し同士で固まるので、編入生を混在させた座席表を予め作成している。この構成により、「普段話さないメンバーの意見がきけて良かった」との学生の意見がよく聞かれる。1.学生参加型・双方向授業に向けた取り組みその①は、メンバーシップの育成にも効を奏している。（実習ではメンバーシップが大きな要因として働くことから、学内での学習の段階から、それを意義として取り組んでいる。）	学部専門	講義	意図05

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
147c	あり	学生参加型・双方向授業に向けた取り組みとして、授業終了時に毎回、学生一人ずつに用意したブリーフコメントノートに、その授業で分かったこと、分からなかったこと、意見/発想、今後に向けた注文などを簡単に書いてもらった。ブリーフコメントノートには表紙をつけ、記名のうえ、イラストなど好きな模様や色づけをしてもらい、最初に自己紹介文を書いてもらう。当該科目についての期待や不安なども示される事が多い。教員は第1回講義で自らのキャリアや当該科目を進める上での理念、方針、学生への期待などを示す。原則として学生のコメントに毎回、教員から回答を記し、次回講義で学生全員にフィードバックを行ってから講義を進めていく。綴られてきたブリーフコメントの内容を、テストの成績同様に、臨床実習で受け持つ患者とのマッチングの際に積極的に参考にしている。これは学生の強みと弱み（課題）を把握して、患者のケアニーズにマッチするように組み合わせる作業である。学生の能力を高め、患者の人格や権利を尊重する方法として本学就任以来実施してきて、有効性を実感している。	全学共通，学部専門，大学院	講義	意図07
148a	あり	学生参加型・双方向授業に向けた取り組みとして、大学院生に国際学会の発表を経験させることを行っている。学生のモチベーション向上と何よりも、本人の自信形成に大いに役立ち、その後の研究に対する自主性促進、姿勢の改善が得られている。			
149a	あり	課題、小レポート、質問等を行うことで効果が見られた。	学部専門	講義	
149b	あり	PowerPointの使用を行うことで効果が見られた。			
149c	あり	ビデオの使用を行うことで効果が見られた。			意図05，意図07，意図08
14a	あり	語学の講義において、訳す人間をその場で学生にじゃんけんで決めさせ、なおかつ負けて訳した人間も次のじゃんけんに参加させることで、こうした授業にありがちな、あたりそうなところだけ予習する、あたったら集中力が切れるという事態をさけ、学生に予習をきちんとし、最後まで集中して授業に参加させることを可能にした。	学部専門	講義	意図01，意図04
14b	あり	大教室の授業でも最後に質問の時間を必ずとり、授業で不明確であった点をその時間で解決しつつ、他方学生にはものおじしないで疑問を述べる習慣への注意を促せた。	全学共通	講義	意図17
150a	あり	毎回のレポート課題を与え、コメント書いて返却することにより、学生・教員の間でのコミュニケーション、理解の度合いを把握することができた。			
151a	あり	学生の学習成果や理解度を把握するために、こまめに小テストや作文形式の課題を出すようにした。	学部専門	実験・実習	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
151b	あり	授業の最初の時間にコミュニケーションペーパーを配り、なぜ授業をとろうと思ったのか、学んで最終的に（1年後に）何ができていたら良いか、（何ができるようになっているか）をかいてもらい、目標を学生にはっきり持たせるようにした。	大学院	演習・ゼミ	意図03
151c	あり	知的好奇心を刺激するため、語学のみならず、その国の文化紹介など学生が興味をもちそうな話題を提示した。	全学共通	演習・ゼミ	意図04，意図05，意図06，意図08
153a	あり	講義終了時に小テストを行い、その場で学生と解答を確認して解説まですることで、やや興味を持ちにくいが重要であるテーマに関する内容の効果的な習得ができたと考えている。	全学共通	講義	意図07
154a	あり	担当科目の前提となる高校レベルの科目を未履修の学生向けにDVDに収められている動画を用いた。これはかなり有効であった。	学部専門	講義	意図02
155a	あり	講義内に関連するビデオ（簡単な実験を行いながら説明する）をPCから液晶プロジェクターでスクリーンに映し出し、補助教材として使う。演示実験のかわりに用いて、板書や口頭での説明を補うことで、より深く理解できた。	学部専門	講義	意図07，意図08
156a	あり	新聞等のマスメディア情報の批判的に活用することを行った。			
156b	あり	マンツーマンで卒論指導を行うことで効果が見られた。	学部専門	講義	
156c	あり	レポート提出とそれに基づく討論を行うことで効果が見られた。	学部専門	講義	
157a	あり	学部発行の雑誌の別冊講義資料での過去問題の掲載を行うことで効果が見られた。	学部専門	講義	意図02，意図04，意図05，意図06，意図07
157b	あり	学部発行の雑誌の別冊講義資料での論文作成を行うことで効果が見られた。	学部専門	講義	意図01，意図03，意図05，意図13
157c	あり	教員あるいはTAによるオフィスアワーにより効果が見られた。	学部専門	講義	意図17
158a	あり	120名講義ではあるが、各自のワークシート（課題）を未記名にて交換し、添削する取り組みを行った。評価できる点と改善すべき点（疑問）を必ず記入することとしたため、返ってきたシートを見て、自らの表現力の不足意見の受け取られ方など、考えるきっかけになったようである。	全学共通	講義	意図06，意図08
158b	あり	2，3回に一度小レポートを書かせている。常に意見・質問欄を設けているが、そこで授業に対する意見が多く出される。次の授業時より、改善する（努力する、了解した）ことを伝えることにより、さらに意見を出すようになり、授業改善と信頼関係の構築基礎となっている。（批評や苦情より、積極的な意見が多い）	全学共通	講義	意図07

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
158c	あり	教職経験を有しているため、現場でのケースを紹介し、それを学問的に解説するという授業を行っている。資料等も現場で使用されているものを使うため、学生の興味関心を高めるようである。		実験・実習	意図04，意図05，意図07
159a	あり	調査実習の授業で、対象者とのアポイントメント、インタビューなどを行った。その後の就職活動等にも役立っている。また調査を行うなかで、卒業論文テーマ設定や調査方法論を実地で習得している。	学部専門	講義	
159b	あり	統計データをソフトウェアを通じて分析する方法を学び、自分の関心から、試行錯誤して、自分のテーマを発見、練り上げていることを学んでいる。統計分析の手法の習得は、就職活動のさいにも、大きなウリとなっている。	全学共通	講義	意図05，意図06
160a	あり	講義資料に写真、図版などを豊富に使った。	学部専門	講義	意図04，意図06，意図07
160b	あり	定期的に宿題を課し、添削し返却した。	学部専門		意図11，意図17
161a	あり	私語が目立ち始めたら、「静かになるまで話しません」といって授業を中断する。すぐに静かになる。怒ってもダメ。	学部専門	実験・実習	意図01，意図03
163a	あり	大人数の講義では、学生間の意見交換は難しいため、前回の講義レポートに書かれた学生の意見を授業前半で紹介し、多様な考え方があることを伝えた。			意図01，意図02，意図04
163b	あり	毎回、授業内容に関する小テスト、質問票を提出してもらい、理解度の把握と授業の進め方等の修正に使っている。	学部専門	講義	
166a	あり	最新の学会論文の結果を授業に取り込んだ。	学部専門		
166b	あり	独自の授業アンケート調査を行った。又その結果を即時にインターネットに公開した。	学部専門	講義	意図02，意図06，意図08
166c	あり	論文の書き方の講座をもうけた。	大学院	講義， 演習・ゼミ	意図08
170a	あり	一回の講義の内容にストーリー性（流れ）を作ることで、興味を90分間維持させるようにした。			意図01，意図03
170b	あり	講義の最後（10～15分）で、その日の内容に関するレポート問題をしてもらい、次回の講義の最初にその解説を行う。それにより、理解を定着させる、定着の程度を把握する。	大学院		意図06
170c	あり	板書を同じようなスピードでPowerPointを使う。ノートに写す時間が足りなくなりがちなので、そうならないように留意した。	学部専門		意図01，意図04

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
172a	あり	1セメスター中に最低5冊の洋書を英語で読み、要旨を報告させた。授業が終わっても読み続ける学生が一定の割合でいる。中には卒業後も続けて、暑中見舞いや年賀状で報告してくる卒業生もいる。	学部専門，大学院	講義	意図02
172b	あり	アカデミック・ライティングの方法を指導している。英米で行われている作文教育に基づき、ブレーンストーミング、パラグラフライティング、エッセーライティングを全て英語で行っている。その結果、修士論文の概要を英語で執筆できるようになっている。	大学院	講義	意図18
172c	あり	卒業研究（卒論指導）を英語で出来るように指導している。1年間の取組でゼミ生4人のうち半数はA4紙15～20枚の卒論を全て英語で仕上げる。半数は要旨（A4紙1枚）を英語で執筆している。			意図02，意図07
174a	あり	知識を習得するというよりも、課題を与えそれをグループで考えさせ意見交換したうえで、グループとして1つの案としてまとめプレゼンさせる授業を行っている。	学部専門	講義	意図02
175a	あり	4回生前期は就活で4回生ゼミのモチベーションを保ちづらい。そこで3回生ゼミ、4回生ゼミを連結で行い、両方の時間に（ex.特定曜日の3，4限）に3，4回生両方を出席させるようにした。 報告は3回生が行い、質問やアドバイスを4回生にやらせる。3回生は緊張感がでるし、4回生はプライド（!?）があるらしくカッコつけなくてはいけないので、質問やアドバイスをするようになっている。	学部専門	演習・ゼミ	
175b	あり	90分の講義時間を前半（40分）と後半（40分）に分け、前半40分は問題意識や課題はどのようなものかという内容にできるだけ意識して話す。後半40分は、それに対する解決方法やそのまた問題点などを話すハーフタイムを10分とり、教員も学生もリフレッシュする時間をつくる。	学部専門	講義	意図01，意図05，意図12
177a	あり	1回の講義で完結する様に項目を選び、限られた基礎知識だけで理解できるよう内要を要約し単純化する工夫を行った。	学部専門	講義	意図05，意図08
177b	あり	卒業研究（ゼミ）で学んだ文献を要約＆補完し、卒業論文として完成させ、口頭発表の練習を行わせた。	学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	意図02，意図11，意図12
178a	あり	他大学との合同ゼミへの参加を通じて、学生同士で学習している。	学部専門	実験・実習	意図01，意図04，意図05
178b	あり	小レポートに「講義についての意見や改良案」を書いてもらい、授業改善に役に立てている。	学部専門	講義	意図02，意図05，意図07，意図10

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
178c	あり	時々、海外ゲストによる英語の講義を行っている。国際討論会への出席を奨励している。		実験・実習	意図05，意図08
179a	あり	出会った先生方からすすめられた、CEFRに準拠したテキスト「English Unlimited」by Cambridgeを授業改善の試みとして使用してみた。Can-do listとself-assessmentにより、授業目的が明確であると同時に自分の到達度を振り返るというやり方は、学生のmotivation維持にも大いに役立った。多くの先生方の知見やエッセンスが詰まったこのテキストは、授業工夫に日々頭を悩ます先生方にとっても大いに役立つと思う。	学部専門，大学院	講義	意図14，意図17
179b	あり	グループプレゼンテーションを取り入れている。1人ではなかなかハードルが高くて取り組むのにプレッシャーを感じてしまうことも、自分と同じような英語力の学生同士で力を合わせて取り組むという点は良いと思う。また授業外で集まって準備をすることから、学部外で友達になったり、チームワークのなどもできて効果的だと思う。			意図17
179c	あり	授業初回時には、学生に授業の目的等をしっかりと分かってもらうため、オリエンテーションの時間をとり、、講義スケジュール、テキストの説明、（選んだ理由、使い方）、取り組み課題、予・復習についての具体的な方法、評価方法、教師が学生に期待することについて話をする。 学生はただ何となく授業を受けるのではなく、目的や評価方法が明確になるため、授業に取り組みやすくなる点で効果的である。	学部専門		意図08
180a	あり	PowerPointを使って、図やイラストを効果的に使うことにより、学生の理解が深まった。			
180b	あり	他の教員と話し合い、授業の内容を連携することで、授業内容を深めることができた。	学部専門	演習・ゼミ	意図07
183a	あり	Facebookを使用したゼミ内の学習マテリアルの共有及びディスカッション支援を行った。具体的には、ゼミの為の学習クイズ、レジュメ、卒論草稿の共有を行うと共に、掲示板における相互議論、またチャット機能を使っての議論を行った。	学部専門	演習・ゼミ	意図07，意図08，意図09
183b	あり	外部開催のコンペに参加を促した。目的は自発的学習によって、専門知識を学ぶと共に、経済事情に対する興味を喚起することであった。			
183c	あり	自主ゼミのすすめとチュータの派遣を行った。	学部専門	講義	
184a	あり	医学での自分の体験や海外のドクターとの交流の体験を語っている。	学部専門	講義	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
184b	あり	動画を用いたスライドを用いてる。	全学共通，学部専門	講義	意図14，意図15
184c	あり	臨床の実例に基づいた解説を行っている。	全学共通，大学院	演習・ゼミ，実験・実習	意図06
185a	あり	医学部では、研修医と共に行動させている。	学部専門	講義	意図17
185b	あり	医学部では、実際に患者と接することをさせている。	全学共通，学部専門	講義	意図05，意図06，意図07
187a	あり	講義の終了時に“理解度”を自ら採点させている。	学部専門	講義	
188a	あり	携帯のメールアドレスを伝え、予習の際の疑問、授業後の質問をうけつけた。学生のモチベーションも上がり理解度も向上した。	学部専門	実験・実習	意図01，意図04，意図05
192a	あり	グループによる調査発表を行わせている。テーマの選択は個別に選ばせると、安易なものを選びがちであるが、グループでさせると1人でも熱心な学生がいると、影響されてよい結果が得られた。	学部専門	講義	
192b	あり	毎回の授業内容に関する小テストを行う。知識の定着、勉学の習慣化に有効であった。	学部専門	演習・ゼミ	意図01，意図04，意図05，意図08，意図13
193a	あり	講義内容（科目）が、研究室配属された後や社会に出てから（研究、技術関連職）具体的にどのような場面で必要になるかをガイダンス（第1回講義）で説明した。学習意欲が高まったと考えている。	全学共通	講義	意図07
194a	あり	ある理論から派生した実例・実践を行うことで、その分野の新たな一面を垣間見れたと思われる。	学部専門	講義	
194b	あり	ある理論を視覚で理解させるため、コンピュータで作成したグラフィックをプロジェクター投影し、その理論についての解説を行うことで、理解を深めた。。	学部専門	講義	意図01，意図03，意図17
195a	あり	2～3人で共同で手書き文書を活字化し訳すことを行わせた。			意図08
195b	あり	教職科目を兼ねているものは、学習指導要領を理解してから講義を受けるようにさせた。	全学共通	講義	
195c	あり	授業の最後の15～20分間に、本日の講義で学んだことと感想を書かせ、次の授業の最初で講評する。		実験・実習	
196a	あり	主体模型の作製を行った。	学部専門	講義	意図02，意図07

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
197a	あり	各学部から1、2名選出（又は希望者）して、2チームに分けてディベートを取り入れている。ディベートの翌週の授業では、発言の文字起しを提示しながら、ディベートでの発言を検証し、論点整理を行っている。論議をする際に問題の本質をおさえることや、客観的事実に基づいた議論の方法について学ぶことをねらいとしている。なお、発表の技術についてはここでは求めない。	全学共通	講義	意図08
197b	あり	第2回目授業（1回目はオリエンテーション）で、野外の観察実習を取り入れている。「おもしろい」「楽しい」「なぜだろう」「もっと知りたい」という気持ち、つまり授業への参加の意欲や内容への興味、関心の喚起など、動機付を目的として実施。事後のアンケートでも再度実施を望む回答が多数得ている。	学部専門	講義	意図01，意図16
197c	あり	普遍的な授業の柱の部分は基本を押さえつつ、その時の学問的、社会的に最新の話題性のあるもの、注目すべきものを教材に取り入れている。また視聴覚機器でのバーチャルな提示だけでなく、可能な限り標本など現物を教室に持ち込み提示をしている。	全学共通，学部専門		意図07
198a	あり	小テスト・宿題を毎回実施し、必ずコメントと共にすみやかに返却する。	全学共通	講義	意図17
198b	あり	まとめプリントを毎回作成し、プリントに書き込む形式で板書を行う。			
199a	あり	音声データをホームページ上にアップし、復習や自習に役立ててもらう。ipodなどダウンロードして通学途中にくりかえし聞いたり、シャドーイングの練習に使用する学生がわずかながら増えた。			意図05，意図06
199b	あり	授業で扱ったニュースに関して論題を決め、英語で自分の意見を論理的に矛盾なく口頭もしくはエッセイの形でまとめる。それをクラスメートや教員が評価してフィードバックする。論理的に一貫性のある意見とは何かを理解してもらうのに役立った。			
200a	あり	医療コミュニケーション能力の獲得のため、シュミレーション、ワークショップを取り入れた学習を行っている。	学部専門	実験・実習	意図01，意図03，意図04，意図05，意図06
200b	あり	シュミレーション教育を専門を超えたメンバーで学習させ、コミュニケーションを深めさせた。他学科学生や一般の協力のもとに広い視野を持つための教育、学外課題講義であった。			意図17
201a	あり	症例を呈し、その患者に対するコミュニケーションの方法論などについて議論を行うことにより、バリエーションが必要であることを学んでもらった。			意図16
203a	あり	各講義後1000字のレポートを書くものとして、16000字のレポートを最終提出させた。一気に16000字書く者、毎回講義後に書く者様々だったが、一過性の学習ではない事は充分伝わってきた。	学部専門	演習・ゼミ	意図05，意図08

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
203b	あり	教育に関しては、他者と共に取組むことが重要であるということや、異質であるからこそ豊かさが生まれることを知ってもらうため、最初の授業の課題で異なる答えを出した人たちを結びつけ、以降の授業ではずっと同じ班で課題をこなしてもらった学生が講義を楽しんでいた。	学部専門	実験・実習	意図13
203c	あり	講義内容を消化しようとする者には、70～79点が取れるシステムをつくり、指導すること。講義を応用して考えようとする者にしか80点以上を出さないこと。学ぶことに終わりがないことを感じとってもらえているようだ。		実験・実習	
204a	あり	学生に問題を作成させ、ディスカッションさせる。理解を高めることができる。	学部専門	講義	意図01，意図04，意図13，意図17
204b	あり	毎回の講義で小レポートを作成させる。真面目に受講するようになった。	全学共通，学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	意図07
205a	あり	宿題レポート提出の際、自由記述をさせ、何が理解できていないか個別に把握する。			意図03
206a	あり	高校時代に学ぶ機会がなかった自然科学系科目について、文系の学生でも興味と持続力をもって、講義に参加してもらうために、題材は全て日常的に存在するが何か不思議なロマンのようなものを感じてきたテーマを設定し、常識では考えられないような、無の原因や機構を理解させる講義手法をとり、自然科学を身近に考えさせた。	全学共通，学部専門	演習・ゼミ	
210a	あり	専門教育において、それまで学習した内容をふまえての課題演習をグループワークとして行わせ、成果発表とディスカッションを行う形態の授業は効果がある。	全学共通	講義	意図01，意図02，意図05
211a	あり	1回生の専門入門科目、2回生の専門基礎、3回生の専門応用、M1特論と、同じ講義資料を用いて、基礎内容を繰り返し教える。但し、資料は繰り返し使用するため保存するよう指示をしても、ほとんど再配布せざるを得ず、その内容理解度も思ったほど深まっていないのが実情である。今後も継続予定である。	全学共通	講義	意図12
211b	あり	4回生提供の専門応用科目とM１提供の特別演習では、各自の提案と発表、討論、ディベートを実施し、学生も含めた相互評価を導入している。学生の評価は良好。但し、何が良くて何が悪いのかを提示するタイミングには配慮が必要と思われる。	学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	意図05，意図06，意図08

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
211c	あり	初回のガイダンスの際に、講義の意義・目的と全体のスケジュールを提示することで、教科全体の学習内容を理解させる。学生が各回の授業内容を予め知ることで、意欲ある人は準備ができている。			意図16，意図17
211d	あり	毎回の授業では、その時間の講義の大枠と基礎的内容を記した資料を配布し、各自がノートをとって、理解を深められるようにしている。ノートを取らないと資料の空白を埋められず、次の欄に示すチェックシートにも解答できないことから、徐々にノートを取る人が増えたように思われる。	学部専門	講義	
212a	あり	自発的な読書を勧める目的で、詳細な情報を記録した、読書リストを配布し、授業＋αの知識の収集を促した。		講義	意図07，意図17
212b	あり	ビデオなどの映像、珍しい動物の行動などは、生物に興味を持っていない学生でもそれ自体興味対象となる。そこを突破口として授業も展開できる。	学部専門	講義	意図01，意図02，意図04
213a	あり	BSLにおける学生との意見交換を行った。	学部専門	実験・実習	
213b	あり	BSLにおけるミニレクチャーを行った。		実験・実習	
213c	あり	視覚教材を活用した。	学部専門	講義	意図01
214a	あり	グループワーク、発表などを通じて、理解度向上やコミュニケーション能力の向上をはかった。思考力の育成などの面において効果的であったと考えられる。			
217a	あり	ディスカッションの導入。3回後期～院。	学部専門	講義	
217b	あり	クイズの導入。ただし2～3回生前期まで	学部専門	実験・実習	意図17
217c	あり	英語での発表及び討論。		実験・実習	意図03，意図05
218a	あり	①学生自身による野外調査計画の立案、②その実行、③計画案および調査実験結果のPowerPointを用いての口頭発表、④質疑応答（学生による回答書の作成）、⑤学生と教員による結果の採点、⑥採点結果の公表、⑦採点結果による調査のやり直し（③～⑤のプロセス）、⑧このプロセスのCDへの保存を繰り返していった。	全学共通	講義	意図07
219a	あり	数式処理ソフトを使って、方程式を具体的に解いたり、グラフを書かせたり、黒板では説明しきれない部分をコンピュータで実行させたものを資料として配布することでテキストの理解を深める。			
219b	あり	科学の発見について、その歴史的な背景や発見者のエピソードを紹介する。科学に対し親近感を持たせることができる。	学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ，実験・実習	意図07，意図09，意図16

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
219c	あり	テキストに書かれている理論的な結果を、簡単な実験で実際に確認する。例えば、極小曲面の理論や変分法の理論をシャボン玉で実演し、抽象的な理論をビジュアル化する。	全学共通	講義	意図01，意図02，意図03，意図04，意図05
223a	あり	音声主体のものやニュース教材など、英語クラスで複数教材を用いている。	大学院	講義	
223b	あり	講義で用いたテキストを予習させて、分からなかった箇所を書きぬいて提出させ、次週にコメント付きで返却するようにしている。			意図02，意図03
223c	あり	その日の講義について、時間内に「理解できなかったこと」と「興味が持てたこと」を各自書かせて提出させた。			
224a	あり	最新の話題を取り上げ、興味を喚起させることができた。具体的には、病腎移植、脳死移植を取り上げ、我が国の腎移植医療を理解させることが出来、なおかつ移植医療に興味を持たせることができた。	全学共通	講義	
224b	あり	最低限理解しておくべき内容については小テストを行った。			
224c	あり	動画、スライドの使用と常用項目の板書を有効に組み合わせることにより、メリハリのある講義ができた。		講義， 演習・ゼミ	
225a	あり	エネルギー関係の演習において、大学病院の設備運用データを分析し、病院管理組織に設備の改善提案を行うよう指導した。学生が興味を持って取り組んだ。	全学共通	講義	意図17
227a	あり	課題を与えて自分で考えさせる。脱線している場合手伝い、方向性を修正する。その結果、暗記にたよらないで、自分で考える考え方を習得させることができた。			意図11
227b	あり	例題を考えさせ、答えを求める（出席している人に）ようにした、その結果、内職をしたり、寝ている人が減った。	全学共通	実験・実習	意図07
228a	あり	最先端の機器システムに触れてもらって、興味を持ってもらった。	全学共通	講義	
228b	あり	小話的な内容を話して、先人の偉業などに興味を持ってもらった。	学部専門	講義	意図02
228c	あり	学びからの人類の進歩事例を説明して学習の重要性を説明した。	学部専門	実験・実習	意図02
229a	あり	スポーツ実習において、主にチームごとに活動させた。レベルに偏りがないよう編成し、キャプテンを主体に練習から試合までコーディネートさせた。以上より、学生の自主性や協調性キャプテンシーが養えた。	大学院	実験・実習	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
229b	あり	スポーツ実習において、基礎的スキルの獲得には反復練習がつきものである。しかし、単なる反復練習はつまらなく、モチベーション低下につながる。そこで一つのスキルを練習する場合に多角的な練習方法を取り入れることで、飽きずに基礎的スキルの反復練習を実施できる。学生は楽しみながら基礎的スキルを習得した。	学部専門	実験・実習	意図18
229c	あり	時折、コミュニケーションカードを記入させ、授業に対する意見や希望を募り、可能な範囲で対応した。学生の意欲が向上したようにうかがえる。	全学共通	実験・実習	意図01，意図02，意図04
231a	あり	解説、例題→宿題→自己採点→教員採点→返却の繰り返しを行っている。	学部専門	講義	意図01，意図02
231b	あり	質問出題→授業中その場で回答させる→その場で検証→考察→（回答の回収）翌週回答の集計と公表を行っている。	学部専門	実験・実習	意図01，意図03
233b	あり	グループワークを取り入れることで自ら考え学ぶ姿勢を促し、その結果を発表としてまとめ、学生同士で意見交換させることにより理解を深めた。	学部専門	講義	意図05，意図08，意図12
233c	あり	共担の教員が全員で演習に立ち会い、単なる知識を与えるというところから実践への応用へと発展させ、学生が自ら演習に取り組むことで、その科目への関心を高め次年での内容へつなげた。	学部専門	講義	意図01，意図02
234a	あり	講義概要を配布している。また、内容については正確な定理や、定義を伝えるようにしている。			意図10
234b	あり	小テストを行うことで、効果が見られた。	学部専門	演習・ゼミ	意図07
235a	あり	関連科目担当教員に、自分の講義を受講してもらう。関連科目相互における約束ごと（座標軸のとり方など）を一致させて、学生の混乱をなくすことを目的とした。学生による授業評価において、科目間の接合に対するクレームがなくなった。	学部専門	講義	意図07
235b	あり	現実に起こっている問題を映像で見せて、関心を抱かせ、それへの取り組みを進めるためには講義をどのように理解し、どのように応用していくべきかを考えさせることができた。	学部専門	講義	
235c	あり	他大学のゼミメンバーとの合同ゼミを実施した。他大学の院生から刺激を受けることを目的とした。研究への取り組み方の違いを学び、自分の勉学、研究の方針修正に役立てられた。	学部専門，大学院	講義	
236a	あり	海底メタンの白い塊（専門家からいただいた）をみんなの前で燃やして見せた。	全学共通	講義	意図01
236b	あり	質問を書いて提出、次の授業で答えのプリント配布、ディスカッションの資料にした。	学部専門	講義	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
236c	あり	PowerPointを利用、それをホームページからダウンロードできるようにした。結構多くの人がダウンロードしていた。	大学院	講義， 演習・ゼミ	意図02，意図07，意図12
238a	あり	調査方法などについて修士（M2）の学生の行う調査に、M1学生を補助として参加させ（たとえばFocus Group Discussion)実地経験をふむ。			
239a	あり	学内で公開講義を実施することで、他教員からの感想や工夫、改善点が確認でき、自身の講義を振り返り改善できた。	学部専門	講義	意図07，意図12
239b	あり	実習において学生カンファレンスを学生が主体となり、必要資材の作成から討議まで考えさせることで、他学生の考えや専門職の方のご意見を聞き考えられるようになった。	学部専門		
239c	あり	臨床での経験談を盛り込むことで、Stの関心を喚起させることに効果的であった。			
240a	あり	子供をテーマにした授業では、子供の理解の為に、近隣、兄弟など子供の観察、ノートを作成させた。（今まで全く子供に視点を向けたことがなかった学生が半数以上いたため）	学部専門	演習・ゼミ	意図08
240b	あり	体験学習により自分を理解したり、グループ特性を理解させる。	全学共通， 学部専門， 大学院	講義， 演習・ゼミ	意図01，意図02，意図03，意図04， 意図05，意図06，意図07
240c	あり	単元ごとに疑問点をまとめたものを提出させ回答した。	学部専門	講義	意図07，意図16
243a	あり	患者シミュレータを用いて、学生に模擬診療をさせる。	学部専門	講義	意図07
243b	あり	スライドを用いた授業でアニメーションを用いて一部を空欄にし、各学生に答えさせる。ハンドアウトは講義後に渡す。	全学共通		意図19
244a	あり	小テストを行うことで、効果が見られた。	大学院	講義， 演習・ゼミ	意図07
244b	あり	レポートを実施することで、効果が見られた。		演習・ゼミ	意図01，意図02，意図03，意図04， 意図05，意図06，意図08，意図09
245a	あり	教室内だけの学習ではなく、テーマによっては教室外のフィールドワークを取り入れる。			意図01，意図02，意図03，意図04， 意図05

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
246a	あり	レポート・発表・討論テーマを自分たちで設定し、交換して取り組むようにした。具体的には、規模の小さい演習科目において、受講生を2つ以上のグループに分け、互いに互いのグループで書くべき/発表すべき/討論すべきテーマを決めて交換し、相手の前で成果を示す取り組みを行った。それまでは、自分が取り組むべきテーマを自分自身で決めてもらっていたが、まだまだやれることはあるのに「まあこのくらいでいいや」と適当なところで切り上げてしまう面が見られた。そこで、2011年度は、相互にテーマを交換し、「同じクラスにいる受講生から直接もらったテーマに取組み、何らかの成果を出す」状況をつくった。これにより、受講生の取り組み姿勢に一種の緊張感が生まれた。特に、成果を相手に示したあとの質疑応答が活発になりやすかったように思う。 ただし、この方法は、受講生のキャラクター・特性に左右される部分が大きいのが難点だとも考えられる。（たとえば、互いのものの考え方や意見、立場、バックグラウンドについて、一定のリスペクトを持ちあえる学生が多いなら、有意義な学びの場が創発されるだろう。）			意図05
246b	あり	座席指定によるグルーピング＆グループワークを行った。大教室の講義科目において、資料配布・課題回収にかかるコストを減らすために、また、できるだけ知らない人/異なる専門分野の人と話せるよう、かつ、友人同士で近くに座ることで発生する私語を防ぐため、受講生をランダムにいくつかのグループに分け、グループ単位で着席エリアを指定して着席してもらっている。半期科目で3回着席エリアを変え、座席表を作成し、配布している。このような着席エリア指定には、自分自身の研究結果から得られた根拠がある。放っておくと後ろの方に着席する学生に比して、放っておいても前に着席する学生の方が学習意欲が高く理解度も高い、つまり、何もせずにおくと学生の学習態度が教室の前と後で二分される状況が生じるので、そのような二分化を起こさないための配慮である。配布の際はグループ単位で資料等を封筒に入れて渡し、回収の際には配布時の封筒に課題等を入れてグループ単位で取りまとめてもらう。配布のための時間はもとより、のちほど成績評価をする際にソーティングを改めてしなおす時間をある程度軽減することができていると思われる。グループ単位で、授業中に出された課題を作成したり、その課題について相互評価したり、討論するなどし、「自分ひとりではたどりつけなかった新しい気づき」をもたらすことが真の狙いである。学生の手による成果物を見ると、この目的はおおむね達成できているようである。ただし、グループワークが苦手な学生や、人見知りの強い学生、ときには「友達と一緒に座って授業を受けたいのに座席替えがあるのはいやだ」と思っている学生から不評を受けることもある。	全学共通, 学部専門		意図07

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
246c	あり	逐語録の配布を行った。事例160とあわせて使っている方法である。非常に手間がかかるので、一般にはおすすめできない。文章として手に取って読むことのできるもの以外の成果、たとえば、口頭での発表や特定のテーマについての討論を行った場合、それらを録音しておき、逐語録化して、次の週に教材として受講生に配布する。「自分たちが話したことを、文章として改めて手にとって読む」ことによって、話し言葉として聞くのとは少し違う観点から、自分が話したことや他者が話したことを客観的に分析することができるようだ(議論が脱線している箇所があるか、なぜ脱線したのか、自分たちがたどり着きたかった結論に到達できていたか、互いにもっと考えを深めるにはどのような質問をしあうとよいのか、リーダーシップとは何か、限られた時間を有効に使うためにはどのようなタイムマネジメントを行うべきか、等々)。とにかく逐語録作成に時間がかかる（1時間の討論を完全逐語録化するにはおよそ8時間必要）ため、頻繁に実施できないのが難点である。	大学院	講義	意図01
247a	あり	毎回の授業時間内において、小テストを実施し、その結果から次の授業における前回の復習割合を判断できた。	全学共通	講義	意図07
248a	あり	1年次前期の講義では、学生に授業都度アンケートをとるとかなりの割合で意見を書いてくれるので参考になる。	学部専門	講義	意図04，意図05
248b	あり	全部ではなく一部映像、動画、アニメーションを取り入れると分かりやすく伝わるようだ。	学部専門	講義	意図02，意図07
249a	あり	1回生向けの専門の導入科目の最終回に（学生に5分～10分考えさせて、それを発表させて、復数の教員がコメントする）を5回ぐらい繰り返す授業をやった所、色々な意見がある事が分かった、など好評だった。	大学院	演習・ゼミ	意図01，意図03，意図04，意図05，意図06，意図08，意図09
249b	あり	小テストは5点満点だが、自由記述（コメント）欄に何か書いてあれば、＋1点をあげることとし、毎回明記して返却することにしたところ、記入される割合が飛躍的に伸びた。相互のコミュニケーションが深まった。		演習・ゼミ	
249c	あり	毎回最後に簡単な小テストを行い、最後にコメント、質問欄を設けている。「小テストにより、毎回ポイントがわかった」との回答がアンケートで書かれている。また質問を書いてくる子が多く、お互いのためになっている。学生による5点満点の評価も毎回書いてもらっており、自分の反省につながっている。	学部専門，大学院	演習・ゼミ	意図01，意図13
250a	あり	基本的な学びの内容は押さえておくが、集まった学生に応じてグループワークのテーマを毎年変化づけていく。	学部専門	講義	意図01，意図13，意図16

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
250b	あり	使用する教科書や論文に関して、学生の意見や関心を聞き、選定から参加させている。	学部専門	講義	意図01
251a	あり	学生の実習方法に対する理解が深まった。	学部専門	講義	
251b	あり	最新の話題を提供することにより、学生の講義内容への関心が高まった。			
252a	あり	教科書では2次元的な図しかないため、理解を深める目的で、3次元CADによるプロジェクター表示を行った。	学部専門	講義	
252b	あり	実際の器具を回覧させるようにした。実際というもの、概念にふれさせることが目的である。	全学共通	講義, 演習・ゼミ	意図01，意図04
252c	あり	テーマに関するビデオを見せる。視覚による理解度の向上をはかった。	学部専門	演習・ゼミ	意図01，意図04，意図05，意図06，意図08
253a	あり	講義中の小テスト（クイズ）を行うことで効果が見られた。			意図02，意図04，意図07
254a	あり	「ここはいつもテストに出しているところです。」と言って重要ポイントを板書すると、寝てる学生も起きるしメリハリもつく。	学部専門	講義	意図16
254b	あり	受講する学生のバックグラウンドにあわせて、講義について興味を持たせるようなエピソードを話す。医学部学生であれば、臨床現場での実例、全学共通科目であれば、生活習慣（タバコ、お酒）と病気の関係など。	全学共通		
254c	あり	レジメを使って、およそのタイムラインを示す。	学部専門	講義	
255a	あり	演習要素を授業に取り入れて、実践的な理解を目指す目的で、数学理論とコンピュータプログラミングの組み合わせを行うようにしている。	学部専門	演習・ゼミ	意図08
255b	あり	基本的なことかもしれないが、以下のことに気をつけている。①学生全員の顔と名前を覚える。②服装はスーツ、ネクタイとする。十分静かだが学生の静かさが増す気がする。	大学院	講義	意図13
255c	あり	実験において、学生が興味を持つテーマを設定し、そのレール上にカリキュラムとして必要な実験課題をのせて授業を進めるようにしている。	学部専門	演習・ゼミ	意図06
256a	あり	グループごとに報告テーマを決めさせ、それについて調査、議論、資料収集などを教員が助言しながら、報告させた。学生同士でもよく話し合う機会があり、議論が深まった。	学部専門	実験・実習	
256b	あり	ゼミ論のテーマの探し方、選択、資料の集め方など丁寧に指導し、テーマについて発表させることで、ゼミ論をスムーズに作成できたようである。			

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
256c	あり	レジュメを配布し、書き込みができるようスペースを空けておく。学生は講義を聞いて、自分で書きこみ、テキストと照らし合わせることで、知識の整理がしやすいようである。	学部専門	実験・実習	意図07
257a	あり	教科書だけでは分かりにくい個所や、内容に不足がある部分を補うために、毎回できるだけ多くの例題を用いて学生配布用の資料を作成している。非常に時間がかかる作業でしたが、効果はあったと考えている。	大学院	講義	意図02
257b	あり	授業の終わりには、学生の理解を深め、理解度を図る目的で毎回小テストを課してきた。学生の理解度を助けるために、できるだけ多くの具体例をあげて説明してきた。	学部専門	演習・ゼミ	
257c	あり	学んだことベースに新知識獲得のための研究に興味を持たせること（自主性、積極性、動機付け）を目指している。	大学院	実験・実習	意図08
258a	あり	動物行動に関する講義をしているが、ビデオを見せることは効果的である。	学部専門	講義	意図03，意図06，意図07
258b	あり	独創的ではないが、うまく雑談、研究の失敗例などを盛り込むことは、非常に効果的である（笑いをとる）。教室の雰囲気や集中度が一変する。	学部専門，大学院	講義	意図20
258c	あり	話術として、話し方には気をつけている。語りかけるような、単調にならない講義を心がけている。	全学共通	講義	意図01，意図02
259a	あり	基礎的な教科書の輪読を行うとき、学生にあるまとまり（章など）を分担させ説明させる。その際数式の導出を徹底的に行うよう求める。	学部専門	講義	意図20
261a	あり	講義開始時に毎回小テストを実施する。このとき、出題候補となる問題をあらかじめ与えておき、その中から問題を出題する。そのことにより、学生の復習を促している。また、講義でふれなかったことに関しても自主的に学習できる。さらに、テスト結果により、学生の理解度が把握でき、講義の内容や進行速度を変えることができる。			意図02，意図05
262a	あり	医療系の授業で、受講生を10グループに分け、それぞれのグループに異なる課題（疾患と症候）を与え、事前グループ学習でシナリオを作成させた。講義では、ロールプレイでその患者に成りきって、他グループの医師役の学生から医療面接を受ける。その後、発表会で種明かしや鑑別診断を行う。ロールプレイで医療面接を体験し、どのような面接の仕方が良いか実感できること、また、鑑別診断を想定しながらロールプレイを見るので、役に当たらなかった学生も自然に参加でき、興味がわく。過去に、医療総合誌に記事が紹介されたことがある。	学部専門	演習・ゼミ	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
262b	あり	BSL（臨床実習）で、受け持ち患者の症例報告を学会形式で英語で発表させる。4-5名のグループなので、発表者以外は司会者、質問者、課題提示者を担当し、すべて英語で行う。順繰りに発表を繰り返し、私がそれぞれについて、解説、コメントを加える。正しい英語を話すことが目的ではなく、ブロークンでも単語の羅列でもいいので、英語でコミュニケーションを取ることを目的とし、英語アレルギーから脱却させる取り組みです。学生は2度経験するだけですが、研修医は毎週なので、1年で普通に話せるようになる。	学部専門	実験・実習	意図06，意図18
263a	あり	毎回、非常に簡単な現象を文章表現で表現させる訓練を行っている。回を重ねるごとに、上達してゆく。	全学共通		意図17
263b	あり	毎回のレポート作成と添削を行い、到達度を把握している。 学部／学科／個人差などを把握しながら授業へフィードバックを行っている。	学部専門	演習・ゼミ	意図01
264a	あり	採り上げる課題にあった、ゲストスピーカーを招き、現場の声を聞かせる。	学部専門	実験・実習	意図04，意図05，意図13
264b	あり	実際に課題が生じている現場に連れて行く。授業の内容に即した現場に適宜連れて行く、あるいは学生が自ら行けるように、その場所の情報を案内をする。			
264c	あり	予め議論のテーマを定めておき、ディベート形式で授業を進める。ディベート形式の授業のあといくつかのグループに分かれて、感想を共有させる。	全学共通	講義	意図08
265a	あり	スモールグループディスカッションや討論の実施を行うことで効果が見られた。	学部専門		意図07
265b	あり	ミニレポート・レポート類はすべてコメントをつけて返却している。	全学共通	講義	意図09
265c	あり	受講生全員の顔と名前を覚えている。		演習・ゼミ	
266a	あり	コミュニケーションカードを用いる。毎授業の開始時に用紙（105×75mm）を配布し、学籍番号、氏名、前回授業内容に関する簡単な質問（１－2問）、今回授業のキーワード（印象に残った言葉）、あれば質問を記載してもらい、次回授業で解説する。目的は、学生の理解度を把握する、学生の疑問に答える、学生に授業の重要点を示す、出席カードとして用いる等である。効果として、学生が予想外の箇所で理解できていないことに気づくことが少なくない。			
267a	あり	人間を対象とした研究の理論の定着を図るために、教室で実際に全受講生を対象に実験を行いその場で結果を分析して見せることで、理論的な予測の信頼性を示したところ、ほとんどの学生が試験答案にその内容を記述した。	全学共通，学部専門	講義	意図01，意図02，意図03，意図04

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
267b	あり	文字が下手なので、板書の代わりにすべてPCを用いてスクリーンに投影、毎回の講義終了後に個人のホームページに掲載する、という手順を取ったところ、事後の授業評価で、評判がよかった。	学部専門	講義， 実験・実習	意図11，意図15，意図16
268a	あり	現在社会問題として新聞等マスメディアが取り上げている話題を導入として用いる。			意図01，意図03
268b	あり	国の政策課題や政策を紹介する。	学部専門	実験・実習	意図05，意図08
269a	あり	学期中の授業実施計画書を授業開講時に配布し，シラバスの内容を補っている。学生の予習に有効であり，講義の重点を理解する一助となっている。	学部専門	演習・ゼミ	意図05，意図07，意図08
269b	あり	講義で理解できた項目，理解できなかった項目を列挙している理解度チェックシートを毎時間講義終了後に，学生の皆さんに提出させている。理解度チェックシートには，質問事項も併せて記入してもらっている。授業での説明不足，難解な項目の把握に有効である。	学部専門	講義， 実験・実習	
269c	あり	最新技術の調査報告という形式で、1つのテーマについて3段階のレポートを提出させている。レポートは個人単位の提出である。レポートテーマに関係するプレゼンを7～8人のグループで行なっている。授業レベルを超えた内容のものもあり、知的好奇心を刺激している。	大学院		意図07
270a	あり	講義に関係のある、最新の話題を学生のレベルで理解できるように準備して毎週解説した。	学部専門		
270b	あり	講義の最後に小テストを行い、理解度を確かめ、その翌週に再度小テストの内容を再度復習することにより、講義で重要な箇所を強調した。		講義	意図17
270c	あり	講義の数回に一回ごとに、講義で分かりにくい箇所を自由に書いてもらい、学生への理解度を高めるべく講義の進め方を改良した。	大学院	講義	意図16
271a	あり	海外の大学を訪問した際に訪問先と本学をTV会議で結び、現地の学生と合同の授業をした。その時は、事前の準備が不足していましたので、あまり学生同士が議論するような状況は作れなかった。しかし、例えば「少子化」のような問題を、同じ社会問題を共有している韓国の学生と議論したり、そうした問題を既に解決しているオランダの学生と討論するような機会を設けれられればと思っている。英語を学ぶ機会を与えるだけでなく、英語でコミュニケーションをする機会を与えること、そして国外の学生との討論を通して、様々な観点から物事を考える経験を提供できると思う。			

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
271b	あり	春は新ゼミ生のみ、夏はOBも含めた3年生と4年生の全ゼミ生を対象に合宿をしている。そこでは、哲学（倫理学、認識論）や数学（論理学、基礎論）など、正課の授業では扱えないような授業を行っている。抽象的な考察、深い考察とは何かを体感することを目的にしている。また、現代の社会問題に応用するような課題を与えてグループ討論する時間を設けている。			意図04
271c	あり	例年、全学共通科目で行う授業の最初に、売り手と買い手に分かれて価格交渉を行う実験を行っている。体験を通じて「需要供給曲線が一致する所で価格と取引数量が決まる」という、一見常識的でありふれた説明の意味を身につけてもらっている。また、その後も（実際には実験しないが）、「このような状況ならどのように行動するか」を考えてもらい、全員がそう考えた時にマーケットでは何がおきる（と経済学が予想している）のかを説明する。自由記述のアンケートで、より深く理解できたという多数の感想が得られている。	全学共通	講義	意図05，意図06
272a	あり	実験科目における、危険性の認識や安全性の確認を積極的に行ってもらうために、DVDやPowerPoint等で実際に起こった事例を見せる。	学部専門	演習・ゼミ	意図18
273a	あり	スキルスシュミレーションセンターを利用して検査技術の体験および向上をはかる。			
273b	あり	患者さんの病状について関連する基礎医学知識を問い、他の学生からの評価をその都度述べさせる。			
273c	あり	専門分野の第一人者の講演会などには、課外授業として学生の参加を促している。	学部専門	演習・ゼミ	意図01，意図02，意図03，意図04，意図05，意図06
274a	あり	学生時代、自分が受けた授業の大半は、ひどい内容だと思っていた。その中で、数少ない感銘を受けた授業は、教師の該博な知識と人間的魅力で学生を引きつけるタイプと、よく準備されて自分の研究内容が反映されているタイプに分かれた。自分自身が教師になり、前者は無理なので、せめて後者をめざしているが、実現の自信はない。このIT時代に、手作りの授業のメリットはどこにあるかを考えると、やはり「生放送」であることによって、教師の人間性が、良きにつけ悪しきにつけ、ストレートに現れるところだと考える。放送大学その他でお金をかけて作成された立派な教材ビデオが実際には不人気だと聞く。講義のテクニカルな部分の改善の重要性を否定するものではないが、教師と学生の生身の人間としての関係を充実させることが基本だと思う。			意図01，意図02，意図17
274b	あり	講義全体にわたって、A4判35ページに及ぶかなり詳しいテキストを、印刷して配布している。授業で説明しきれないところは、「テキストを読んでおくように」という指示ができるので、講義の進行がスムーズになる。	学部専門	講義	意図02，意図05

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
274c	あり	他大学とのゼミ討論会を行っている。年によって差はあるが、「他流試合」ということが学生に緊張感を与え、事前の研究、当日の発表など、全体的によい効果を与えている。			意図04
275a	あり	90分の授業で講義は10分前くらいに終了し、残った時間で学生に「本日の授業で何を学んだか」「質問や感想」の2つを書かせる（ミニペーパーと呼んでいる）。 質問や感想については翌週にコメントを返す。また、学生が誤解していると思われる事柄に関する補足説明もする。これらはたいてい、A3裏表程度の文章になり、毎週配布する。 学生との間でコミュニケーションが出来るだけではなく、1度講義を聞いただけでは曖昧な理解だった学生が、翌週のコメントを聞いて理解が明確になったりすることがあるらしく、学生からは評判が良い。 以前は「質問や感想」を書いてもらっていたが、それでは授業の最後のほうにだけ出てきて、「おもしろかったです」とだけ書く学生がいるので、この形に改めた。学生の理解状況等を把握することもできているように思う。	全学共通	講義	意図07
275b	あり	A4用紙の表裏を使い、表側に宿題を出し、裏側を翌週の授業のミニペーパー（上述）にする。表側は、翌週の授業までに読んでおくべき教科書の場所や資料を読んで感想を書かせたり、何かを考えさせたりしている。 一般的に学生に、いきなり何か発言を求めても反応が起こりににくい。事前に発言するべきことを考えておかせることが重要だと考えている。また、上述のミニペーパーでは、筆が遅くてたくさん書けない学生がどうしてもいるが、宿題で書くとたっぷり書けるようである。	全学共通	講義	意図20
275c	あり	クリッカーを利用している。意見が分かれそうな話題について（例：ある理論にどの程度賛成するか「多いに賛同」「概ね賛同」「少しだけ賛同」「賛同しない」）クリッカーで回答してもらう。時にはその後に小グループで議論をしてもらうこともある。受講生の全体的な回答の分布がわかって、学生には参考になるようである。	学部専門	講義	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
276a	あり	学部専門講義の最後に答案練習会を実施している。過去に出題した問題を事例に、解答例をいくつか印刷し、それを学生たちに採点させる（A,B,C,Fを付けさせる)。学生によっては自分でそれを解いてきたものもいるので、それについては個別にアドヴァイスをする。その後、各解答例にどのような評価を付けたのか全体で挙手をさせ、なぜそのような点数をつけたのか、何人かの学生にインタビューして発言させる。そのうえで、担当教員がこの答案例であればこのような評価になるだろうと解説し、なぜそのような評価になるのか、内容面及び答案の書き方も含めて解説する。これによって、教員がどのような点を重視しているか、他方学生はどのような答案がよい答案なのか、論理的な文章とはどのような文章なのか、理解を深めることができる。	全学共通		意図17
276b	あり	専門演習では、2年に1度、ゼミ単位で海外研修旅行（主として東アジア、東南アジア諸国）を行っている。現地学生との交流会や、自治体訪問、法律事務所、JICA(国際協力機構）事務所、JICA専門家の駐在先（病院、学校、法整備支援分野）を訪問してきた。これを機に外国語に強い関心をもったり、外務省専門職員、看護師、外国人の人権問題を扱う弁護士を扱うようになった卒業生もいる。	学部専門	講義	意図19
276c	あり	専門演習におけるゼミ論執筆と執筆のための個人指導の導入を行っている。専門演習では、ゼミ論提出を単位取得の条件にしている。夏休み前に個々の学生に関心あるテーマとそれに関する書物を選ばせ、夏休み中にその本を読ませたあと、11月と12月にそれぞれ一回ずつ何がクエスチョンか、何が面白いかを演習の場で発表させる。テーマが絞り切れない場合には、さらに1月に入ってから3回目、4回目の発表をさせる。ついで、まずは5千字程度の草稿を書かせ、さらに1万字のゼミ論を執筆させるが、そのたびごとに大学院生のTA及び担当教員が問の設定や文章の書き方について指導する。以上のように、ゼミ論執筆を課すことは、学生自身の知的関心をかきたて、何が問題かを自分で考え、他の人にも理解できるように発表し、さらにそれを自分の言葉で表現するという一貫した教育を行うことができる。論理的に表現したり書いたりする能力は格段に上昇する。	学部専門	講義	意図07

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
277a	あり	専門への興味、好奇心を養うことを目的としている講義内では、日常の自然現象を題材に自宅でちょっとした実験研究をさせ、学生が自ら発表し、学生間で質問や議論をするという形式で授業を進めている。また、思考の方法論を学ぶ意味で昔、雑誌に掲載されたテーマを題材として内容紹介とさらに深めて学生が3人でグループを作り発表させている。この題材の良いところは、数人の学者が日常の自然現象や人間行動を議論しながら深めており、その分野の方法論や思考方法を学ぶことができるからである。この授業を通しての学生の反応は、「やはりこの分野は面白そうだ」「この分野を選択してよかった」などで、当初の目的はある程度達成されていると思われる。ただ、残念ながら、その後の授業ではまだ知識の習得に重点が置かれているため、2回生、3回生と進むにつれ、効果が薄れていっていると思われる。			
277b	あり	数回の小テストと中間テストを行っている。小テストと中間テストが少ない年は、最終テストの成績は悪く、中間テスト等が多い年は成績がよい。これは、テストによって何が重要であるかが認識できるからだと思われる。これは、昔、最終テストのみの時に、あまりにも成績が悪かったため導入したものであるが、理解という意味では有効と思われる。	学部専門	実験・実習	意図05
278a	あり	5人1組の班で行う実習であったが、実験に加わらず結果だけを教えてもらう学生がいたため、それぞれの学生に実験を行わせる目的で、班員それぞれに異なるサンプルを与えて実習を行った。その結果、全員が実験を行うようになったが、他の班員の結果はさて置き、自分さえ結果をうまく得られば良いという風潮ができてしまった。そこで、次年度から、各班員の結果も踏まえて自分の結果を考察するように内容を変更することで、班員と一緒に考えながら実習を進めることができるようになった。	学部専門	実験・実習	意図05，意図08
278b	あり	講義内容が基礎分野であるため、講義の前半部分では今回の講義で説明する内容がどのように応用され、評価されているのかを予め説明することで学生の興味を引くようにし、それから後どのような研究・発見に基づくのかを説明するようにする。講義の最後には、講義内容に即した動画を用いて理解を深める。また、まとめとして講義内容に関する質問を行い、代表者に答えさせることで重要事項の定着を図っている。	全学共通，学部専門	講義	意図01
280a	あり	直近の1年間に発表された外国専門雑誌の論文を集めて、受講者と討論する。	全学共通	講義	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
281a	あり	2回生学生実験にて、入学時にノートパソコンを購入させている。また実験の測定結果をパソコンを用いて図示し、解析して、報告書を作成させている。それにより、3回生での学生実験でのレポートの質が多少向上した。パソコンを用いたグラフの描き方や報告書の作り方が、多少ましになる。	学部専門	演習・ゼミ	
281b	あり	2回生対象の学生実験にて、レポートの添削を学生自身（教員自身ではなく）にさせている。それにより、まともでないレポートがどれほど読みにくいかを自ら経験してもらう。具体的には、実験実施前に教員が「レポートとはどうあるべきか」「図と表とどっちがよいか」等の原則を伝える（ミニ講義）。その日のうちに実験とレポート執筆、添削を実施する。この時、必ず自分のではなく他人のレポート（匿名化したもの）の添削をするように振り分ける。教員が評価するのは、添削者（学生）の添削の仕方である。これにより、それ以降のレポートの初歩的な事項については、これをやらないよりは改善される。また3回生学生実験のレポートの質もこれをやらないよりは改善される。	学部専門	実験・実習	意図05，意図06，意図07，意図08
281c	あり	自分がバカになること。同じ講義の十年もやれば、多くのことが「当たり前」になってしまう。頭の回転が速く、知識が豊富な先生ほど、「専門用語で煙に巻く」という状態になりやすい、と思う。すると学生は、論理の飛躍があるので、その先からさっぱりわからなくなる。講義の現場では、なるべくそうならないように心がけた方がよいと思ってやっているが、効果のほどは不明である。			意図14，意図17
283a	あり	経済活動を取り扱う専門授業において、関連する経済記事について、新聞の切り抜きを補助教材として活用することにより、机上の議論にとどまらない、現実的な問題であることを強く意識させるとともに、広く社会全般に対する興味・関心を喚起するようにしている。学生からは、「取締役」や「株主総会」といった基本的な概念についての知識が深まるとともに、従前よりも経済ニュースの理解が深まった、積極的に新聞を読もうという気になったなどの感想が寄せられることが多い。	大学院		
283b	あり	学部の授業で使用するレジュメには、重要部分を、あらかじめ空白としておき、板書や口頭説明を通して、各自が補充（穴あき部分を埋める）という形式をとっている。学生からは、詳細なレジュメの場合と比べて、自らの主体的な行動が必要となることにより、より授業に集中できるとの感想が寄せられることが多い。	学部専門	演習・ゼミ	意図01，意図03，意図07
283c	あり	事前に、取り扱う内容について、レジュメおよび質問項目を準備して電子掲示板にアップしている。学生の自主的な予習を促すとともに、復習の際の知識の定着という点から有益であるとの評価を受けている。	学部専門	講義	意図01，意図04，意図08

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
284a	あり	講義形式の授業に演習の時間を設けて、学生相互に内容理解の相互確認を行なわせた。	全学共通，学部専門，大学院	講義	意図03，意図04，意図14，意図15
284b	あり	講義内容に関する予備知識を問うアンケートを行なった。講義の最終回・実験の最終回に、習得度や講義形式に関するアンケートを行なった。			意図04
284c	あり	視聴覚機器を使った。	学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	意図01，意図02，意図03，意図04，意図05
285a	あり	学問の方法論、あるいは、科学技術の発展の法則性についておりに触れて学生に話している。たとえば、人間が自然法則を認識する過程は一般に（1）現象論的段階、（2）実体的段階、（3）本質論的段階の3段階に分けられることが多いなど（武谷三男；弁証法の諸問題）。あるいは、人間の視覚のメカニズムを研究するときに、(1)計算論のレベル、（2）アルゴリズムとデータ構造のレベル、（3）インプリメンテーションのレベルの三つのレベルのうち何について研究しているのかを自覚しておく必要がある（デービッド・マー：ビジョン ― 視覚の計算理論と脳内表現）など。学生がいきいきとした目で聞いているので成功だったと思う。		演習・ゼミ	意図02
285b	あり	教科書風のプリントを自作して配布している。できるだけ懇切丁寧に説明しており、分かりやすいと評判である。	学部専門	講義	意図20
286a	あり	言語獲得のデータベース (CHILDES)を使い、受講生には、分析ツール(CLAN)を利用して、分析した結果をExcelとWordを使って、半期で3回発表を求めた。回を重ねる毎に、発表に工夫の跡が見られ、思考を深める良い機会となった。	学部専門	講義	意図01，意図05
286b	あり	自分の博士論文を使い、受講生8人で分担して、発表を求めた。担当箇所を熟読してレジメに纏め、発表することを通して、論理的に考えたり、適切に表現することを訓練する場となった。	学部専門	演習・ゼミ	意図05，意図06
287a	あり	演習での担当者が週1回会合をもち、情報交換を行った。カリキュラム、教材の共有化、複数の教員による学生把握ができた。具体的な目的があるので、通常のFD研修会に比較して、得るところが非常に大きかった。	学部専門	講義	意図01
288a	あり	コミュニケーションペーパーによる質問内容について次講義時の冒頭に回答・解説を行った。	学部専門，大学院	講義	
288b	あり	体の生理的な機能を理解するためにその場でできる簡単な測定を取り入れたり、測定機器を用いて代表者による演示実験を行った。	学部専門	演習・ゼミ	意図06

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
289a	あり	学生が授業で学んだことも踏まえ、実際に社会人として生きている人たちにも自分でインタビューしたことも吟味しながら、授業全体の大きなテーマについて考えさせる課外の期末レポートを課している。これによって、授業で知識として学んだことを、社会人の視点も通して検証し直すことで、再認識したり再確認したりして定着させる。また、学生達が自分なりに、その大きなテーマについて考えそれを論理的に表現する機会ともなる。	学部専門	実験・実習	意図07，意図08，意図10
289b	あり	学生に毎回の授業時の最初にその日の講義の重要な論点に関する課題を出しておき、それを意識しつつ講義を聴いた上で、その課題に対する個々の学生の自分なりの見解を論理的に書かせる小レポートを最後に課す。その際、講義をそのまま書き留めるようなレポートを書かせないために、レポート用紙は書かせる直前に渡して、自分なりの言葉で書かせるように工夫している。	学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	意図01，意図02，意図04，意図14，意図15
289c	あり	多人数授業においても少人数授業においても、できる限りグループワークを取り入れている。その際、全学共通教育なので、多様な学部学科·学年の学生が一堂に会して議論することの大変さやおもしろさ、相互の考えや興味、選択するアプローチの違い、などを認識しつつ、自分を相対化したり自分の意見を再吟味することの重要性を学ばせている。少人数のグループワークでは、KJ法なども取り入れて、自分たちの意見を整理し発展させることを学習させている。	学部専門	講義	意図04
001	なし	文系向け理系授業においてPowerPointを用いて、理系に深化した題材での授業を行っているが、効果がなかった。	学部専門		意図07，意図11，意図12，意図13，意図14，意図15，意図16，意図17
002	なし	授業中に休憩を取るようにしているが、効果がなかった。	学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	意図01，意図02，意図03，意図04，意図05
010	なし	毎回、ディスカッションを取り入れた授業を行ったが、熱心に参加する学生が少なく、十分な成果が得られなかった。	学部専門，大学院	講義	意図17
011	なし	PowerPoint用いたが、結局、画面を追うことに集中するあまり、知識が定着せず、学習効果があがらなかった。	学部専門		意図17
015	なし	問いに対する答えになっているか、わからないのですが、「知的好奇心のない大学生」は矛盾概念だと思うのです。知的好奇心ある学生が伸びてゆくのを、《平均的学生》が妨げる状況はあって、それを防ぐために、結果的に、落ちこぼれを放置する、ということはありました。現実の社会は厳しいですから、この程度は、良いのだと自らに言い聞かせてはいるが、後味のわるいものです。	全学共通	講義	意図03
027	なし	毎回リーディングリストを配るがあまり活用されていない。	学部専門	演習・ゼミ	意図01，意図04，意図18

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
029	なし	講義中にテーマを与えて学生の自由な発言を求めているが、効果がなかった。			
032	なし	PowerPointを用いているが、学生が話をきいてない、ノートをとらないので復習しない状況になっている。	学部専門	講義	意図17
033	なし	PowerPointを利用して、式の展開など学生のノートへの記述量、時間の提言をはかるも、学生が見ただけで理解はしていない。	全学共通，学部専門	講義	意図17
034	なし	質問票やメールによる受付は反応がない。	全学共通，大学院	講義	意図07
035	なし	演習で、学生を指定し問題の解答例を聞いていたのだが、あたった問題しかしない、又その他の学生は何もしないというようなことがあった。	学部専門	講義	意図19
037	なし	研究データを授業の中で示すが、学部生では理解が難しいようである。	全学共通	講義	意図04，意図05
041	なし	話し方や板書を丁寧にしようと努力しているが、あまり進歩がない。	全学共通	実験・実習	
042	なし	PowerPointは授業、特に専門教育には不適切である。学生に理解が得られにくい。一度150人レベルのPowerPointの時、機械の故障で口頭のみで行ったが評判よかった。ただしこれはこれで大変。	全学共通，学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	意図13，意図17
044	なし	技術の適用可能性を自分で考えてまとめるレポート課題をだしたが、自分で考えずインターネットで調べたものを引きうつしたレポートがかなりあった。			意図13，意図17
049	なし	一般的な通年講義。関心が少ない場合には、なかなか注意を向けてもらえない。	大学院	実験・実習	
062	なし	教科書通りに講義をして欲しいと、一部の学生からの要望にこたえて授業をしたことがある。その結果私も大多数の学生も、たいくつ感と疲労感を感じた。	全学共通	講義	
077	なし	外国語の授業で初対面同士でもあるので、毎回席次を変えて、２人一組で発言練習などさせて、クラス全体の雰囲気も良くしようとしたことがあるが、労力の割に効果が思ったほどには表れることはなかった。	学部専門	講義	
080	なし	若手教員の積極的登用を行っているが、若いからと言っても知識、熱意、能力が伴うとは限らない。			意図17
082	なし	板書する内容をパソコンでスクリーンに映写しての授業を行っている。説明が早くなって、ノートに書く時間が足りなくなってしまう。板書して同時進行でノートに書き説明した方がよい。	学部専門		意図05

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
086	なし	国外研究者により英語の授業を行った。しかし、２～３人を除いて、英語についていけず興味を引き出すことが出来なかった。また同時通訳を入れた場合は、通常講義を上回る意義は見出せなかった。	大学院	講義	
092	なし	小テスト、レポートなどを課しても、成績との関連にしか興味がなく、徹底して調べる気もない。レポートは出せばOKだし、小テストも最終的に合格点に達するための手段でしかない。最近はレポートなどで、全てをやりきらないで提出する学生も散見できる。			
095	なし	小テストを行うことは効果がなかった。	全学共通		
100	なし	受講に際して、最初に長文のレポートを要求するので、自主性、積極性を期待したが、結果的には学生は負担を嫌ったのか、受講生の数は多くなかった。	学部専門	実験・実習	意図05
101	なし	時に、全く興味のない学生（受講を希望しているが全く質の違う学生）がいて、その学生の興味を引くのは元々難しい。自分には不要と割り切っている面がある。	学部専門，大学院	講義	意図12
117	なし	専門の知識が難解すぎて、学生が理解できなかった。			意図01
133	なし	全学教育棟の教室が大人数のものが多く、10～20人規模のクラスが少しやりにくい（冬場は特に教室が広すぎて寒い）。もう少し小規模の教室を増やしてもらうか、かんたんにパーテーションで区切れるなどができると良いと思う。	学部専門	講義	
137	なし	英文論文を提示したが、学生が興味をもつことはなかった。	学部専門	講義	意図17
147	なし	学生参加型・双方向授業では、学習の進度が疎外される事がある。「もっと進めて欲しい」とコメントノートに記されることがある。稀ではあるが・・ また、小グループディスカッションでも「せっかくグループの意見のまとめをしたのだから、全グループに発表させてほし」と記されることもあった。	学部専門		
158	なし	プリントをワークシート式（穴うめ方式）にしたが、授業の流れを悪くし、学生の集中力が高まる知識が定着するということもなかった。	学部専門	演習・ゼミ	意図04
166	なし	研究科が自分の意見を取り入れるような仕組みがなかった。すべて上の人たち、元々研究科にいる人たちで決められていた。	学部専門	実験・実習	意図02，意図07
172	なし	LLを用いたことがあるが、あまり効果があるとは思えなかった。	学部専門	講義	意図17
174	なし	意欲のある学生は成長していくが、意欲のない学生は何をしていいか分からず、無駄に時間を過ごしてしまう。つまり最初にいかに意欲的な姿勢を待たせるかが問題。	学部専門	講義	意図19

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
176	なし	講義形式だが、受講生同士の意見交換の場を設けても、コミュニケーションをとろうとしないのか、全て雑談になる。	全学共通	講義	意図05，意図06，意図07
177	なし	視覚にうったえる教材を用いたが、実際に利用したものと理論上正しい説明とを合わせるのが難しく、授業時間を多く消費してしまった。	学部専門，大学院	演習・ゼミ，実験・実習	意図15
178	なし	2部のゼミでは数人の学生に苦戦している。	学部専門	講義，実験・実習	意図03，意図05，意図06，意図17
179	なし	同じ科目を担当する教員間で、いろいろと情報のシェアを試みたが、多くの教員の方が自分の授業内容や評価方法などを含めた授業への取り組みについて、基本的に話したがらない傾向があることに気づき、とても残念に思っている。	学部専門	講義	意図03
185	なし	授業の出席をとることは、効果がなかった。			意図01
192	なし	映像教材や、PowerPointの使用を行っているが、受動的になりがちで、積極的な学習の姿勢につながらなかった。	大学院	実験・実習	意図14
194	なし	コミュニケーションカード的なものを配布しても回答がなかった。	全学共通		意図19
198	なし	PowerPointのスライドを中心とした講義は、効果がなかった。	学部専門	講義	意図12，意図17，意図19
199	なし	自学自習ソフト（ALL NetAcademy 2)の活用を推進するため、授業内で紹介したり、時間を割いて試してもらったりしたが、成績には加味するという条件を出さない限りは、自習者数を増やすことにつながらなかった。	全学共通，学部専門	講義	意図01，意図02，意図03，意図04，意図05，意図06，意図07
201	なし	PowerPointを用いたQ＆A方式の要点整理	学部専門	講義	意図01，意図02，意図03
203	なし	せっかく異なる観点が学生たちから出ても、その時にうまく指導できなかった。次の機会にはディベートを設けたい。	全学共通	講義	意図09，意図17
211	なし	最初の授業で、大学での授業の意義（基礎知識、最新の情報、社会的課題）を提示し、授業を聞くことの大切さを知らせるとともに、そのための守るべき十箇条について相互に約束している（資料も配布）。だが、残念ながら、意義に対する理解不足と約束違反が少なくない状況で、今後も継続しつつ、改善策を検討中。	学部専門	講義	意図07
213	なし	小テストを行うが、講義が単発であるため学習意欲につながらない。		講義，演習・ゼミ	意図18
217	なし	学生達が変化していることを気付かず、前年度にうまくいったクイズ形式の問題を導入したが、基礎の基礎部分が抜けていたため教育効果が半減した。	学部専門	講義	意図07

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
218	なし	学部学生への講義における、授業関連課題の学生によるプレゼンテーション（PowerPointを用いて学生自らが調べたことを口頭発表する）を行い、双方向性の授業、学生の意見表示、ディスカッションを目的としたが、効果がなかった。	全学共通		
219	なし	定理の厳密な証明等、抽象的な部分に拘りすぎると学生の興味が極度に減少する。	学部専門	演習・ゼミ	意図19
220	なし	当該講義テーマに関連して、クイズ形式で内容を確認説明していく方式をとったことがある。学生の食いつきは良かったと思うが、知識として定着していなかったことが、期末試験の採点で判明した。	全学共通		
223	なし	英語クラスで日英の両語で授業を進行したがうまくいかなかった。			意図05
224	なし	板書の時間が多くなり、準備に動画、スライドを完全に示すことが出来なかった。	学部専門	講義	意図07
225	なし	実地に出るタイプの科目にいて、現場を知らない学生に対し、現場の設備を見学させ学習させることを試みたが、学生が30人ほどいるため危険と判断し取りやめた。	学部専門	講義	意図04
228	なし	自由質問時間などをもうけたが、学生からのフィードバックをうまく得られなかった。	学部専門	講義	
230	なし	一般的な概念から導入し、科学的な定義を説明した上で、実際の現状解明されているもの、未解明な領域について、体系的な講義を行ったが、学生にそもそも科学への興味がないようであった。			意図01，意図04，意図05，意図06，意図07
231	なし	コミュニケーションペーパー、アンケートから、実のある回答が少なかった。	学部専門，大学院	演習・ゼミ，実験・実習	
240	なし	体験させたことに基づき、まとめを提出させたが、学生相互の友人のコピーが数通見つかったことから、体験が学習の動機づけとならなかった。			意図07

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
246	なし	学生から自発的に「こんなことをしてみたい」と提案があったときには、その自発性を活かしたいと考え、できるだけ本人の希望に沿うよう対応したことがあった。 しかし一方で、本人以外の他の受講生から強い不満が出て、授業自体を進めにくくなることも多々あった。 以降、学生からの要望や提案があったときには、「だれそれからこのような提案があった、このクラス全体としてはこの提案を受け入れるか？」を訊ね、決をとるようにしている。 また、学生からの要望の中には「自分の成績が悪くなるのはいやだが、労力もこれ以上かけたくない、でも何とかしてくれ」系の他力本願なものもある（それを取り入れると、誠意をもって学習している学生がかえって不利になる）ので、どこまで取り入れるかを慎重に吟味する必要があると感じている。	大学院		意図08
248	なし	PowerPointを出しっぱなしだと、退屈で学生が寝る。3年次講義で授業アンケートをしても、ほとんど何も書かれない。	全学共通，学部専門	講義	意図07，意図17
255	なし	期末テストにおいて、自身が整理した自筆のA4×1のメモノートの持ち込みを許すことを行った。 学習効果はアップしたと思うが、ごく少数だが先輩のメモ・ノートを持ち込む学生がいたり、転記の答案が多くなり考える回答が少なくなった。	全学共通，学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	
256	なし	レジュメのすべての情報を書いてしまうと、学生はそれを持っているだけになり、あまり集中に知識の修得ができないように感じる。		講義	
261	なし	PowerPointを使用して視覚的に理解できるように講義をしたが、うまくいかなかった。板書があるとノートを取るので居眠りをする学生は少ないが、映像を多用すると居眠りをする学生が増えた。工夫して使用しないと映像だけでは、学生の興味を持続させることは難しい。			
263	なし	理学の場合、完全に自由に議論させると、多くのコピーレポートが発生する。	大学院	講義	意図13
264	なし	自分の考えを書かせることを趣旨としてレポート課題を提出した。自分の考えを述べられるものもいるが、大半が自分の考えまで熟成させることができず、事例紹介にとどまってしまった。 授業中に学生の意見を聞きながら双方向に進めたいと思っているが、なんどか話題を振っても、ほとんどの学生から答えが返ってこない。最初は、いくらか試みていたが、途中であきらめてしまった。			意図02，意図03

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	効果	具体事例	種類	形態	Q3 (1) に基づく工夫の観点
266	なし	ディベートを導入しようとしたことがあったが、上手くいかなかった。学生の積極的な発言が得られずに、教員の発言が多くなってしまった。教員自身が不慣れであったための準備不足が原因であったと思われる。	全学共通	講義	意図01
267	なし	大学院生の論理的な思考と文章読解・執筆能力を向上させるために、授業時間外に自習的な「勉強会」を主催したが、もともと論理的な考え方のできる学生しか参加しなかった。	大学院		意図09
269	なし	グループによるプレゼン時においてグループ内での協働というものが不足しているケースもあった。 この点では、プレゼンの目的の達成できなかったといえる。	大学院	講義	意図01，意図04，意図13
270	なし	講義中に学生へ質問をさかんに投げかけたが、あまりに反応が得られるまで時間がかかりすぎたので講義の進行に影響が出るほどであったため中止した。	全学共通	演習・ゼミ	意図08
271	なし	以前、授業計画を綿密に建て、プレゼンテーション資料を用意して授業をしていた。整然と授業が行えるものの、途中から出席者も減りアンケートでは学生から「早すぎる、難しい」などの意見が出ていた。そこで、ライブ感のある授業にしようと、黒板を使い、学生を見ながらその場で例などを考え、通常の会話を進めるように口語でどんどん書き足す形で板書するようにした。すると学生の授業への参加意識が変わり出席者数も増えた。しかし、結果的に、学生のノート（私の講義での板書）は、事前に用意している講義ノートとはまったくの別物になってしまう。また、学生の理解が足りなさそうな時は、どんどん例や説明内容も加わるので、とても授業計画通りには進まない。また、どのタイミングで、何をどのように説明したのか、私の手元には残らないので、次の年の授業は（その進度も含めて）前の年とは、まったく違うものになってしまう。授業のライブ感を維持しながら、カリキュラムや説明（板書）内容を計画通り行うことの両立が困難である。	学部専門	実験・実習	意図01，意図04，意図05
272	なし	実験科目に関して、学部によって差がかなりある。特に単位のみの取得を目的としている学生にはいまのところ対処法がない。			意図05
273	なし	課外授業については学生の自由時間を束縛するとの指摘を受けた。	学部専門	講義	
274	なし	授業評価アンケートを実施したことがあるが、学生側の授業理解力、出席回数などと連動させないと意味がない。ろくに授業に来ない学生が偶々出席して、授業が理解できなことを、「興味がわかない」「教え方が悪い」という評価をすることを経験した。	全学共通，学部専門，大学院	講義，演習・ゼミ	

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
275	なし	中間レポートの内容に関する発表会をしていたことがある。1人5分から10分程度でレポートの内容を発表するというもの。受講生の間では評判は悪くは無かったように思うが、それを敬遠して受講生が集まらない現象がみられた。試しに一度やめてみたところ受講生数が大幅に増加。教育資源を考えると、学習効果に差し支えのない範囲で受講生を受け入れたいが、本当にこれで良いのか？という疑問もある。とりあえず、発表会はその後はやめている。	学部専門	演習・ゼミ	意図05
276	なし	PowerPoint、及びPowerPoint原稿を使った授業は、教室を暗くする必要があるが、睡魔を催す逆効果があることに加え、PowerPoint原稿は講義の論理構成がわかりづらくなるようで、知的好奇心をさほど喚起しなかった。むしろ、伝統的なレジュメ配布の方が、講義内容の論理的内容に従って学生が講義を聞くことができ、どこでノートを取ればよいのかわかるようで、授業における集中力も高く学習効果が上がるように感じた。	大学院	講義	
279	なし	学生が親しんでおり、知識として共有しているであろうドラマや映画、マンガといった題材をもちいてリテラシー教育やディスカッションの手がかりにしようとしたところ、学生たちがそうした諸作品自体に触れておらず、また、とくに彼らが共有している創作物もないことが判明した。ベストセラー本を読まないどころか、人気ドラマですら「同じものをみていない」のである。	全学共通， 学部専門	講義， 実験・実習	意図09
280	なし	PowerPointを用いる授業は、かなり工夫しないと受講者は観客になってしまう。			意図17
281	なし	PowerPoint（学生によるダウンロード可能）による講義を行ったが、板書の方が授業の進度がゆっくりなので、板書の方がよいという学生もいる。勿論、それに従って実施すると、進度は極端に遅くなる。対応策として、講述等にて知識を身に付けてもらう場合には、すでにできあがったPowerPointを見せて説明し、計算など自らの手を動かして手順等を身に付けてもらう場合には、iPad等を用いて、書いている途中段階（解いている途中段階）を見せるようにしている。この時、教員が間違えると、学生のレスポンスが普段よりもよくなるようである。	学部専門	講義	意図11，意図17
283	なし	学生相互間で議論させようとしたこともあったが、もともと取り扱うべき内容が多いため、効率的な授業運営に支障を来す結果となった。多方向の授業をすることは、自分の頭で考える訓練としては適切だと思われるが、時間的制約から断念している。	学部専門	講義	意図01

Q3 (2) 授業において実際に行っている工夫・改善　効果的だった取り組み／効果的でなかった取り組み					
snoID	**効果**	**具体事例**	**種類**	**形態**	**Q3 (1) に基づく工夫の観点**
286	なし	全学共通教育外国語（英語）において、受講生に多読を求め、リーディング能力を高めることを目的として授業を行ったが、課題や授業で読ませる量が多かった為に、不良消化に終わった部分があった。	全学共通	講義	
289	なし	毎回の授業で書かせる小レポート課題は、科目によってその効果を感じる大きさが異なった。すなわち、同じ仕掛けや工夫も、授業の目的や科目の課題内容によって、その効果が異なることがわかった。今後は、やはり授業の目的·科目の内容にあわせて、それに合った仕掛け·工夫を、一層試行錯誤して見つけていきたい。	学部専門	演習・ゼミ	意図05，意図06

Q3 (4) 教育環境や設備などにおいて不足や必要性を感じていること		
snoID	内容	備考
①教室設備に関するもの		
100	無線のインターネットを整備してほしい。	LAN
163	講義室でネットワークが使えない（使いにくい）	LAN
281	ネットワーク認証する有限要素法ソルバーソフトウェアのクラスライセンスキットを用いた大学院講義を行おうとしたが，ネットワーク環境と電源環境が整っている講義室が極限られた数しか無いのが残念であった.	LAN
197	1.学生が一般教室で活用できるネットワーク環境が他大学に比べても圧倒的に遅れている。また学情センターの上層階にPC教室を集約してしまったことも問題。全学共通教育棟のPC教室の復活は必然。 2.討論やワークショップなどアクティブラーニング型の授業がやりやすい教室が少ない。 3.400～500人規模の大教室と少人数でゼミ・演習が行える小規模教室が必要。 4.ネットワークに接続したPC環境のある実習室が全学共通教育棟にも必要。	LAN 教室の構造・大きさ
289	教室で、無線LAN（せめて、有線LAN）を自由に使える環境にして欲しい。現状も、10～15分程度は有線でつなげられるようだが、10～15分ごとに、再度ログインする必要があるなど、大変、使いづらい。 また、全学共通教育棟3階に以前あった、パソコンを使える演習室（パソコン画面を机の中にしまうことも出来、椅子も自由に動かせる部屋）を、また、使えるようにして欲しい。学生が毎回学情9階に移動して授業を受けることも大変であるし、また、少人数の演習には、学情の9階の設備は大きすぎたり、パソコンが邪魔になったりするので。	LAN 教室の構造・大きさ
275	Learning Management Systemと受講生が無線LANを使える環境がほしい。授業で毎回ミニッツペーパー等を書かせているが、教員が回収してしまわなければならない。コピーとをって返却するのは大変なコストがかかる。Learning Management Systemを使って学生がミニッツペーパーを出してくれれば、学生の手元と教員の手元の両方に学生が書いたものが残る。学生の学習にも効果的である。 昨今はスマートフォンやノートパソコンを持っている学生も多いので、設備が整えば使えるだろう。	LAN その他
183	・LANを教室で使えない（教員が自分のPCで） ・プロジェクターがほぼ全教室に設置されたが、黒板と同時使用できない。このように利用する教員が仕様決定に立ち会っていないが故に、使用しずらい設備が導入される例が多い。	LAN プロジェクター関連
9	学生がパソコンを使用しながら授業が受けられる部屋をもっとつくってほしい。	PC
180	実験で使用するパソコンのスペックが低く、円滑に授業を勧めるのが困難に感じた。	PC
233	パソコンを使用することが多いですた、教員のパソコンが使用できない時に借りられる台数が少なく対応に困ることがある。	PC
2	CPRMに対応したDVDプレーヤー。Blue Rayプレーヤー。	映像・音響
11	音響関係の施設が古い。また、隣で使っていると音がもれてくる。	映像・音響
34	視聴覚機器の整備が遅れている（専門校舎）	映像・音響
117	共通教育棟、学部講義室のAVシステムのメンテナンスが不十分なこと。	映像・音響
151	BLやデジタル対応のDVD再生機がなく（アナログ対応のものはあり）今年はDVDなどの教材が使えなかったこと。	映像・音響

Q3 (4) 教育環境や設備などにおいて不足や必要性を感じていること		
snoID	内容	備考
203	1号館にDVDプレーヤーがないこと。	映像・音響
176	1号館の教室でビデオ映像が、教室のキャパシティにあわず、少なすぎる。学生からも「みえない」	映像・音響 教室の構造・大きさ
92	全教室にマイク、AV設備導入。出席の自動化。アンケート調の小テストなどに利用できるマークシート読み取りマシーン。	映像・音響 その他
10	演習室を充実させて欲しい。 講義形式の授業の場合とゼミ・演習形式の授業の場合、使用する教室が異なる。少人数教育を徹底していくためには、視聴覚教材が使える演習用の教室の整備が望まれる。一号館はかなり整備されているが、必ずしも多いとは言えない。また文学部棟での授業の場合、こうした問題が生じてくる。	教室の構造・大きさ
62	学部の教室の狭さ、暗さは全学共通教育等に比べて雲泥の差がある。改善してほしい。学生実験室も狭く最悪である。このままでいいはずがない。	教室の構造・大きさ
150	黒板を複数枚利用できるようにしてもらいたい。黒板のスペースの充実が必要と思う。	教室の構造・大きさ
198	横長の（奥行きの短い）教室の設置	教室の構造・大きさ
231	黒板とスクリーンの配置がおかしい	教室の構造・大きさ
234	学生の机の巾がせまい。奥行きの長さ、机がせまい。黒板の前のモニターがじゃまな場合が多い。	教室の構造・大きさ
240	部屋数が少なくてグループ学習をさせると1部屋に多数が入り騒々しい。	教室の構造・大きさ
245	本館地区における教室不足がひどい状態である。またそれだけでなく教室のスペースにも問題が多い。演習室も狭すぎる部屋が多い。	教室の構造・大きさ
249	グループでの討論をさせたいが、教室の机が固定されていてグループを作るのが難しい。可動式の机を増やして欲しい。	教室の構造・大きさ
250	学部専門講義で、他学部の受講を認めているものについては、教室の収容人数を越える場合がある。もう少し大きい教室が必要。	教室の構造・大きさ
255	・教室がせまいこと。 ・黒板が小さいと思うときがあります。（上下スライド×左右の2枚ぐらいが欲しい時があります）	教室の構造・大きさ
276	特に1号館における演習室の設備が貧弱である。ディスカッションを行うには、正方形に近い形で参加者がお互いに顔を見合せるのがもっとも効果的だが、1号館の演習室はあまりに長方形すぎる部屋や、10名から15名が居心地良く入れる部屋が少なく、ひじょうにやりづらい。もっと演習室を増やすべきである。また、本館地区で大規模授業を行うにしても、それを収容するだけの教室が絶対的に不足している。	教室の構造・大きさ
280	講義室の構造が前後に長く、後ろに座る学生には目が届きにくい。	教室の構造・大きさ
287	1号館の大教室（122、132）が使いにくい、教室の空間が前後に分かれてしまう。132は、教卓・教壇スペースと教室スペースが隔離されている。	教室の構造・大きさ

Q3 (4) 教育環境や設備などにおいて不足や必要性を感じていること		
snoID	内容	備考
264	・工学部の教室、演習室が狭い。学科再編で人数が増えているにもかかわらず、教室のサイズはそのまま。現在人数に対応していない。 ・図形科学演習室のPCをもういい加減入れ替えて欲しい。	教室の構造・大きさ PC
265	可動式机・椅子が配置されている部屋が少ない。 演習室の暖房設備が貧弱（天井エアコンによる暖房では足元が非常に寒い）。 1号館教室の視聴覚設備が貧弱（自分のノートパソコンを持ち込まなければDVDを上映できない）。	教室の構造・大きさ 空調 映像・音響
158	大講義室が狭く、後ろの方は黒板が見えづらく板書を大きくするため進行しにくい。マイクのカギは必要か？	教室の構造・大きさ その他
33	PCが数多くある教室での、冷房、空調の使用制限	空調
283	730および740教室で前期に授業をすると、空調にむらがあり、必ずといっていいほど、暑すぎる、寒すぎるといった苦情が寄せられる。細かな調整もできるようであるが、マニュアルが整備されていないので、教員側としてはいかんともしがたい。特に教壇における体感温度を適正にすると、学生にとっては寒すぎるようだ。結果として、教員は汗だくになる……。同様の事例は、階段教室などでもあるものと思われる。	空調 マニュアル整備
161	出席をとりやすくするための、電子登録機をつけてほしい。そのためにも学生1人1人にバーコードを配布してほしい。出欠、レポート、カードの管理を効率的にしたい。私語では実施済み。	その他
170	全学教育の教室（講義に、指し棒もしくはレザーポイントをおいて欲しい。	その他
194	黒板消しのクリーナーが十分に作用しない・	その他
26	実習装置	その他
119	200人を超える受講生の場合、出席の確認が大変な作業になる。毎回出席カードを配り、コンピューターで出席リストを作ってもらっているが、それを個人別にいつ出席したが、計何回出席したかまでの作業はやってもらえない。これはプログラムを組めば、簡単にできることなので、是非やってもらいたい。	その他
126	実験機材の不足など。	その他
218	学科の選択必修科目である「環境実験」を行う施設と設備がない（実験室がない）	その他
20	今の時代、講義室全部にプロジェクターは設置しておくべき。	プロジェクター関連
40	8号館で黒板が小さい。モニターに隠れて黒板の一部が見えない。	プロジェクター関連
64	8号館の大教室811-814などのスクリーンの位置が悪い、大きさがよくない。810はよいが少なくとも中間にもディスプレイが欲しい。	プロジェクター関連
125	パワーポイントを利用するための設備	プロジェクター関連
131	全学共通棟でパワーポイント（スライド）を利用する際に機器が古いせいか画質がなくてきれいに写らなかった。	プロジェクター関連

Q3 (4) 教育環境や設備などにおいて不足や必要性を感じていること		
snoID	内容	備考
149	8号館のプロジェクターを更新してほしい。	プロジェクター関連
153	学生が使用する読影端末、全科の教員に有用な機器の不足。	プロジェクター関連
155	2号館へ液晶プロジェクターを設置、各講義室へ設置し教員が直ぐに使えること。研究室から持ち込み、セットするだけで10分の時間を必要としている。	プロジェクター関連
260	OHP　or PowerPointの使用と黒板の使用を同時に行えるようにスクリーンの設定場所を工夫してほしい。	プロジェクター関連
269	AV機器を充実すべきである。教室ごとにプロジェクターの配備が必要である。	プロジェクター関連
270	200.300人収容できる大きい教室でスクリーンのサイズが小さすぎるようである。	プロジェクター関連
279	パソコンは学生も教官も用意できるものの、多端末対応のモニターやプロジェクターのアダプターがなく、各自のパソコンを持ち寄ってのディスカッションセッションができないでいる。	プロジェクター関連
227	プロジェクターやマイクの不具合がある。	プロジェクター関連 映像・音響
271	この夏休み後の教室設備入れ替えもそうですが、工事の遅延が生じたことは論外としても、スクリーンの位置が下過ぎて、プロジェクターの画面が教卓にかかる/後の席の学生が見えないなど、授業を効果的に行うための工夫が足りません。例えば劇団では、照明や音響、座席の配置などは、その道のプロが設計すると思います。そうしたプロに任せろとは言いませんが、共に教育を担う仕事をしているという意識と、その意識を持つために必要な学習の機会があればと思います。	プロジェクター関連 教室の構造・大きさ
24	プロジェクターが既にやけている。 2つの小スクリーンがならんでいる理由がわかりづらい。ブラインドがこわれやすい。コンピューターの音が流せない。	プロジェクター関連 教室の構造・大きさ 映像・音響
285	使いなれていない講義室でのプロジェクタなどの使い方がわかりにくい。せっかくの設備を有効活用するために、分かりやすいマニュアルを整備してほしい。	プロジェクター関連 マニュアル設備
②学生たちが集まる場		
139	学生の学習の場が少ない。談話室やTAが常駐した部屋があると良い。特にPCからのプリントアウトしたい学生（レポートなど）に便宜をはかってほしい。	
166	学生さんのためのロッカーがあった方がよい。	
267	学生たちが集まる部屋がない。	
267	学科や教室にわかれている学部では、教員の研究室以外に、学部生の先輩・後輩や大学院生が集まる部屋があるため、大学院生や先輩が後輩に教えたり、また、勉強をしている姿を見せる、ということができるが、このような部屋がないために、学生は各学年のゼミ毎に授業時間に来ては終わると帰る、という形になっている。	

Q3 (4) 教育環境や設備などにおいて不足や必要性を感じていること		
snoID	内容	備考
283	法曹養成専攻の学生にとっては、できれば、自習室以外に「談話室」のような形で相互に授業の感想や議論ができる「場」を提供することが望ましいが（他大学のロースクールでは整備されているところがほとんど）、本学では、必要最低限の設備しかないため不足感を感じる。	
267	本学部では、ゼミ毎に教員が工夫しないと縦（先輩・後輩）のつがなりが保ちにくい。	
③カリキュラム		
72	必要な講義数が、阪大などに比べて非常に少ない。（他の講義が助長的に多いので、勉学の機会の公平性が守られていない）	
95	将来医者になるための人格形成およびヒューマニティが一番大事である。 以上のことは、過保護カリキュラムでは得られない。	
128	総合教育科目、専門科目の開講コマ数の減少により、学生が関心のある科目を履修できない。	
261	基礎教育科目や語学教育などが独立に行われており、大学全体としてどのような人材を育てていくのか、その目的を達成するためにどのような講義を行うのかが明確でない。	
274	商経法の専門講義が該当すると思われるが、受講学生数が300～400と多く、小テストやレポートを課して授業の理解度を確かめようとしても、その実施が困難な場合が多い。必要単位数を大幅に減らし、その代わり、授業の密度を高める工夫がなされるべきと考える。これは、学部内では昔から議論してきたことであるが、なかなか実現に至っていない。	
④事務方への要望		
179	機器類に不具合が生じることが多く、その都度授業が大幅に中断される。その際のスタッフの方々の対応にあまり満足できることがなかった。	
179	90分の授業を効率よく有意義なものにできるよう、教員と職員の方々と協働できるようになればと思う。	
271	大学事務スタッフのFDをして頂きたいと思います。	
⑤教員間の連携		
195	欠席や遅刻に甘い教員がいるため、学生にきびしくいえない。	
200	総合大学の理点を生かした協力体制	
271	職員のみなさんも一緒に教育や研究の環境をどのように整えるかという話し合いの機会を設けて頂くのも良いかと思います。	
⑥授業運営		

Q3 (4) 教育環境や設備などにおいて不足や必要性を感じていること		
snoID	内容	備考
87	授業に出ている生徒数が日によってちがう。	
121	全学の講義は生徒の数が多すぎ、7～8割の生徒は“義務”で出席しており、授業に集中しとらず、真剣に授業を聞いている生徒に多大な迷惑をかけている。	
122	軽音楽部の音がうるさい。	
174	全体として学生を育てるという雰囲気の欠如。	
176	文学部一回生だけの講義形式の必修科目、大人数のため目配りがきかない。	
230	特に大学院に入学してくる学生たちは、科学への興味を持っていることを最低限課したい。	
246	1クラスあたりの受講規模について：各授業の目的・方法に見合った受講者上限を教員が指定できるようになるとよい	
246	いわゆる学生参画型(私の場合は、ゲーミング・シミュレーションやロールプレイ等)の講義を学生を十分にインボルブしながら進めるには、1クラス80人が適切だと思います。160人のクラスを1つ持つよりも、80人のクラスを2つにした方がむしろ授業の質を担保できると感じています。授業の質が担保できるのなら、担当科目数が多少増えてもいいと個人的には思っています。	
246	現在、全学共通科目においては、教室の収容人数の1．1倍まで受講生を受け入れるというのが了解事項になっていますが、授業の目標や方法にあわせて2クラスに分けてでも1クラスあたりの受講数をおさえて授業の質を担保したいと思う教員はそうしてもよい(必要ないと教員が判断するならしなくていい)ということにしてもいいのではないかと考えます。	
⑦教員・TA・事務などの増員		
19	人員削減や非常勤削減などにより、少数の教員で広い領域を講義せざるを得なくなっており、本当の意味での各専門家による講義を提供できていない。	
27	秘書的業務をしてくれるスタッフがいれば助かる。	
36	TAのより一層の充実	
42	多くのTAを投入し、きめ細やかな復習のできる体制が理想ではないだろうか。また予習、復習を前提とした講義が普通になるようにできないだろうか。	
56	教員数不足（診察業務過多）	
63	商法の人員の補充	
101	特にないが、病院の雑務、診療に時間を取られ、教育に取る時間が限られている。時間が欲しい。	
137	人材不足、教員、事務員の能力不足	事務方への要望
153	診療が忙しく、BSL中も中断することが多い。教員数を増やしてほしい。	

Q3 (4) 教育環境や設備などにおいて不足や必要性を感じていること		
snoID	内容	備考
159	少人数の割には、データ処理などの授業で大人数になったり、サポートするTAの予算が不足しているなど、丁寧な指導が行いにくい。	予算
219	60名をこえる授業でのレポート採点をサポートするTA	
244	TAコマの不足	
265	専門分野における専任教員や非常勤講師の不足（充実したカリキュラムを組めない）。 TAの人数および力量の不足。	
⑧予算		
244	実習費用の不足	
261	実験をする講義では、設備の更新に多大な予算が必要である。特に、専門教育科目の実験予算は各学部の予算でまかなわれるため、かなり古い機器を使用して行われている。機器を更新できないことが、教育内容の改善を困難にしている。	
⑨大学全体・システムの問題		
61	外来に学生を教育する部屋がない。	
71	診察が忙しい。会議が多い。	
80	マークシート方式の試験結果は個別の成績だけではなく、問題ごとの識別係数や得点分析等の集計、統計が欲しい。	
94	教員の教育活動に対する評価がきちんとされいない点。	
116	高原記念館のように、オープンなホールが複数あれば。	
147	教員組織が学校基本法（教授、准教授、助教、助手）に沿ってない。学生にとって最も影響が大きい実習で、学生に最も接する事の多い実習指導を、非常勤教員/職員（特任講師、実習サポート、短時間勤務職員など）が任っている。さらにその配置さえ、領域による偏りが大きく、教員と講師しか配置されていない領域が複数ある。これは教員の質に関する問題と考える。	
178	設備は良くなりつつあるが、管理体制があいまい。学部持ち回りとは・・・。	
199	クラスごとにメールでファイルを一斉送信したり、クラスごとに閲覧できるファイルバンクのようなものがあれば便利。	
200	国内外の留学サポート（都会の出身者が多く、生涯大阪で暮らす人も多いので、広い視野を持ってもらう）	
201	国際的に開かれているとは言いがたい。	
210	授業登録や成績処理などでの事務処理の環境の悪さ、もっと電算化の徹底をしてほしい。	
238	梅田サテライトの図書を授業準備のためなど一時的ではあっても教員がかりることができないこと。	
243	医学部図書館の充実、電子ジャーナルの充実。	

Q3 (4) 教育環境や設備などにおいて不足や必要性を感じていること		
snoID	内容	備考
その他		
14	とくになし。	
75	機器類が故障した際の学務の対応が早く、特に不足と感じる点はなし。	
86	感じたことはない。	
172	特にありません。	
181	あるものでとりくむべき。	
217	特になし	
228	特になし	

Q05 (1)(2) 大阪市立大学における学習支援・学生支援について	
snoID	内容
①不十分事例：教員個人の負担	
87	個別対応にまかされている。
101	対処は事情によると思われるが、今は個人的に気付いた教員が支援しているように思う。（今後についてはアイデアなし）
147	教員組織が十分でなく、教員が忙しすぎて、大変事務的に対応していることが多いと感じる。教員にもう少し余裕を持てる様な配置をしないと、真に文化的、学術的教育環境は生まれないように思います。完全に悪環境だと思います。すみません。
149	担当者がおらず、教員では手が回らない。
163	教員個人の対応には限界がある。
168	個別での対応に終始し、連携してない、できていない。所詮その場にいる人、対応に難儀している人で解決しているように思う。
211	依然として個別対応の状況にある。支援や体制についての情報もほとんど伝えられていないように思われる。
231	正直個人でそこまで責任は持てない。
258	ドロップアウトになりそうな、そしてその先として登校拒否、さらに「うつ」になりそうな学生に対しては、理学部では担任制を取っているが限界がある。とはいえ具体的な支援はというと困ってしまいます。
283	まず、基本的なスタンスとしては、大学生であり、自主性を重んじるべきであり、「手取り足取り」にならない方がよいと思っている。 とはいうものの、何らかの助けを求めてきた場合には、必要な体制を整えておくべきである。個人的な意見としては、組織的な取組というよりは、（キャラクターもあるので）教員個々人の負担に頼らざるを得ないように思う。 そこで、現在、最も問題なのは、教員数の削減により、教員一人一人にかかる様々な（教育・行政等）負担が増えてきていることである。教員側に余裕がないと、学生側のシグナルに気づけないことが多い。まずは、教員数を増やすことが一番のFDだと思う。 組織的な取組としてあり得るのは、上回生の活用であろう。例えば、基礎演習のゼミに１人～２人の上回生が加わることにより、教員には相談できないことも相談しやすいように思われる。できれば、ボランティアではなく、薄謝がでればよい。現在のTA制度は、人的にも経済的にも全く余裕がない。
284	対処が必要な学生がいても，個別に対応する時間を確保できない.
287	個別の対応にゆだねられることが多い。
②不十分事例：問題の認識ができていない	
2	学習意欲を持てない学生の把握が不十分
23	全学的又は部局としての対応を理解していないので答えられない。
77	「組織としての・・体制」について個人的に状況をよく知らない。
110	十分把握できているか疑問。
126	問題のある学生が正確に把握されていない気がする。

Q05 (1)(2) 大阪市立大学における学習支援・学生支援について	
snoID	内容
175	具体的に何が必要であったり（対応として）、何が重要であるかも明確ではありません。気にかかる子は見られますが、教員として全然対応できていないのが実態です。
190	何をしているのか知らないが十分とは思えない。
220	該当学生への把握自体が十分ではないと思うから。
223	当該学生の有無を調査していない。
240	学生の把握時期が遅い。
246	できているところもあるし、現にやっていることもあるでしょう。しかし、それが十分かどうかは私にはわからないので、明確にお答えできません。
248	それぞれの事情があるので、支援まで行うことは困難だと思うが、把握すらされていないのは問題があると思う。
249	そういう学生がいるのかを組織として把握しているように思えない。
261	問題となる学生個人が相談に来るのを待っている能動的な対処の仕方。学生の出席状況や単位取得状況を把握し、問題の早期発見に努めるべきである。そのうえで学生個人に（必要なら保護者同伴で）面接して、問題の解決法を探索すべきと考える。また、学生個人と会うのが困難な場合、保護者の協力を要請すべき。いずれにせよ、教員個人ではなく組織としてより積極的に問題解決に取り組むべき。
267	現実に、「学習意欲を喪失した」という理由で授業に出席せず、退学等する学生が存在するので、「十分である」という話にはならない。 ただし、部局として十分な支援を行うために、努力はしている。
③不十分事例：授業運営に関わること	
28	There id no penalty for absence, failing classes,etc.
42	みずから考え、みずから学ぶという体制が必要である。私は空手道も担当しているが、出席しない人には対応のしようがない。
81	ポリクリ（実習）への参加をうながしていない。
279	所属する学部によって、授業態度に差があるときがある。私語の量など。 出席していることで資格をみとめる「出席点」の悪弊を取り払う。必ず、授業中の提出課題や、期末の試験なりペーパーなりで評価を下すこと。「平常点」は半ば救済策としてのみ用い、成績評価において重視しない。
④不十分事例：システムの不備	
9	相談窓口がない
17	全学的支援というのは無理で、所属学科ごとの支援しかないと思う。担任制度を設けて、相談にのっている。それで十分か、十分でないかは判らない。
51	問題点についての共通理解を作ることができていない。

Q05 (1)(2) 大阪市立大学における学習支援・学生支援について	
snoID	内容
61	設置の部分
72	相談後どうなったか不明。
76	各部局では対応困難。
92	特に「何らかの」の部分で、精神的にという学生をよく見るようになりましたが、何らかの支援がある様には思えません。カウンセリングルームがあったって、その情報は教員には秘匿されています。
101	特にそういうシステムはない様に思う。
128	「補習」体制が確立していないが、それが必要かどうかは別問題と思う。
133	文学部の場合とくに、専修コースが決まるまでの１年間に大学に来なくなってしまう学生に、責任をもって相談体制をとることが十分にできないように思われる。
134	詳細は分かりませんが留学生が多い点
142	制度化されていない。責任者不在。
188	支援体制がつくられていない。
199	何年にもわたって再履修のクラスを登録する学生を見ていると、生活そのものに問題があるようなので、カウンセリングなどが必要なのかもしれません。
205	そもそも体制がない。
227	せっかくのチューター制度が機能していない。
238	社会人学生の中にも「生きづらさ」「居場所」を求めた学生が少しづつ散見されるようになった。また発達障害を持つ方も入学される。学部生とはちがうかもしれないが、相談などは必要では。
239	各教員に委ねられており、一貫に継続的指導が不十分だと考えています。
249	相談窓口があるのかどうかの教員へのアナウンスがない（知らない）
275	支援を必要とする学生のタイプによるとは思う。どうしても大学では対応のしようがない学生がいる一方で、部局ごとの支援で対応できる学生もいる。問題は両者の間にいる学生（部局レベルの対応では支援できないが、なんらかの専門家の配置等で対応できる学生）である。例えば留学生で日本の環境に馴染めていない学生への支援や、経済的事情で学業を続けることが困難になっている学生への支援などがあると考えられる。また、必要に応じて転学部転学科ができる体制も必要で、そのためには各学部のみの対応では限界があるのではないか。
286	全学や部局で、方針が確立されていない。 問題の共有と具体的な方針の確立が必要。
⑤不十分事例：支援人員の不足	
159	TA予算が少ない。

Q05 (1)(2) 大阪市立大学における学習支援・学生支援について	
snoID	内容
188	また人員削減によって、それに割く時間を多くの教員がとることができない。
⑥不十分事例：学力関連	
19	入学試験は厳しいが一度入学すればほぼ全員を卒業させようとする日本式運営を考えて、「十分でない」を選んだ。しかし本来は意欲のない者は脱落させて他校からの編入学を受け入れる方が良いのかもしれない。したがって、どのような支援をすべきかはあえて意見しない。
36	単位を落とした学生への再教育ケアが充分ではない。
71	不合格にするだけでフォローがない。
86	以前、商業高校からの入学者の基礎学力不足が問題となったことがあるが、特段の対応措置は行われなかったようだ。
174	入学したときからの勉強意欲を高めるための工夫、モチベーションの提供という意識がない。落ちこぼれた学生の事後的対応では意味がない。
193	学習意欲を持てない学生に対して、全学や部局が具体的にどのような支援をしているのか知らない。
216	入学した時点で、学力に大きな差がある場合、同一の講義内容では対応できないことがある。初年次教育でその差を小さくすることはできないか？
270	高校で学習してこなかった教科については、高校レベルの授業開講が必要であると思われる。
285	どうすれば良いかについて助言は欲しい。成績の厳格性は絶対保つべきなのか、事情を鑑み、不公平さを恐れず特別の配慮をすることがどこまで許されるのか、あるいはするべきなのか、そうでないのか。
⑦不十分事例：支援体制の周知	
104	体裁そのものをよく知らない。
161	全学的にどういった対応をしているのか知らない。学生に周知しているようにも思えない。
163	そもそも全学、部局としてどんな体制があるのか知らない。対応の相談先（教員からの）があるのでしょうか？
180	「十分でない」というよりは、「分からない」。教員になって1年目のため、どのような支援や体制があるのか十分に理解していない。
199	どんな支援体制があるのか把握していないので「十分でない」と回答しました。
206	支援体制などが私達に知らされてことはほとんどありません。
229	私が大学組織としてどのような取り組みを行っているか把握できていない。
233	現時点では教務担当の教員が対応にあたっているが、全学の科目の履修状況については把握が難しい場合があり、情報の共有および担当の所在を明確にすることが重要。
264	補習クラスがあると聞いてはいるが、実際にあるのかどうか、よく知らない。

Q05 (1)(2) 大阪市立大学における学習支援・学生支援について	
snoID	内容
⑧不十分事例：その他	
27	サポートセンター開設により現場力は低下している。
48	よくわからない。発達障害と言うことでしょうか？単にサボっている学生のことでしょうか？
187	よくわかりません。
234	特定の学生を支援すると考えた時、その学生の所属する学部のどの型と連絡をとるべきか分かりにくい。
245	教員の意識に差がありすぎる。教育に関心の低い教員をどう扱うべきか？
271	基本的に、本人の自覚にまかせている所があります。自己責任、自己管理との兼ね合いで難しいと思いますが、一度大学で授業を受けるという習慣を喪失してしまうと、自力で復帰するのは非常に難しいと思います。 具体的な支援として、あまり良いアイデアが思いつきませんので、他大学の状況や工夫などを参考にしてみてはいかがでしょうか？
272	まず、何らかの事情というのがよくわかりませんが、将来的に自分の役にたつかどうか分からないという単位には学習意欲を持たないらしいです。教員としては、それは学生にとって非常にもったいない話です。
274	メンタル面でのトラブルを抱えた学生への対処方法について、専門的なアドバイスを受けたいと思うが、そういう機会が少ない。FD研修会での、発達心理学などの専門家の話を聞きたいと思っている。
276	大規模授業の場合、個々の学生に対して教員の目配せがなかなか及ばない。特に実体法の場合、ロースクールを担当している教員も多いため、なかなか学部生にまで配慮が及ばない。また、TAなども設置しているが、学生たちがそれを十分に活用しきれていない。
⑨必要な支援：教員個人の負担軽減	
26	個々人への個々対応、自宅への連絡
34	全学的組織で学生支援するよりも、教員のバックアップ体制が重要と考える。
95	人間個人としての付き合いが大切。定期的に食事会や（あるいは飲み会もいいかも）を通じて、教員とコミュニケーションを計ることが大事である。
97	該当する学生に対する他の教員の意見を聞くなど複数の教員による対応。
117	個人支援が不可欠。
158	学生サポートセンターの職員さんは、とてもたよりになる。学生は職員を信用している所があるようだ。一部、教員に対応してほしい（対応が必要な）学生がいるが、教員は多忙であるため、そこまで対応できない。組織の中で、教員の学生支援業務についても負担を考えるべき。
197	基本的に教員人が抱え込む対応が一般的なことが問題。
202	見出したら、その上で対応は個別に（個人差はあるが）可能。
250	個々の教員への負担が大きすぎるので支援センターの中に位置づけられたい。

Q05 (1)(2) 大阪市立大学における学習支援・学生支援について	
snoID	内容
⑩必要な支援：問題の発見	
35	何らかの事例と言っている時点で、十分でないと思う。本当に対応が必要な学生がいたならば、もっと突っ込んだ対応が必要。
45	早期に発見し、早期に対応することで、留年を予防する必要がある。
202	そのような学生を先ず見出すことが必要。
211	まずは、状況把握（情報収集）し、その問題点を抽出した上で、その対応を検討すべき。（是非、センターでお願いしたい）
⑪必要な支援：システムの改善	
12	メンタルケアが必要な学生への対処が十分に思えない
41	メンタルカウンセリングをもっと普及し、学生にとって受けやすい状況を作る。
44	単にカンバレと言うようなものでなく、進路変更をアドバイスできるカウンセリング。
80	学力は無くてもなんとかなるが、意欲がないのは部局では対応困難、カウンセリングの増強が望まれる。
92	個人情報と言わず、この学生は精神的に問題あるという、情報を共有し、就学不可ないし、（≒退学も含め）窓口を作る。
97	カウンセリング、診断から日常生活や学習などでの協力、対応の改善、連携などを支援する組織。
100	「十分でない」と判断するのは大学側であり、それをきちんと学生に伝えるシステムが必要。
118	現実に救えなかった学生がいる。教員が、やる気のない学生のやる気を喚起するのには限界があると思う。無理やりにでもカウンセリングを受けさせるなどの措置が必要ではないかと思うことがある。
139	カウンセリング。
155	全学、部局レベルでは十分ではない。学生支援より相談体制をしっかりしたものとし、進路変更、退学などの選択を含めて考えるべきだ。
178	メンタルサポート
197	また、活用する仕組みが構築されていない。従って、これらの点について、まず手をつけることから始めるべき。
200	相談に来れる場所を作る。
225	成績不審者へのカウンセリング。
249	まずは実態把握をし、個別に相談できる体制を用意して欲しい。
287	組織としての対応が必要。
⑫必要な支援：支援人員の補充	
97	学生間でも学生ー教員でもよいので横方向へのつながりを支援する施設や取り組み。

Q05 (1)(2) 大阪市立大学における学習支援・学生支援について	
snoID	内容
200	専門教員の配置。
217	専門家（教務のエキスパートが必要）
265	事務室における職員の対応のレベルが、人員不足と経験不足により、著しく低下している。各部局の正規職員をせめて倍程度に増やすべき
⑬必要な支援：学力サポート	
20	そういう学生が学習意欲を取りもどし、学力的について行けるようになっていれば十分だと思うが、そうなっていないので十分でない。
139	特に能力的に勉学についていけない学生には、別大学を紹介する等のシステムがあっても良い。
141	単に「再履修クラス」を設けるだけでなく、より細かなサポートを施すべき。
194	工学部で数学ⅢCの知識を持たない学生と一般学生との差が激しすぎる。入学前の補講など実施してもいいのではないか。
231	成績が低空飛行を続ける学生はGPA等で評価すべき。
259	高校で習うはずの基礎的事項を理解していない学生に対して、高校の授業程度の補講等の支援。
262	塾講師による国試用補講などの支援。
263	授業内容が理解できずにいる場合、教員に質問できる学生であればその場で対応できる。 しかし、教員に話しかけることが出来ない学生もいると思われる。その場合は、数年間の成績評価を行うまで発覚しないこともおおい。これは成績データベースがあれば機械的に発見できる種類のものだから、教務から教員にフィードバックをかけてほしい。
⑭必要な支援：支援体制の周知	
28	I asked for advice from colleagues.
52	そのような学生に対して、保護者とのコミュニケーションを取る仕組みを作る必要がある。
116	サポート情報の充実
197	学内には意外に支援のためのリソースがある（あるいはその可能性が高い）にも関わらず、その情報が全学で共有されていない。
287	その第一歩は情報共有の場の確保。
その他	
18	特に必要ない。個人個人で対応することが重要。
62	教務委員や学年担当（教員）が対応している。
64	そこまでする必要があるのか？個人的に対応すればよいと思う。

Q05 (1)(2) 大阪市立大学における学習支援・学生支援について	
snoID	**内容**
121	各々の面接などが十分に行われている。
121	チューター性が十分に活用できている。
195	義務教育ではないのだからする必要がないと思う。
203	個々の事情を「何らか」と括ってしまうあたりで認識が甘い。(1)のような質問は答えにくい。
281	必修科目をある年度で落としても，次年度に履修できるように，高学年時間割にて同曜日同時限にも必修科目が極力割り振られないようにする等のかなり面倒で困難な工夫が，既になされており，組織としての支援は十分ではないかと思います． 教育をサービス業の一種であるととらえると，レベルの低いお客にあまりにも注力し過ぎると，そのサービス業の品質（即ち大学の品質）もまた，落ちていくことになるかと思います．「学習意欲を持てない学生，学力的についてこれない学生」に対するサポートは，有る低度で打ち切らねばならないと思います．（「有る低度」をどこまでにするかは議論しなければなりませんが）

Q05 (3) 障がいを抱えた学生への対処	
snoID	内容
①対処例：該当機関・専門家への相談	
51	専門機関の紹介
74	精神科医の医師に診てもらう。又は紹介する。
211	家族や高校へのヒアリングと専門家への相談
283	学生間のトラブルであったため、また、卒業間近であったため、ハラスメント委員会に申請だけ行って、結果的には両学生とも卒業となった。
②対処例：部局・全学での対応	
1	科学の基礎学生実習で車いす学生を受け入れた安全担保の観点からさまざまなことにとりくんだ。当時は大学に窓口がなく、各部局の連携対応も不十分であったと言わざるをえない。
41	実験設備を新しく整えた。
51	援助機材の準備、設置
92	車いすの学生は、教員で共通の認識をもち、設備の改善を行った。
163	学科全体に周知し、マイクをつける。
183	車いすで受講できる可動式机の用意。
195	学部、教室で対応した。
197	事前に所属学部より連絡があり、対処法について指示があった。
206	特別な準備は不要でした。大学側が準備していた体制で充分でした。私は直接声をかけただけです。
212	理学部の対処で聴力補助具を用いた。
216	実験科目における設備が不十分だったため、様々な設備の導入が必要であった。
229	スポーツ実習の受講が困難な学生向けの授業を開講している。
235	車椅子利用の学生に対して、エレベーターの設置と教室最前列に個別の机を用意した。
245	教室の改善（机やいすなど）
249	車椅子の学生への対応。特別な誘導をした。バリアフリー化。
261	障がいのある（車椅子を使用）学生を実験をする講義で受け入れた。実験は危険をともなうため、実験台の整備、実験内容の再考、避難経路の確認などを行った。特に、実験台の整備、実験室のバリヤフリー化、避難経路の確保は予算支援がないと行えない。
267	学部として組織的な対応をしていたので、特に個人的な対応はしなかった。試験等も学部として配慮したので、それに従った。
272	実験室の整備、支援体制の調整

Q05 (3) 障がいを抱えた学生への対処	
snoID	内容
274	学部・研究科として取り組みの体制ができているため、その流れで授業を行ったので、とくに不都合はなかった。
③対処例：教員個人による対応	
30	聴覚障がいの学生。本人と話し、特に支障のある時は連絡するように言った。
32	平常点を重視する授業であったので、レポートで対応した。
48	机の配置、あとで内容の理解の確認。
51	対話上の配慮
62	講義等で、話す際は下を向いたりあるいは黒板に向かってしゃべることのないよう、教員間で申し合わせ、実行した。その学生は読唇術を会得しており、授業について行くことができたし、どの科目も優秀な成績をおさめた。
92	視覚に関しては、色覚異常、弱視、程度だったので、見えますかと尋ねる程度
119	個別に対応した。
133	一度は聴覚障害のある学生をもち、マイクを使用した上でゆっくりはっきり話すよう心がけた。他は車椅子使用であることの他は何も支障がなく、むしろ学習意欲の高い学生であったので、とくに準備はしていない。多少、エレベーターなどの経路を教えたりする程度で、同じクラスの受講生も自然にサポートしてくれたので、かえって教員が対応するよりも良い雰囲気になった。
138	親との話し合い
147	講義では難しく、個別相談（ブリーフコメント）に乗っている。しかし、実習では受け持ち患児（や家族）はあまり難しくない対象を選択してマッチングしている。また個別に相談に乗るように配慮している。
149	プリント配布
150	課題などの連絡、指示をかなり具体的かつ直接的に説明した。
156	配布資料、テストの文字を大きくした。
158	別テスト、個別指導（相談、状況の確認）。福祉科の教員であったため、障害に関する知識や経験があったが、授業がある程度進むまで、存在に気がつかなかったため対応が十分できなかった。
163	正面を見て話すなどの対応をおこなった。
172	学生が発表する時、話し終えるまで、教員は忍耐づよく待つ必要があった。
176	試験方法の変更
177	受講放棄しないように、時々話しかけるようにし、単位を得るための最低基準、効果的な勉強方法について話した。
178	ノートとりやすさへの配慮。
192	講義の声を聞きとれるか確認しながら行った。黒板の多様、要点を整理した資料の配布。

Q05 (3) 障がいを抱えた学生への対処	
snoID	内容
194	板書は細かい所まで行う（口頭で済ませない）
220	板書を詳しく行うことにした。
230	全ての要求に応じた。
236	本人に何をして欲しいか聞き、可能なことは行った。
246	「そうかもしれないと思われる行動パターン・認知パターンを持っているらしい」学生がいた、という前提で回答します。 自分なりにいろいろと勉強して、素人でもできることをやれるだけやっています。言い換えると、「素人には難しい・できない」ことはしないというスタンスです。こちらも一人間ですので、どうしても受容できない・受容しきれないことはあります。そういう場合は、できないことをやろうとするのではなく、「受容できない状態の自分がいる」ことを認識したうえで、できることをやっています。つまり、「教員なのだから何かしてあげなくては！」ではなく、「学生が具体的に困っているなら、できることをできるだけ、一緒にやっていこう」という姿勢を心がけています。 実際問題として、行動パターン・認知パターンが気になる学生はそれなりの数います。50～80人あたり1人程度でしょうか。
250	その人の必要に応じての準備
255	病気で出席できなかった分の補講を実施しました。 保護者面談を行いました。
258	指示された対応（特別マイクの使用）はしましたが、それ以外にはありません。
260	座席の位置を配慮した。マイクの使用を控えた。
263	その結果、私はその精神疾患に関する情報を自前で調べ、個別実験テーマについて起きうる危険の可能性を検討したうえで授業を行いました。
269	個人としては，一般学生に比べて少しだけ，それとなく当該学生の理解度に注意を払った。
270	聴覚障害の方であったため、話すときはその方へ向かって話し、唇の動きがわかるように配慮した。
275	聴覚障碍の学生が受講した時。本人は手話は使えず、読唇でコミュニケーションをとっている学生だった。他の学生には渡さない授業の資料（パワーポイント＋ノート）を必要に応じて渡した。本人から「何をしてほしいか」を明確に伝えてくる学生だったので、教員側が特に困ることはなかった。
275	発達障碍のある学生が受講したことが何度かある。いずれも診断をうけており、自らコミュニケーションペーパー等に書いてきた学生である。講義と演習の場合があり、講義については特に何もしていないが、授業進行の細かな変更については、くどいくらいに説明をした。演習は予定外の出来事が起こりやすいので、予定以外のことが生じそうになるとあらかじめ「もし時間が足りなくなったら〇〇にします」などと早め早めに説明することを心がけた。本人が発表をするときに、他の学生と比べるとあまり良いプレゼンではなかったのだが、質疑の途中で蕁麻疹がでてきたりしていたようだった（この学生は発達障害と精神障害の重複）ので、その場ではあまり深くコメントせずに終了し、後日文書で、論理の飛躍等の改善してほしい点を指摘した。
280	教室の座る場所等を工夫した程度。
283	もっとも、その過程で、保護者と面談するなど、個別の対応に追われた。
287	受講上、不都合が生じていないかのモニタリングを意識的に行った。あとは通常の学生の場合と同じように、個別の課題に応じた対応を行った。
289	とくには行っていないが、そのような学生が話しかけてきたり、何かに迷ったりしていたら、可能な限りゆっくり聞いてあげるようにしている。

Q05 (3) 障がいを抱えた学生への対処	
snoID	内容
④対処例：教員以外の人員による対応	
10	3の事例の場合、学生のサポートをつけ、十分に授業についていけるようにした。その際、一部の学生に負担が大きくなってしまったため、組織的な支援体制が必要だと思われます。
14	実験等で個人のTAをつけた。
19	保護者の理解と保護者による愛情のある介護が最重要と感じた。
39	ボランティアで学生がノートテイカーになってくれたので特に問題はなかった。
175	ノートテイカーや情報収集などを手伝う学生を募集してきました。しかし現実には2部の方や留学生が多かったです。日本人の第1部の子たちは、やはり忙しく（意識もあるかもしれないが）、現実には手伝ってくれるケースが少ない。今後サポートしてくれる人たちが急減することを心配しています。
178	本人及びサポート学生の位置取り
183	ノートテイカーを用意。
217	TA配置、教員配置
220	ノート・テーカーが授業についていた。
223	ノートテイカーなどのつきそい。
231	実験上の処置（サポート教員、器具の工夫他）
259	特になし（当該学生に常に補助者がついていた）
286	重度の障害を持つ学部受講生を担当したことがあったが、担当部局と学生ボランティアの支援があって、特に私の方で準備することはなかった。
⑤対処例：教員間での情報共有	
92	発達障がいや精神障がいは、教員間で「ちちょっとおかしいよね」と情報交換するしかなく、（届出てくれれば別ですが）対応しようがなかった。
264	教員間で情報の共有はした。
269	組織的な支援体制ならびに障害内容の基本情報の共有が行なわれた。
⑥対処例：対処せず・その他	
2	準備や対処はなし。
18	車イス学生の講義があるが設備が整っているので特に問題なし。
34	特別な準備は行っていない。
35	そういう学生が居るなは知っているが、そもそも授業に来ない。

Q05 (3) 障がいを抱えた学生への対処	
snoID	内容
36	車椅子の学生だったが、既に教室の最前列の机が車椅子対応だったので、特別な対処は行っていない。
72	なし。現在境界型パーソナリティ障害は、大学のでは見つけることができない。改善方法は仮説であり、違法性もあって対応は非常に困難。
128	特に対処はしていないが、大きな問題はなかった。
131	行わなかった。
185	精神障害の方は、国家試験の段階でドロップアウトされるようです。合格しても医師として問題な人が多いようです。
249	4、5について高機能自閉症の学生がいるが、それが4か5かすらわからない。
276	特に必要なし。
288	特に問題は生じなかった。
⑦必要となる支援：該当機関・専門家	
203	発達障がいの知識、本人の自覚と改善を求めたときにアドバイスできる人材、障がいをもっていない学生の「普通」感覚の異化。
264	専門の組織、スタッフがいてくれればありがたいとは思う。
⑧必要となる支援：部局・全学的対応	
2	部局での試験時の対処は有。（席を離す等）
97	組織的な支援体制、教員・学生の障がいに対する充分な知識などが必要です。
98	学部全体での支援が必要
158	学校が把握している学生については、始めに通知してほしい。
211	工学部では下肢障がいの学生が入学し、施設改善、実験のサポートなどが早急に必要。
249	まずそういう学生がいるのかに対する組織的な把握システムから作るべきだと考える。
263	基礎教育科目の実験科目において、先天性精神疾患のある学生を指導しました。まず、当該学科に補助員等の支援を要請しましたがいっさい拒否されました。
263	我々は医師ではないし精神疾患の専門家でもないが、実験科目の教員であるから受講者への危機管理・危険回避の義務がある。これはジレンマである。大学は、精神疾患があることを認めたうえで入学を許可した訳だから、サポートする義務があるはずで、素人に任せるのは責任放棄である。最低でも、学内外の事例を把握し、事前伊担当教員に示すくらいの努力はするべきである。必要であれば私の情報も提供する。また、このような対処を行ったことは業績として残すべきである。
⑨必要となる支援：支援策・対応のための知識	

Q05 (3) 障がいを抱えた学生への対処	
snoID	内容
97	組織的な支援体制、教員・学生の障がいに対する充分な知識などが必要です。
158	また必要知識については必要。
211	教員の対処法に対する支援（相談）が必要
249	それらの知識のアドバイスや対処法に対する講義など。
264	最近のFDでもよく採り上げられていてありがたいと思っているが、実際にどのような支援、対応が必要なのかは正直よくわからない。
⑩必要となる支援：教員・教員以外の人員による対応	
52	教師と学生のコミュニケーションを多くする。
261	さらには、人的支援も必要である。
⑪必要となる支援：情報共有	
100	同一教室内の教員相互による情報共有と共同による見守り。
261	また、事前に困難のある学生の受講の可能性を講義担当者に連絡することも重要である。設備改修が必要な場合、時間が無いと対処できない。優先的に実験に関する設備を困難を抱えた学生の観点から見直すことが必要である。
283	個人情報保護の観点から、一部の関係者しかトラブルの詳細を把握していないため、教員側の負担が大きいことが、他の教員には分からず、精神的に少し参りそうになった時期があった。学生のサポートだけでなく、それを支える教員のサポートも必要であると思われる。
289	困難を抱えている学生への有効な支援のあり方に関する指示など（これはその困難に関する医学的診断名などを含む必要は無い）が、全学共通教育科目も含めた科目担当教員の間で共有できると対応がし易いのではないか。

Q6 (2) FD活動・FD支援		
snoID	内容	備考
①教員自身のFD		
23	充分な全学FD活動を大教センターはリードしていると思う。あとはそれを活用する教員の意識次第だと思う。	
34	実務家教員のFD活動が急務である。重要性を認識させるところから始めなければならない。	
77	特にこれをというものはありません。今後も様々な観点から行われる行事に注意して、参加すべきと思われたものには、積極的に参加していきたい。	
200	自分の分野では、全国的にFDの勉強会がさかんなので、それらにこれからも教員が参加できる環境をつくること。	
218	何事においても全力投球ではなく、教育プロセスにおける選択と集中、効果的な「ゆとり」の持ち方など。	
277	結局、教員は自分の受けた授業という範疇から脱却できていない人が多いので、数十年前の授業が繰り返している人が多いように思います。私自身もできるだけ工夫をしているつもりですが、大胆な発想（これが良いかどうかは別にして）に行きつかないもどかしさを感じています。大学院では、院生と一対一なのでまさに体当たり的にいろいろ工夫の仕様はありますが。	
②FDアンケートの運用		
30	授業の途中で授業アンケートを取ること。	
261	すべての講義で、講義アンケートを実施して担当教員に結果報告する。受講生の意見、感想を知ることは講義改善に重要である。受講生が一定の数以上ある講義に関しては、学生の満足度が高いを公表するなどして、充実した講義を行っている教員を公開する。	
263	学生への「授業別　到達度／満足度調査」のようなアンケートの取り扱いには十分注意していただきたい。例えば、学生がある授業について「理解できなかった」「授業の意味がない」などの評価を行った場合で、それが市長を含む大学外部に漏れた場合、当該教員の評価に重大な影響を及ぼす懸念がある。 理学の概念は数百年にわたり普遍的であることが重要であり、授業内容も変わるべきでないことがある。学生の多種多様なニーズに迎合していては学問大系が成り立たない部分が少なくないのである。教え方、伝え方の問題であれば改善できるので、それを把握するという意味でのアンケートなら理解できる。しかし、数値や文書は部分的に一人歩きする可能性があり、大学を評価しようとしている人々にとっては格好のデータとなりうる。 例えば、物理学／数学のなかの諸問題は、3ヶ月の勉強程度では理解できなくてもしょうがない問題がいくつかある。私にも経験がある。しかし、それは1.2年後に現れるより専門的／発展的な学問への下積みであり、卒業が近くなって「あー。あの先生のあの問題は、そういう意味だったんだ」と気づかされる問題が少なからず存在するのである。野球やテニスの素振や柔道家が受け身ばかりやらされるのとおなじである。 また、たとえば、私の経験では、１年生向けの「基礎物理学実験１」では、授業終了直後にアンケートをとるとかなりの割合で「しんどい、意味がない、むかつく」という反応が返される。しかし、3回生へのアンケートで「いままでで一番しんどかった授業、意味がなかったと感じる授業はなんですか？」と問うと、基礎物理学実験1と答える学生は一人もいない。 このよう、時間が経つにつれて学生の授業に対する評価、態度、向き合い方は変わってくるのが実態である。そのため、ある1時点でかつ感情的になっている状態でのアンケートは卒業までの学生の価値観として真実を表していない可能性がある。だからこそ、一部だけが外部にもれて欲しくない。前向きな評価を併記するべきであろう。	

Q6 (2) FD活動・FD支援		
snoID	内容	備考
③他部局での取り組み紹介		
1	FD活動が、質の高い(質を確保した)学生をそだてることにどれだけ貢けんしてきたか?	
37	他学の教員などによる講演やワークショップをもっと導入してはどうか。	
249	異なる部局、組織間でのFD活動のレベルを評価、公表してくれるシステム。工学部は比較的熱心にFDに取り組んでいると思っているのだが、本当にそうなのかを知りたい。	
267	他学部の事例紹介を聞いて、自分たちが迷い、考えて工夫した点などが、ほとんど同じやり方ですでに以前から実施されていた、などと感ずることが多い。 各学部(さらには、他大学までも)のさまざまな事例をいつでも知ることができるようなデータベース的なものがあればよい、と感じている。	実践事例紹介
④市大全体に関する事柄		
80	e-learningの充実	
159	もっと専門教育にも力を入れるべき。専門性の高い内容については教育個人で努力している。専門科目に関する教員の自己研修についての補助等も必要ではないか。	
197	学生・院生の教育力を活用したFD 1)文学研究科の教育支援機構のような取り組みはよいモデル 2)1)と関連してTAの積極的活用の促進(単なる経済支援ではない) 3)大学院生対象のプレFDと大学教員養成	
211	文科省や高等教育に関する学界の動向と市大の位置づけを分かりやすく解説してほしい。最近の話題には英語や略語が多く、その内容の理解がおぼつかないことがある。 □そのため、基礎講座のようなものを期待したい。	実践事例紹介
249	日常の授業へ、センターの講師が見学に来て、教え方についてチェック、指導してくれるような制度。	
⑤市大FDのシステムについて		
2	個々の授業の改善案の提示等。	
41	あまり効果が上がっているように思わないが、さりとて、どのような方法がよいものかも良く分からない。学生は学ぶことの重要性や楽しさが伝わるような、教育環境の構築するにはどのようにしたらよいのだろう。	
80	何らかのインセンティブ	

Q6 (2) FD活動・FD支援		
snoID	内容	備考
86	研究に熱心な教員は教育への熱意に欠け、教育に熱心な教員は研究への熱意に欠ける傾向があるようだ。両者のバランスを満たした教員がFDをリードすることが必要。	
92	さらに、それを教育センターはどう考え、どう支援していくつもりかといった、さらに一歩踏み込んだ発言。場を作るだけでなく、センターとして何をやります、と言ってもらえるなら納得できる。	
155	“質の高い教育活動・・・”“恒常的に一層の質の向上・・・”などの文言が書かれているが、もっと具体的なこととして何をしている、何をするつもりかが分からない。どんな部分の質がよくないから、それを向上させるのだという具体性に欠ける。	
172	部局FDを支援して下さるのがとても役に立っています。助かっています。	
183	取り上げられないが、学会内での教育方法論、教育内容に関する取組みが、重要だと思う。FDの視点を学会レベルまで拡張して考えるべき。類似の分野で、同一分野内でのノウハウが最も大事で、その意味で普遍的なFDは内容が薄くなってします。	実践事例紹介
197	教員と職員も含めたSD	
261	講義ごとに、内容、受講者数が異なるので、対象を明確にしたFD活動をしてほしい。	
266	FD活動が重要であることは理解していますが、それが実際にどの程度有効であるのか、なかなか実感できません。 また、FD活動に関しては、参加している教員は教育に対する意識が高いと思われますが、参加していない教員に対する対策も重要と考えます。 内容に関しては、いろいろと目新しい話題が提供され、教育に関する情報を入手することができます。 私自身の担当科目は知識を詰め込む必要がある基礎科目が多いので、学生が効果的に知識を身につける基本的な教育方法につきましても取り上げていただければと思います。	
269	FD活動の評価方法の確立。	
275	各学部のFD企画に、企画を作る段階から何らかの形で大学教育研究センターにも相談等をしていただければと思う。	
⑥教員向け研修		
32	レジュメ、視覚的教材の組み合わせなどの先進的、実践的支援。	
75	効果的な授業を行うメソッドなど、教員向けのレクチャー開催。	
92	精神障害がある学生について。もっと実例とその対応のレクチャー。	
197	教員の初任者研修	
228	FDシンポの受講を教員に必須にする。	
235	大学教員になりたての若い教員に対して、話し方や板書の仕方など、教授法（テクニック）の基礎を教える必要がある。	
285	新任教員に対する研修	

Q6 (2) FD活動・FD支援		
snoID	内容	備考
⑦FD情報の公開・周知		
75	メール、MLを用いて活動自体を周知してもらう。 活動報告を定期的に行うなど。	
126	インターネットによるさまざまな情報の提供、情報共有。	
141	セミナーや講演会のみならず、学外（海外）での先進的取り組みをネットで公開、紹介し、自己啓発プログラムが簡単に導入、利用出来るようにする。	
142	FD活動の重要性の周知。	
194	気軽にシンポジウムに参加できる雰囲気づくり（通知が目に留まらない）	
200	また、学外に向けて大阪市大から発信するFD事業。	
230	教員への詳細、広範な告知が必要である。	
269	FD活動資料の配布。	
⑧人員関連		
63	人員削減に反対する取り組みをして欲しい。	
158	相談できる専門の職員。	
283	他でも書いたが、結局は、人員削減により、教員一人一人に余裕がなくなっていることが問題であり、FD活動を活性化させるには、適切な人員配置がなされる必要があるものと思われる。	
⑨学生支援・学生との協力		
76	学生の意欲をつかめる方法。	
151	充分だが、学生との連携等があればさらに良い。	
264	毎回関心のあるテーマというわけではないが、なんとなく気になっているところをよく採り上げてくれていると思う。多人数教育の手法に関するものや、本学学生の特性に関するもの、障がいを抱えた学生への支援に関するものなど、大変興味深く参加することができた。実際、多人数教育の手法については、フィールドワークの際にアレンジして授業に活かすことができた。 学生の意見を聞きながら双方向で授業を進めるコツ、などは知りたい。（過日紹介してもらったツールも便利だと思うが、できればツールに頼らなくてもできるような…）	

Q6 (2) FD活動・FD支援		
snoID	内容	備考
270	おおざっぱな話ではなく、学生の一人一人のレベルに対応できるような環境が必要であると思われます。現状では難しいのですが、少なくとも情報垂れ流し型の講義はその点で失格です。例えば、高校である教科を勉強してこなかった学生と、詳しく勉強してきた学生が一緒に講義を受けています。片一方の学生に向けた話題は、もう一方の学生には難しすぎたり、あるいは簡単すぎて眠たいことがあります。どちらに照準を当てていいのか判りません。解決策は高校レベルの授業を開講することになると思いますが、教員への負担は大きくなります。	
274	学生のメンタル面でのサポートのノウハウなどについて、研修の機会があったら良いと思います。	
275	学生の意見が聞ける企画。 ただ、学生をいきなり連れてきても、事前知識がないままに好きなことを言われて終わってしまうので、ある程度大学教育の仕組み等を理解した上で、建設的な議論ができる工夫を期待したい。	
280	学生に対してあまりにもお節介が過ぎると、学生は学ばなくなるのではないかと危惧している。学生が自主的に学べる環境を黙って整備してやる事も大学教育研究センターの役割と考えたい。	
281	送り出した学生を受けいれる側が大学（もしくは，大学内の特定の学科や専攻）に何を 期待しているか，を知ること. それを大学がやるべきことなのかを，受け入れる側と大学側でお互いに議論し， お互いにやって欲しいこと，やらねばならないこと，やらなくてもいいこと，を明確にする.	
⑩FD参加への敷居		
37	FD活動（全学の）を阿倍野でもお願いできると嬉しい。	
147	場所、日程/時間帯にご配慮いただきたい。阿倍野キャンパスから杉本キャンパスまで移動して参加するのは難しいです。特に後期はみっちり実習が入っているので・・ （無理なら）・テレビ会議などでリアルタイムで会場を掲示方法で開催することを検討いただけないでしょうか？	
201	全くを持って必要性の非常に高い事であることは認識している。日常の業務を一時中止して、1か月程度の集中した物が受けられるような体制を整えていただければうれしい。	
248	多くの雑用と多様な研究系体を待つ教員が、一同に集まって議論することはほとんどありえないと思う。もう少し手軽に意見を交換、情報を共有できるシステムはありませんか。	
265	参加しやすい日時を設定してほしい。学期末の採点期間中や、部局の会議が入りやすい曜日等は避けてほしい。 実施場所も、全学共通教育棟は遠いので、学情センターを使うなどの配慮がほしい。	
⑪実践事例紹介		
40	授業のうまい先生の授業を見学する。	

Q6 (2) FD活動・FD支援		
snoID	内容	備考
42	新規なとりくみを理解検討してほし。又、本学は伝統的に教育につよい大学である。特に理系の専門教育は高度であり、網羅的である。	
67	成果を上げている施設の取り組みの紹介	
95	医学部学生の場合は、やはり人間が好きでなくてはならない。その上で、思考し病人を助け、人格及び、技術を身につけなくてはならない。やはり、良き手本となる医師像が必要でしょう。わかりやすく言えば、大学には名物Dr.が必要です。いわゆるサラリーマン医師は必要ありません。	？？？
97	他大学での取り組みの紹介。本学での具体的な取り組みへ向けた活動。今までのFD活動は、事例紹介で終わっていることが多いが、全学的な取り組みへ向けての実際的な活動などをしても良いのでは。すごく簡単なことからでも始められそうな気がする。	
118	私は教育熱心な方だと思います。学生の意見（授業中にきき取り）もできる限る聞いて、変えられる部分は変更しつつやってきました。講義がうまいと評判の先生の講義は聞いてみたいと思います。でも、ものすごく正直に書くと、話し合いのために時間を割くのは嫌です。教室や研究室で学生と話し合うこと、研究を深めることに時間を使いたい。	
149	専門分野における他大学の教育方法についての情報。	
161	事例集を冊子状で作って配布してほしい。他の教員の実践体験を活用したい。図を使ってわかりやすく。1ページ、1事例で簡潔な表現を用いて。	
170	教員が行っている講義や実習を改善させるための工夫、成功例、失敗例など（本アンケートの前半で回答した内容）を紹介する研究会を開催してほしい。⇒情報の共有	FD関連アンケートの運用
231	他大学の教育支援システムについて	
249	良い事例を紹介するシステムの確立。	
277	かつてNHKなどで放映された人気授業、名物授業の紹介で、米国ハーバード大？の物理学の授業があったと思いますが、天井からブランコをぶら下げて重力の授業をするなど、教育をする側にとって真似はできないにしても参考にしたいと思うものがありました。 できたら、そのようなものが配信されているのであれは、集めてDVDなどで貸し出すなどしてはいかがでしょうか。また、本学でも好評な講義等のDVD化でもよいと思います。	
283	全学のFDについては、これまでも十分活動がなされていると思う。 あえていうならば、活動のヒントとなるような、「名物講義」？などを行っている教員がいれば、その教員から実際に話を聞いたり、場合によってはその授業を見学してみたいと思う。	
⑫他者・他機関との交流		
37	他学の教員などによる講演やワークショップをもっと導入してはどうか。	

Q6 (2) FD活動・FD支援		
snoID	内容	備考
133	以前、ワークショップでひとつの班が提案した全学的FDの交流サロンのようなものを（型のこらない形で）定期的に行えるといいかもしれません。学情センター10Fの研究者交流室などで、テーマと提案者だけを決めて、フリートークをするなど。 あとはメールマガジンやメーリングリストに登録して、FDの企画や研修会などの情報、動向ニュースなどを配信できるといいと思うのですが、人手や時間の負担がネックでしょうか・・	
178	他学部GP担当者の招へい。	
194	メールリングなどの交流の場。	
223	有益な活動が多いととらえており、時間が許す限り参加している。他大学のFDとの交流を希望する。	
255	他大学の同分野科目の授業見学、教材の見学、集まってプレゼンで授業の紹介など ※科目数が多岐のため難しいと思います。よって各分野の学会マターのような気もします。 2012年9月にそういう学会での企画が実施される予定です。	実践事例紹介
278	他大学の講義を聴講できるような機会を設けて欲しい。	
286	全学並びに各部局で行われている英語教育について、一度、議論する場を設けていただければ幸いです。	
⑬その他		
19	自分はTIESをよく使っているが、PDFへのアクセスだけでその多機能を活用しきれていない。また学生もTIESの使い方に不慣れで、本来学情で支援あるべきだが職員も知らない者が多いと学生が言っている。教育ツールとして良いのかどうか教育研究センターで検討してもらい、有効と考えるならばもっと活用できるような支援がほしい。	
52	高校での教え方も参考に出来るのではないでしょうか。	
72	シカゴの教育システムを紹介されて、アウトカムで評価することが多くなっている。短期目標には役立つと考えるが、社会が必要としている学生はこれで育つかというと、恐らく違うと思っている。（例、東北大震災の時、東電、各関係機関の人達の行動を見ると良くわかります。大学教授でも同様です。）	
130	FDとは何ですか？いみがわかりません。	
231	高校から博士まで一貫した教育について	
271	複数人で一緒に作り上げていく授業があれば良いと思います。経済学部でも、大学院のワークショップという科目で2人で担当する科目があるのですが、シニアの先生方も含めて楽しかったという感想を聞いています。 もちろん、そうした授業は多くはなくて良いと思います（全科目の5%程度？）。しかし、全教員が数年に一度経験するよう機会があれば、相互に学ぶ事は多いように思います。 現在のオムニバス形式の講義では、単に日程調整をするだけになってしまっています。 2人が同時に講壇に立って講義するような形にできないかと思っています。	

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
①教員能力チェックの必要性	
8	大学教員は、「教える」ことに関して特別な訓練を受けていないのが大きな問題点である。各教員は自分なりの方法で授業を行っているが、それが必ずしもベストの方法ではなく、学生から酷評を得ているにもかかわらず、耳かさずに改善もしない教員がいるのが大問題である。そのような教員を洗い出し、改善されることが大切だと思う。
12	授業アンケートをとったりしても、結果がよくない教員が反省しないと意味がないと思います。そのような方ほど、反省する態度がないのが実情です。その対策を考えない限り、何ら変わらないと思います。評判が悪い授業があれば、実際に見に行ったり、学生に具体的に聞いたりなどして、改善要求を出すぐらいの策が必要と思います。
19	教員評価において教育は大変厳しい。研究ならば具体的に論文数などを数値化でき、実際の評価も研究業績主体となっている現状では教員側のインセンティブにつなげ難い。 例えば定年退職者を中心に、教育に専従し教育評価（学生および教員による）によって契約更新されるような教員や制度ができれば改善されるかもしれない。
31	こんなアンケートは労力がかかる割に効果は小さいと思う。なぜなら、授業を改善するために大切なことの一つは、各教員の授業を他の教員（あるいは誰か）が見学して、その問題点を指摘し改善させることであろう。 しかし本学ではそれをやっていない。従っていつまでたっても本学の授業はよくならない。その状況下でこのアンケートをしても、残念ながら授業の改善がなされることはない。 私の授業では、話をしている学生に対し厳しく注意している。おかげで話をする学生は少ない。とはいえ何故学生が話をするかというと、多くの授業において、学生が話していても教師が注意しないからだ。つなり、教師にきちんとした授業をしようという意識が低い。 よって、大学教育センター所属の教員は、各授業の見学に行き、問題点を指摘し、各教員に改善策を具体的に提示させるべきだ。これをすれば現状を理解する上で、このアンケートの１００倍の効果があるだろう。
69	教員が学問的におもしろい研究をすれば、学生ももっと頑張るのではないか。
137	教員の能力をチェックすべき。教員の能力が高くなければ教育の改善などあり得ない。
142	教育への活動を評価するシステムが不十分。
166	教育体制における矛盾を解消する取り組みの推進。例えば博士号をまたない教員が博士審査に加わるような矛盾を排除する。
197	FDが機能する大学教員養成体制の構築
230	大学院教員が顕著に未熟である。
263	担当している学生の数を考慮した、教員の評価を。
②教員への支援	
62	教員の教育・研究時間をふやすこと（種々の会議に時間をとられている）
142	教員のスキルアップのサポート体制が不十分。
166	教育の成果に見合ったインセンティブ（研究費など）の提供。

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	**内容**
255	教育活動に対する表彰制度のようなもの
271	様々な新しい授業が創出されるしかけを作る 例えば、新しい授業をしてみたいと思った時に、それが実現できるような余裕を制度的に持たせてはいかがでしょうか？研究におけるサバティカルのように、申請すれば半年間は普段担当している科目から解放され、同じコマ数、好きな教育ができる制度を設けるなどです。
③他教員・部局との情報交換	
62	総合大学として学部間交流（教員も学生も）を推進策を考えること。
80	全課程のシラバス公開を望む。全体を見わたしてはじめて個別の授業計画を意味あるものにできる。
91	学部間の連携が欲しい。
102	各学部の連携が大事。
133	FD活動の意義を理解するとともに、教育の可能性を広げ、教員のリカレントを行うきっかけとして、若手研究者（D課程の院生や非常勤など）、には気軽に参加しやすい場所（学情1Fなど）、興味をはらわない教員には年に数回の参加を義務付けると良いかと思います。 その上で非常勤教員であってもFDで授業活動の工夫を発表し、他の教員に刺激を与えるとともに、本人の教育業績としても一定の評価につながるような形になると活発化するのではないでしょうか。 教育体制、授業設計については各学部間で互いのやり方が見えにくい現状から、総合大学としての利点を十分に生かしきれていない原因となっているような気がします。 同じベースでの教育・研究を目指すというのではなく、違いの理由を理解しながら、それぞれの特性を生かしてプラスの効果を生みだせる体制ができないかと思います。（それができれば、大阪市立大学の強みとしてアピールできるのでは？） そのためにも、教育、研究のやり方、学問の方法は違ってもどういう人間に学生を育て、社会に送り出して（また教員は社会に何を還元するのかということにもなるのでしょうか）いくのかという目標は共通に持っていた方が良い。（大学としてのアドミッションポリシーとのかかわりの中で）でしょうし、各教員が常にそれを意識として持っているべきだと思います。（知っていて当然という風潮で、逐一説明される機会がないため、かえって知らずにいると思われるので）
255	他学科履修制度（他学科研究室配属制度）
261	学部の枠を超えた、専門教育科目の提供。理系学部でも知的財産権や経営論などは、学生のニーズ、興味の高い分野である。専門教育科目や大学院講義の必修科目を他学部の教員が提供するシステムを作り、総合大学の強みを発揮する。また、一定数の単位を他学部、他学科から修得することを強制する。その結果、他学部の学生がどのような講義に興味を示すかを容易に判断できる。
267	学部をまたいだ「副専攻」の設置など、全学共通科目に限らない、幅広い「専門家レベルの教養」を身につけさせたい。「総合大学ならではの教育」とは、そのくらいの「総合」性を持つべきだと思う。「創造性」は、一見互いに結び付いていない過去の知識と経験から生まれるものと考えている。

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
271	様々な新しい工夫や授業内容を各教員が吸収し、応用できるしかけを作る Q06にあるようなFD関係の会議は、追加的負担になっています。参加する教員も限られていますし、意識を高める、出席を取るなどの強制力に頼るしかありません。また、そこで身につけたものを、実際の授業にどのように反映させるかを考え、実行するのも追加的負担になってしまいます。むしろ、各教員が（負担感を感じずに、むしろ楽をしようと思うと）自然に吸収し、授業に反映できるしくみを作ればと思います。 他の教員が自分の授業の準備をするプロセスで、その成果を共有する仕掛けを作るなどが考えられます。例えば、教材作成の補助を専門に行う技術職を設けるということも考えられます。その人と一緒に教材を作成するプロセスの中で、自然と様々な試みが組み入れられる）などが考えられます。
283	他の部局間であまり相互交流がないように思われる。まずは、大学院レベルからでも、複数の部局が運営に関わるコースまたは授業科目を試験的に取り入れてはどうか。 主として専門教育に携わっている身からすると、共通教育で何が行われているのか、ほとんど把握できていない。（例えば、全学共通教育のシラバスは、ネットでは見られるものの、各教員には配布されない：確かに配布されても、見る時間もないが……）これではいけないと思いつつ、何か、概略や特徴を知る機会がワークショップや講演などの形であるとありがたいようにも思う（とはいえ、なかなか時間がとれないかも知れないが）
④全学的体制	
75	学内外での人気講師などを招いた模擬授業などを行うなど、大学全体として教育改善に取り組んでいる旨を周知される方がよいかと思います。
197	教育推進本部の機能の実質化、それが無理ならそれに代わる実行力のある組織の立ち上げ
197	全学の英語教育をデザインし運営できる体制の構築
197	全学の情報教育をデザインし運営できる体制の構築
197	大学としての初年次教育のシステム化
197	特別なニーズを持つ学生への全学での支援体制の構築
218	学外実習、社会経験実習に対する全学的支援
231	編入、推薦、前期、後期、入学者の追跡調査（成績、進級率、進学等）→結果次第では後期他廃止。
272	歴史上かこれまでの運営上かなにかわからないけれども、大学全体で教育をやっているように思われないところもあるような気がする。
289	部局の特質にあった教育･FDのあり方を損なわない形で、それを一層発展させ、実質化するための全学的教育改善支援･FD支援のあり方を考える必要がある。とくに、本学では日常的･恒常的な個人のあるいは部局の教育改善･FDが活性化してきている。本学の長い歴史の或るFDは、新しいステージに入ったとも考えられ、そのような新しいステージにおける教育改善支援･FD支援を検討する必要性が出てきている。
⑤時間・余裕	

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
19	学生自身の資格偏重傾向と、学生を確保せんがために大学自体も資格付与に走る状況の中国家試験などを考えると授業は限られた時間の中で必要な知識を詰め込む方向に行かざるを得ず、グループ討議などの考える講義の実践に結びつけ難い 人員削減の中で良質な講義を提供することはますます難しくなっている。このような状況下で主要な国立大学と伍して研究も教育も両立して行こうとするのであれば府大との一本化についてもタブーとせずに議論する必要が出てくるが、その覚悟はまだ一般に無い
40	教員の負担をふやさずに、学生の学ぶ機会をへらさないような工夫をしてほしい。
63	商法の人員を補充してほしい。人手が足りなければ学生に対するきめ細かいケアができない。
86	教員が専門外のことを一生懸命勉強して、準備して学生に教えている現状である。総ての分野の専門家をそろえることは無理であるが、非常勤講師等の活用を積極的に行うべき。
110	日常臨床で多忙を極め、全くの余欲がない状況では、改善も限界がある。スタッフの拡充が必要。
149	人手、予算をかけないと効果が上がらない。各教室にこれ以上負担をかけるのは不可能。
156	今の教員はあまりにも忙しすぎる。このことが教育力の低下を招いている最大の原因だと考える。FDについて言えば、過度のマニュアル化を避けること、教員に過重な負担を押し付けないことが重要だと考えている。
263	教員の数が足りない。 基礎教育（実験科目）にもっと非常勤を。 実態に合わせたTAの配分を。
279	セクレタリアートの充実 誰でも記入できるはずの書類に翻弄される「雑務」の多さが、ファカルティの時間を奪い、ひいては教育・研究の質を貶めている。たとえその記入にどれほどの意義があろうと「様式」への記入は、徹底して専門書記事務官が行うべきである。
⑥国際化	
10	国際性を身につけた学生を養成するために外国の大学との単位互換制度の確立、留学支援、外国からの客員教授を招聘し授業担当をしてもらうなど、制度の整備を進める必要がある。 留学生に対する日本語教育体制が貧弱であり、少なくとも数名の専門教員を擁する日本語教育センターを設置すべきである。
72	日本、世界の発展に役立つ学生とはどのような学生か。
100	海外の大学との単位互換etc.、相互の教育の質的保証をおこなった上で、海外留学を学部から積極的に推進し、より「外向き」な関心、知識をもつ学生を生みだすシステムを。
197	国際化への対応

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
233	国際的に活躍できる人材の育成及び教員の配置が必要と考えます。 留学生の受け入れや交換留学の推進、ならびに研究機関としての設備の充実がはかられることが重要である。 国際社会で活躍できるユニークかつ柔軟な人材を輩出することで、より多くの学生の獲得そして総合大学としての意義をより色濃くアピールできると考えます。 英語使用の機会を増やし、また教員がそのロールモデルとなって学生へよい刺激を与えていけることが望ましい。
238	社会情勤との、とりわけ国際的ネットワークの強化。
269	海外の大学との単位互換制度の充実。
275	「国際化（またはグローバル化）」を標榜するのであれば、現在の大学界全体の「グローバル化対応」の実態について良く知り、その上で本学はどうするのかを決める必要がある。 海外の大学とのジョイントディグリーなどを積極的に打ち出すという方向性もあれば、グローバルに移動していく人材が一時的に滞在して基礎を作るために学ぶ場としての機能に集中するという方向性もあるかもしれない。前者であれば大学の仕組みをそれなりに変えないといけない。後者は現状の仕組みでも対応は可能だが、それでもある程度の調整は必要である（留学生支援体制の強化、科目ナンバリング制の導入、シラバスの外国語表記など）。 新しい取り組みは、その取り組みの必要性が教職員に理解されないと前に進まない。だが、自然に任せておいたのでは必要性は理解されない。実際にある方向（例えばジョイントディグリー）に進み始めれば、理解は広がるだろう。だが、実は新しい取り組みが進んでいなければ、その方向に進むこともできない。これは相当なジレンマではある。 このジレンマをどうやって解決するかは難しい問題だが、「大学のグローバル化」とは一般的にどのような意味を持つのかということを、広く知ることがまずは必要ではないだろうか。
279	学生の他国大学での学習を推進すること 留学経験の多様化をはかること。
⑦他機関・地域との連携、そのための予算など	
62	他大学の教員による特別授業やセミナーの機会をふやすこと。それは予算をつけること。
97	学会、研究集会、研究者会議を積極的にキャンパスに招致する。「国際」ならなお良い。このためのインフラはあるものの、配置・整備・費用がいまイチです。工夫次第で非常に良くなりますので、是非検討すべきです。

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
147	最近報道された国内屈指の国立大学の大学改革方針として、例えば「国際競争力のup」という最重要課題を設定して、東京大学では9月入学を導入することになり、一橋大学では4月入学9月開講を決定しました。 本学では、最重要課題を「地域連携。貢献」と考えてよいのでしょうか？もしそうなる、この課題と教育改革を別々に考えず、リンクさせながら取り組む組織・システムを開発/設定していた方がよいのではないでしょうか？ 私は文化交流運営センター委員、ならびに市民大学構想検討委員会委員を任めさせていただきながら、今年度の私個人の考えとして後者検討委員会に提案をしました。「大学教育研究センターの専任教員が中心となった教育/研究と地域貢献/連携の一環としての公開講座のコーディネートに携わる組織化」がその主旨です。結局目的が異なるとの理由から脚下されました。確かに若干、短絡的発想があったかもしれません。しかし、今後はもっと地域や国際社会に情報発信したり、貢献活動として知見を実用化/実践する事をGoalに据えた教育・研究活動を推進するというスタンスが明確に伝わるような組織や施設づくりは有効だと考えます。 例えば「健康で豊かな大阪市の再建」みたいなテーマだと、全ての研究科に取り組み可能な教員はおられると考えられます。学部や院でもその統一テーマに向けた専門的サブテーマが設定できると思われます。その取り組みや成果は公開講座や地域/国際社会で実践していく形でで「貢献/連携」につなげていけるのではないでしょうか？ 結論：「大学教育研究センターの組織充実を前提にFDと地域連携/貢献を有機的につないでいくことを最重要課題として、改革の核とする」でございます。
264	公立大学として、あるいは統合が進んでいる中で、厳しい状況なのは理解しているつもりではあるが、非常勤講師や、ゲストスピーカーの予算など、学生の問題関心を喚起するような、現場の生の声を届けられるような機会、制度（講師謝金、講演会補助など）があるとよい。
264	公立大学としては、地域社会との連携が求められていると思うが、そうした活動を支援するような機会、制度、組織としての理解（事務のサポート）があるとよい。
⑧“大阪市立大学”とは	
40	大阪市立大学はあくまで「研究型大学」であるべきだ。
72	大阪市の発展に役立つ（短期・長期）学生とはどの程度の学生か。
158	特任として、勤務していますが、色々な立場の教職員が在籍しているため、全体の把握が非常に難しく、全体がどのような方法に行っているのか分かりません。日々学生と接する中で、「本学の教員として」どう対処すべきかと考えているが、大きな大学の一部だと考えると、無責任になりかねない。特に有期雇用で身分保障のないポストにあり、どこまで尽力するか迷うことが多々ある。本学ならでは、というような方針や原則をまず教員が自覚すべきかと思う。
159	社会学教室では、毎年大阪を対象に都市社会調査を実施し、学生たちは社会調査士資格を取得している。市大が都市研究をウリにしているのであれば、都市に関連する授業のあり方や教育体制をもっと充実してもよいのではないか。社会学以外でも、都市研究や調査は頻繁に行われている。「市大の教育・FD」というのであれば、市大の研究教育の特徴を活かしたことを考えてほしい。現在のFD関係のイベントについての連絡をもらっても、内容的に関心がもてない。市大らしいと思えるものがない。市大らしい教育と、「分野別質保証」の基準という折り合いをつけることが今後の課題になると思う。
178	教育団以外の構成員のFDに、どう取り組むのかが本学の課題。

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
211	単位互換や単位認定を積極的に認める方向にあり、大学とくに市大の授業の価値が損なわれているとも考えられる。
249	公立大学で行うべき教育とは何かを、明確にして欲しい・自分でよくわからないので。
268	公立大学すべてに当てはまる問題かもしれないが、本学の立ち位置が不明確である。大学としての先端研究に集中するのか、地域の人材を養成する大学としての役割に専念するのか？　医学領域でいうと、先端研究は阪大や京大が圧倒的にリードしており、相当の改革を行わないとキャッチアップは無理。教授を含め教員選考も旧帝大系の教員を幅広く積極的に採用すべきであろう。一方で、地域医療に貢献するというのであれば、地域医療に根差した活動をより積極的に行うべきである。このような指摘をするのは、学生や大阪市民自体が本学の立ち位置を良く理解できていないと考えるからである。「教育のあり方」を議論する前に、本学のポジションを明確にすべきである。
272	教育にウェイトを置くのか、研究にウェイトを置くのかをはっきりさせてほしい。
274	戦後、新制大阪市立大学の発足に当たって、当時の近藤博夫大阪市長は、「大阪らしい大学」という目標像を述べた。関一市長の「建学の精神」は折に触れて言及されるし、初代学長恒藤恭の大学論は、現在、大学史的な研究が進められている。しかし、「大阪らしい大学」＝「大阪市立大学らしさ」については、掘り下げて検討されたことがないように思われる。 東京、京都、神戸、東北、九州の大学ではなく、「大阪らしい大学」とは、どのような大学なのであろうか。それは、結局、大阪という都市の文化的個性につながるものであろう。これだけ情報交通が盛んな時代になっても、都市の文化的個性は消えていない。たとえば、大阪の漫才と東京の漫才では、新作であっても笑いの質が全くちがう。違いは歴史的遺産ではなく、それを再生産するするメカニズムが現存しているのである。私は、大阪の文化的個性は「非権威主義」というのが、最も基本的ではないかと思っている。東京、京都、神戸、横浜、金沢など、他の都市は、首都、古都、西洋文化、城下町等々、多かれ少なかれ、権威の「中心ー周辺」構造をもっている。大阪には、幸か不幸か、それがない。 大学とは、そもそも権威的な存在である。「権威のない大学」は形容矛盾であろうか。そうではない。近代日本の教育史においては、大学の権威は「作られた権威」であった。とするならば、「権威ぶった権威のない大学」こそが、「大阪らしい大学」「大阪市立大学らしさ」ではないかと考える。「非権威主義」というキーワードで括ると、小竹無二雄の斬新な理工学部構想も、戦後の商経学部のマル経一辺倒も「大阪のマル経」であり、様々な個性が「市大らしさ」に結びつく。 大学の個性を把握することは、大学の今後の進路を考える上でも、導きの糸となるであろう。
289	また、総合大学ならではのあるいは、本学ならではの教育を再発見･再評価して、それを軸に、少人数教育も大事にしながらきめ細かい教育を行い、学生の自律的な学習を促していける指導を行い、環境を整備する必要があるのではないか。
⑨授業・カリキュラムの改善	
46	さまざまな学校、企業、医療機関などへのフィールドワークなどの機会を増やしていくのも一つではないでしょうか。
97	教員と学生で博物館に行く、などというのはどうでしょう？プロの研究者の引率する博物館が見ごたえがあると思いますよ。
100	学部大学院の就職キャリアデザイン/研究者志向アカデミックデザインと分かりやすくクリアに分けて効果的なカリキュラムが作れないか。
128	学生の体系的な履修を保証するシステムの整備。ガイダンスや履修例の提示は既に文学部では行っている。（進路別の科目選択メニューの提供）

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
177	何について、どこまで深く学ぶかは、本学のような大学では、学生が主体的に考えるべきことであり、教員の側が、適切な助言で留まらず、こと細かく指導しようとしても、その努力は空回りするだけである。 最高学府で学んでいるという自負心のない学生に対して、教員の方が調子を合わせて授業のレベルを考えたとしても、学生の誇りを喪失させるだけである。 ただし、カリキュラムに関しては、あまりに多くの自由な選択肢を与えるのは、学生を思考停止に追い込むだけなので、良くないと思う。
194	府大との統合を考えているのでしたら、大幅にカリキュラムを変えることになると思われます。特に数学に関しては、全学部での共通教科書があり、それに沿った授業を展開する府大と、学科や教員によってテキストが異なる市大では大きな差が生じています。 自主性を育てるのでしたら市大の方針がよいのですが、学力の底上げという意味では府大のやり方も間違いではないと考えます。ゆとり教育による大学生の学力低下が世間をにぎわせていますが、それに対処しないことは大学の怠慢と思われても仕方がありません。
197	教学IRに基づいた教育システムの構築
197	TAを含めた授業支援体制の充実とTAの訓練プログラムの開発などのプレFDプログラムの開発とその実施体制の構築
197	全学共通教育の改革
197	学士課程、大学院課程を通した教育の見える化
211	教養科目（共通教育）が軽んじられ、専門学校（の高等教育）のようになっているように思われる。
211	教育課程の一環として長きにわたって実施してきた学外実習が、インターンシップと混同され、就職のための取り組みのように誤解されている。これは、本学の中間計画の記述を見ても明らかで、本来の教育の意義を再度認識すべきと考える。
211	教養課程の重要性を明確にし、将来の専門家に必要となる倫理観を身につけさせ、教養豊かな人格形成を図る仕組みを実現すること。 就職を全面に出した取り組みは自粛し、本来の教育とその成果として社会に貢献できる（就職できる）ような取り組みを実現すること。
218	倫理教育の充実
235	専門基礎科目で一般教養的な内容のものについては、全学共通教育科目として開放して、学部横断的に受講できるようにする。（これまで以上に積極的に）
261	「大阪落語への招待」のように大阪で活躍している、文化人や大阪の博物館学芸員などをゲストスピーカとして地域の文化、歴史を学ぶ場を増やすこと。受講生が集まる講義を増やすことが必要。
261	講義と実験、フィールドワークなどを組合わせた、体験型の講義を増やす。実際に体験することで、学生の興味が増すと考えられる。
276	少人数教育の利点。
286	これまでの経験から、市大の学生の能力は高いと感じているが、他方において、その能力に相応しい表現能力が備わっていないように思われる。今後改善することが求められるのは、理解力もさることながら、表現力に比重を置いた授業が重要ではないかと考える。
⑩学生の声	

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
10	教育カリキュラムの改変を行うたびに、学生の質が低下して来ている。専門性を薄め、広く学ぶという方向を取ったが、結局は広く浅く学ぶ結果となり、学生の質の低下を招く結果となった。本学の特徴であった少人数教育を徹底し、ゼミ。演習などの授業を強化する方向で、質の高い学生を養成して行くことが望まれる。
30	学生がきちんと予習、復習をしなければいろいろ教育をいじっても仕様がない。
52	現代の大学生は昔の高校生に近づいているような気がします。成績表の保護者への通知が必要になっているような気もしますが、どうでしょうか。
92	教員に訪ねるのも重要ですが、学生にもっと聞いて下さい。自宅で何をしているのか、学生にとって大学とは何か、何故勉強しないのか、何故本を読まないのか・・・学生のレベルはここ数年でかなりひどくなっています。
159	専門教育では、今後分野別質保証のガイドラインに沿ったカリキュラム編成が必要になってくると思われる。
170	全学の基礎科目の授業において、明らかに興味をもっていないのに、授業を選択する学生が多く存在する（単位取得目的）。このような学生の存在が授業全体の雰囲気をこわし、こちらのモチベーションも著しく低下させている。具体的な対策は浮かばないが、このような学生が現れない仕組みが必要に思います。
211	企業の求人の時期が早まり、3回生の前期からスーツ姿の学生が目立ち、授業は二の次として認識されている。
211	大学の就職担当が、学生の意識を煽っているようにも思われる。少なからず、大学主催の説明会等に参加し、研究に身が入らない。また、就職未定者に卒業後研究生として就職活動に取り組むように指導したが、事務担当者から、9月卒業なら新卒扱いになるとアドバイスされ、留年した学生がいる。
234	入試を多様化するといっても、学力の最低保障はしてもらいたい。学力も伴わずに入学を許可するのは、卒業を保障できないことになり、結局学生を不幸な方向にもっていくだけのケースが多くあったと思われる。大学のサギ行為と批判されかねない。
244	医学部では入試が理科は2科目選択になっている。入試で生物を選択する学生は少ない。その為1回生の生物学基礎知識の差が大きく、講義するにあたどのように対応すればよいか問題と考えている。 医学部は6年生で、4回生の終わりに共用試験OSCEおよびCBTおよび6回生では国家試験がある為、学位は学年が進むごとに熱心に勉強するようになる。一方、他学部は3回生から就職の準備をしなければならない状況になっている。 これでは大学教育で最も大切な2～3回生の時期に落ちついて勉強ができない。これは日本の教育制度の崩壊と考えられる。 大阪市として、就職試験の開始時期などについて文科省、産業界に訴えていく必要がある。
281	大学として本質的に何を学生に身につけてもらって卒業させるのか，を明確にし，そのやり方については，先生に対してとやかく言わない，むしろサポートする，というのがよいのでは無いでしょうか． 勿論，卒業した学生を受け入れる側の大多数が，「そんなやり方の教育を受けて来る学生をウチに入れるのは困る」，と言われれば，その先生には，その先生のやり方を改めて頂く必要があります． 橋本流に言うならば，「民意で決まったことだ」となるでしょうか．．．．言われる方はたまったものではないですが，あからさまな苦情が出てしまった場合には，やはり対処して頂くしかないかと思います．
⑪情報発信	

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
139	教育は時間と労力がかかるが成果の表れ難い分野だと思うので、定期的な情報発信が必要。特に市の幹部や市長に現場を見せるのは重要だと思う。同じ意味で父母にも大学の姿を見せるべき。授業参観があっても良い。
197	大学ホームページでの教育内容紹介部分の改善
261	講義ライバリーの設立。本学の歴史を振り返ると、非常に有名な研究者やすばらしい教育を実施した教員が多数在籍している。しかし、それら教員の講義はいまや体験することも見ることもできない。教員の講義を録画してライバリーとすることで本学の貴重な財産を作ることができる。有名教員の講義や評価の高い講義は、学生の興味も高く教育に大変有用である。
⑫対学生支援	
24	卒業生にアンケートをするべきである。
32	今計画されている「ラーニングコモンズ」の施設はよいものと思う。
49	個人的に多くの自分の専門領域のカンファレンスをしており、そこに自由に学生も来れるようにしている。 そういった自主的にされている活動はもっと評価されるべき。又、そういったカンファレンスの評価が学生からも評判として上層部に上がっていくと良い。学生自身の自主的能動的な行動がないとなかなか教育はむずかしい。あのゼミ、あのカンファレンスに出ると得をする、といった口コミが最も大きく。そういったカンファレンスと大学側が評価対象として尊重されたらと思う。
97	学生の居場所として、教員・学生が集まっているlearning assistant を作る。これは先の研究セミナーでも話題になりました。阪大にもあるようですね。
97	このセンターに大学院生を多く配置するためにteaching assist として雇う。そのための費用の捻出。これは、お金ではなく、環境の整備・居心地の良さ、などで誘導することもできますので、まずは、給料よりもその空間の居心地よさ、そういう所に配慮すべきです。それに、こういう施設は建物の5階に作っちゃだめで、1階にガラス張りにして作るなど工夫が必要です。高原記念館、学情1階など、やりようはありそうです。
97	上記の学会などを学生が聴講する/できるような仕組み（単位的な仕組み）、しかもある程度インタラクティブになるような仕組みつくる。例えば、会議の主催者には旅費、会場費、お茶菓子を提供するなど便宜をはかる。その対価として、学生の聴講を許す、質問も許す、会議の前後に聴講する学生向けの講義を1コマずつやってもらう、などお願する。学内の施設でなくとも市内の施設を使う学会などに積極的に便宜を提供してお願してはどうでしょうか。候補の数は年間かなりの数になるのではないでしょうか？
156	教育は結局は教員と学生の信頼関係、心の触れ合いに帰着すると思う。その意味では、教員が学生と接する時間的余裕をいかに確保するかが重要になる。
161	入学時と卒業時に、「大阪市立大学と私」という教育希望アンケート（入学時）と教育達成アンケート（を卒業時）を行う。この2つを同一人物についてつき合わせて効果を判定する。 本学固有の課題ではないが、3回生に11月頃から4回生の6月までの就活字への対応は真剣に考える必要あり。教育へのマイナス大だ。
203	シラバス等に捉われすぎない、目の前の学生を教育することを考えれば、形を整えることばかり尽力していても仕方ないと大多数の教員が思っているのでは？どのような学びをしたいのか、それこそ学生に聞けばいいと思う。
236	オフィスアワー等、学生と会話が気軽にできるようにするといいかも。試験前だけ質問タイムを設けていた（いる）が、学生にとっては理解が深まるらしい。

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
⑬その他	
24	不正行為罰則強化するべきである。
32	基本的に小教室は全部改修すべき。教室不足である。 大教室で視覚教材の利用、オンライン機材の利用がしにくいのを改善してほしい。
77	特にありません。自己研鑽で精一杯の状況です。
89	府立大学との統合問題がどうなるかにより、今は意見できません。
101	診察の合間にできる限り研究、教育を行っているが、教育に対して十分な時間をさけていないことは、分かりきっているので、それに対する教員評価をされると改善する見込みもなく、モチベーションは下がる。日々の診療を見せていくことと、時間を有効活用し面白い授業を行っていく努力は続けていく。 医師の先生（教員）－学生間の関係は、先輩－後輩関係又は職人の師弟関係に似ていて、大阪市立大学全体の教員のあり方とかなり違うように思っている。 本学時代の英語も役に立たなかった（英文学の訳）ので医学部としては医師になる為の方向性に本学時代も向いていた方が良かったが、（医学英語や会話など）今の本学教育がどうなっているのかは知りません。
130	市長とは関係のない運営をのぞむ。
141	基本的には予算をもっとつけて、教育環境（設備面etc.学内のどこでも、Wi-Fiなどの無線LANを充実させる）を向上させると良い。 有識者や先進的プログラム先行者によるサポートを充実させる。
142	学生の現状把握が不十分。システムとして機能していない。
151	総合的にみて、現在も充分だと思います。維持していくことが重要と思います。
166	本学の先人たちが築いてきた実績と名声に恥じないだけの研究・教育成果の創出。そのためには、学位論文の認定において、妥協しないことなどを徹底する。
175	「そんなことはない！」という声も聞こえてきそうでうすが、なんとなく様々なものが「がんばれ！」「～に向かって」というように、一つの方向へ全員が息つくひまもなくがんばる（がんばらされる）傾向にあるように思えます。 自分自身は、教育、研究にそれなりの関心を持っていますが、なまけ者なのでしょうかしんどい時もあります。もっと自分の得意分野を伸ばせればと思います。全員が同じように優れていなくてもいいように思います。もちろん苦手な分野を克服したい気持ちもあるので、そのチャンス（教えてもらえるよな）は必要な気がします。 なんか、自分の中でも「がんばれる自分」と「しんどい自分」が交錯していて不思議な感覚です。あまり関係のない事を書いてしまいすいません。
197	大学教育に対する意識改革 進学率5割を超える状況へ対応した大学教育観への転換が必要
197	府市統合（府大市大統合も含めて）への対応

Q08 大阪市立大学全体の教育、およびその実施や改善、学内の教育改善の体制のあり方への要望	
snoID	内容
217	特になし 学生も教員もやはり“人”が問題
220	回答に以外に時間がかかったので省略。
255	学生による授業の感想紹介（Webでできるように） 多分野を学ぶきっかけになるかもしれません。
270	どうして今になって、この議論がされるか不明です。学生側の要望に応えるのが大学の義務なのでしょうか。大学全入時代を迎えて、大学は高校化されつつあります。それに加えて、管理社会が進んで、仕事の量が増えすぎています。細かい要望に応えるだけの体力、時間がほとんどありません。大学教育改革に関われるほど余裕が精神面でもありません。
272	汎用のソフトウェア、例えば -ice 等に関して、大学全体でライセンスを扱うことなどはできないか？
279	中長期在外経験を、授業カリキュラム以上に重視 授業を受け持つ教官および学生たちは、在外経験という得難い機会を得るにあたり、学期中ということで他の授業との兼ね合いでそれを見合わせる傾向があるが、それは非効率である。長期休み中に詰め込むのではなく、学期中でも中長期在外経験を容易にすべきである。
285	初代学長の恒藤先生は滝川事件で教授を辞職したとき、「死して生きる途」と題する文書を「改造」に寄稿した。そこでは大学および大学教授の使命として以下のように述べている。 ---------- 「自由独立の立場から真理を探究し、真理を教えることにより、社会及び国家の存立発展のために貢献する公共の機関たること」において、大学はその独自の存在理由をもつ。そして、「斯かる大学の本質を擁護するために努力し、これを傷けむとする一切の侵害に対し断固として抵抗すること」が右にいはゆる大学教授の基本的実践の内容をなすのである。大学における諸講義を通して、学生は単に専門的知識を修得すると云ふだけではなく、進んで正確なる学問的批判力を養ふことを要する筈であるが、そのためには、必ずや大学における諸教授が、茲に学示したような基本的実践の態度において、日常の講義を行ふのでなければならぬ。そして、大学における講義が他の諸種の学校における講義と本質的に異なる所以は、何よりも先づこの点に求められるべきである。 ---------- 市長が大学のガバナンスのあり方を変えようとしているようであるが、今こそ、大学の本来の使命を思い起こし、ここに示された基本的実践の態度において日常の講義を行うことに心がけるのが重要であると考える。同時に、「学問の自由」を失ってしまうことがないよう、それを支える教授会やそれに準ずる教員会議が果たしてきた役割を思い起こし、特に、学則にも示されているように、「教授会などが人事に関する審議をする」という大原則を決して曲げることがあってはならないと考える。 先人たちの身を挺する努力のたまものとして憲法23条で「学問の自由」が保障され、旧教育基本法には「教育は、不当な支配に服することなく、国民全体に対し直接に責任を負って行われるべきものである。」と記されるに至った。これを失ってしまうことがあってはならない。まさに教育の基本である。